五代深堀Ⅰ遺跡No.2

五代南部団地地区計画区域内工場誘致に伴う

埋蔵文化財発掘調査報告書

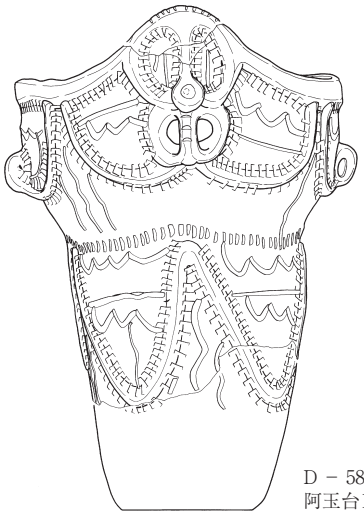
２０１５．３

前橋市教育委員会

五代深堀Ⅰ遺跡No.2

五代南部団地地区計画区域内工場誘致に伴う

埋蔵文化財発掘調査報告書



Ｄ－58号土坑出土
阿玉台Ⅲ式土器

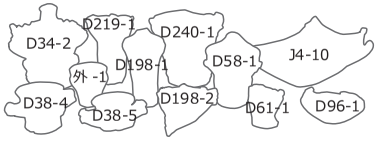
２０１５．３

前橋市教育委員会

五代深堀Ⅰ遺跡№２　調査区全景（上が北）

五代深堀Ⅰ遺跡№２　調査区全景（南から）

五代深堀Ⅰ遺跡№.２　縄文時代　出土遺物



例　言

1　本書は、五代南部団地地区計画区域内工場誘致に伴い実施した、五代深堀Ⅰ遺跡№.２の埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2　調査は、前橋市の委託を受け、前橋市教育委員会の指導・監督のもとに、有限会社毛野考古学研究所が実施した。調査担当者は同研究所員　柴田洋孝、小此木真理である。

3　発掘調査期間は、平成 26 年７月７日～平成 26 年８月 29 日である。
整理作業期間は、平成 26 年８月 30 日～平成 27 年３月 10 日である。

4　本調査の調査区の地番、面積及び遺跡番号、並びに略称は下記のとおりである。
所在地地番：前橋市五代町 1800 番地１　　面積：２，２９０㎡
遺跡番号：００５５　　略称：２６Ｃ２５

5　本調査の遺構測量は、小出拓磨、竹中洋治（有限会社毛野考古学研究所員）が担当した。

6　本書の編集は前橋市教育良委員会指導のもと、有限会社毛野考古学研究所が行い、執筆はⅠ章：藤坂和延（前橋市教育委員会）、Ⅱ～Ⅵ章：小此木真理、 遺物実測図は柴田洋孝・小此木真理・淺間陽・宮田忠洋・日沖剛史・髙橋清文・土井道昭（有限会社毛野考古学研究所員）が担当した。

7　調査に関わる資料は一括して前橋市教育委員会文化財保護課が保管している。

8　発掘調査・整理作業に関わった方々は下記のとおりである。（五十音順、敬称略。）
［発掘調査］赤尾嘉章　赤見公一　秋山文男　淺川正行　淺間陽　新井正治　井口ヒロ子　石井元秋
石倉稔夫　石田修慶　飯塚常子　碓井俊夫　金田守　亀田浩子　北野進二　北山信一　小関泰洋
佐藤閧雄　佐藤陽子　鈴木正　関口勝司　関根清子　高田和正　高橋孝子　髙橋清文　武田茂子
竹生正明　勅使河原幸枝　富田幸男　永井述史　中島勝由　西島誠　萩原秀子　日沖剛史　松井昭光
南田法正　水沢美智恵　村田幸子　森山恵子　森山孝男　柳沢敏子　山崎知晴　山本良太
［整理作業］青木あつ子　青木麻耶　青柳美保　石山亜希子　池内麻美　磯洋子　井上太　内田恵美子
大滝千晶　鬼山由子　小野沢絹子　合田幸子　國分文　小谷貴世美　関小百里　仙波菜津美　高橋奈緒
高橋真弓　田村健志　永井祐二　成田恵美　根本正子　半澤利江　伴場りく　日沖美奈子　深谷道子
真下弘美　山下奈邦子

9　発掘調査の実施から報告書刊行に至る間、以下の機関、方々のご指導・ご協力を賜った。記して感謝を申し上げる。（敬称略・順不同）
秋田かな子　池田敏宏　江原英　岡野茂　亀田幸久　川野京子　北野博司　倉石広太　坂田敏行　佐藤俊
ＪＲ東日本高崎給電メンテナンスセンター　清水克彦　鈴木徳雄　菅谷通保　関根慎二　谷藤保彦
塚本師也　寺崎裕助　外山政子　長澤展生　永井智教　中村岳彦　三浦京子　向出博之
山岸洋一　山口逸弘　有限会社スミヤ測量　有限会社ＫＥＬＥＫ　綿田弘実　綿貫秀哉

凡　例

1　挿図の座標北には、日本測地系（国家座標第Ⅸ系）を使用した。方位記号は座標北を示す。

2　グリッドは、原点（X=46,200･Y=-64,700）より、西から東へＸ０、Ｘ１…、北から南へＹ０、Ｙ１…と付した。

3　等高線や断面図中における水準値は、海抜標高を示す（単位：m）。

4　掲載の遺構図及び遺物実測図の縮尺は以下の通りで、遺構平面 1/60・150・200　遺構断面 1/40・60
土器１/３・４・６　土製品１/２　石器・石製品１/１・２・３・４・６

5　本書掲載の Tab. １には国土交通省国土地理院発行の 1/200,000「長野」・「宇都宮」、Tab. ２には昭和 54 年同院発行の 1/25,000 地勢図「前橋」・「大胡」・「鼻毛石」・「渋川」、Tab. ３には「前橋市都市計画図」1/2,500 を一部加工して使用した。

6　土層断面の土色及び土器類の色調名は『新版標準土色帖』（農林省農林水産技術会議事務局監修　財団法人日本色彩研究所　色票監修）による。

7　遺構名の略称は以下の通りである。縄文時代竪穴建物跡…Ｊ、奈良・平安時代竪穴建物跡…Ｈ
竪穴状遺構…Ｔ、掘立柱建物跡…Ｂ、溝…Ｗ、土坑…Ｄ、ピット…Ｐ、道路状遺構…Ａ

8　須恵器断面　赤彩　スス・釉薬・熱変色範囲・摩耗範囲　鉄銹化部・酸化土砂

目　次

例言
凡例
目次
挿図目次
表目次
写真図版目次

Ⅰ　調査に至る経緯 …… 1

Ⅱ　遺跡の位置と環境 …… 1
　1　地理的環境 …… 1
　2　歴史的環境 …… 2

Ⅲ　調査の方法と経過 …… 5
　1　調査方法 …… 5
　2　調査経過 …… 5

Ⅳ　標準堆積土層 …… 6

Ⅴ　遺構と遺物 …… 7
　1　縄文時代 …… 7
　2　奈良・平安時代 …… 11
　遺構実測図 …… 20
　遺物実測図 …… 37
　遺物観察表 …… 54

Ⅵ　まとめ …… 62
　参考文献

写真図版
抄録・奥付

挿　図　目　次

Fig. 1　遺跡の位置 …… 1
Fig. 2　周辺遺跡図 …… 3
Fig. 3　五代深堀Ⅰ遺跡№2
　調査区位置・グリッド設定図 …… 4
Fig. 4　五代深堀Ⅰ遺跡№2　標準堆積土層 …… 6
Fig. 5　五代深堀Ⅰ遺跡№2　Ａ区全体図（１） 20
Fig. 6　五代深堀Ⅰ遺跡№2　Ａ区全体図（２） 21
Fig. 7　五代深堀Ⅰ遺跡№2　Ｂ区全体図 …… 22
Fig. 8　Ａ・Ｂ区　Ｊ－１～３号竪穴建物跡
　遺構実測図 …… 23
Fig. 9　Ａ区　Ｊ－４・Ｊ－５号竪穴建物跡
　Ｄ－228号土坑　遺構実測図 …… 24
Fig. 10　Ａ区　土坑　遺構実測図（１） …… 25
Fig. 11　Ａ区　土坑　遺構実測図（２） …… 26
Fig. 12　Ａ区　土坑　遺構実測図（３） …… 27
Fig. 13　Ａ区　土坑　遺構実測図（４） …… 28
Fig. 14　Ａ区　土坑　遺構実測図（５） …… 29
Fig. 15　Ｂ区　Ｈ－１号竪穴建物跡
　遺構実測図 …… 30
Fig. 16　Ｂ区　Ｈ－２号竪穴建物跡
　遺構実測図 …… 31
Fig. 17　Ｂ区　Ｈ－３・４号竪穴建物跡
　遺構実測図 …… 32
Fig. 18　Ａ区　Ｈ－５号竪穴建物跡
　遺構実測図 …… 33
Fig. 19　Ａ区　Ｈ－６号竪穴建物跡
　平面図・断面図 …… 34
Fig. 20　Ｂ区　Ｔ－１号遺構
　鍛冶滓出土量グラフ …… 34
Fig. 21　Ｂ区　Ｔ－１号遺構　遺構実測図 …… 35
Fig. 22　Ｂ区　Ｂ－１号掘立柱建物跡
　遺構実測図 …… 36
Fig. 23　Ａ区　Ｊ－２号竪穴建物跡
　遺物実測図 …… 37
Fig. 24　Ａ区　Ｊ－３号竪穴建物跡
　遺物実測図 …… 38
Fig. 25　Ａ区　Ｊ－４号竪穴建物跡
　遺物実測図 …… 39

Fig. 26　Ａ区　Ｊ－４・Ｊ－５号竪穴建物跡
遺物実測図…… 40
Fig. 27　Ａ区　土坑（１）　遺物実測図…… 41
Fig. 28　Ａ区　土坑（２）　遺物実測図…… 42
Fig. 29　Ａ区　土坑（３）　遺物実測図…… 43
Fig. 30　Ａ区　土坑（４）　遺物実測図…… 44
Fig. 31　Ａ区　土坑（５）　遺物実測図…… 45
Fig. 32　Ａ区　土坑（６）　遺物実測図…… 46
Fig. 33　Ａ区　土坑（７）　遺物実測図…… 47
Fig. 34　Ａ区　土坑（８）　遺物実測図…… 48
Fig. 35　Ａ区　土坑（９）　遺物実測図…… 49
Fig. 36　Ａ区　土坑(10)・遺構外　遺物実測図…… 50
Fig. 37　Ａ・Ｂ区　遺構外　遺物実測図…… 51
Fig. 38　Ｂ区　Ｈ－１～５号竪穴建物跡
遺物実測図…… 52
Fig. 39　Ｂ区　Ｈ－５・Ｈ－６号竪穴建物跡
Ｔ－１号遺構　遺物実測図…… 53
Fig. 40　五代南部団地地区　遺跡全体〈模式図〉…… 64

表　目　次

Tab. １　周辺遺跡概要一覧表…… ３
Tab. ２　奈良・平安時代　溝状遺構一覧表…… 14
Tab. ３　奈良・平安時代　道路状遺構一覧表…… 14
Tab. ４　土坑一覧表（１）…… 15
Tab. ５　土坑一覧表（２）…… 16
Tab. ６　土坑一覧表（３）…… 17
Tab. ７　土坑一覧表（４）…… 18
Tab. ８　ピット一覧表（１）…… 18
Tab. ９　ピット一覧表（２）…… 19
Tab. 10　Ｂ区　Ｂ－１号掘立柱建物跡
ピット一覧表…… 36
Tab. 11　縄文時代出土遺物観察表（１）…… 54
Tab. 12　縄文時代出土遺物観察表（２）…… 55
Tab. 13　縄文時代出土遺物観察表（３）…… 56
Tab. 14　縄文時代出土遺物観察表（４）…… 57
Tab. 15　縄文時代出土遺物観察表（５）…… 58
Tab. 16　奈良・平安時代出土遺物観察表（１）…… 58
Tab. 17　奈良・平安時代出土遺物観察表（２）…… 59
Tab. 18　石器一覧表（１）…… 60
Tab. 19　石器一覧表（２）…… 61

写真図版目次

巻頭写真

五代深堀Ⅰ遺跡№.２　調査区全景（上が北）
五代深堀Ⅰ遺跡№.２　調査区全景（南から）

ＰＬ．１

Ｊ－１号竪穴建物跡　完掘状況（南から）
Ｊ－２号竪穴建物跡　遺物出土状況（南から）
Ｊ－２号竪穴建物跡　完掘状況（南から）
Ｊ－３号竪穴建物跡　遺物出土状況（東から）
Ｊ－４号竪穴建物跡　遺物出土状況（東から）
Ｊ－４号竪穴建物跡　完掘状況（南から）
Ｊ－５号竪穴建物跡　完掘状況（南から）
Ｄ－288 号土坑　完掘状況（北から）

ＰＬ．２

Ｄ－34 号土坑　遺物出土状況（南東から）
Ｄ－38 号土坑　遺物出土状況（北西から）
Ｄ－58 号土坑　遺物出土状況（南から）
Ｄ－61 号土坑　遺物出土状況（南から）
Ｄ－123 号土坑　遺物出土状況（西から）
Ｄ－193 号土坑　遺物出土状況（北東から）
Ｄ－198 号土坑　遺物出土状況（南から）
Ｄ－219 号土坑　遺物出土状況（北から）

ＰＬ．３

Ｈ－１号竪穴建物跡　完掘状況（南から）
Ｈ－２号竪穴建物跡　完掘状況（南から）
Ｈ－４号竪穴建物跡　遺物出土状況（西から）
Ｈ－４号竪穴建物跡　墨書土器出土状況（南から）
Ｈ－５号竪穴建物跡　遺物出土状況（西から）

Ｈ－５号竪穴建物跡　墨書土器出土状況（南から）
Ｈ－６号竪穴建物跡　遺物出土状況（西から）
Ｈ－６号竪穴建物跡カマド周辺
遺物出土状況（西から）
ＰＬ．４
Ｔ－１号遺構　検出状況（北東から）
Ｔ－１号遺構　遺物出土状況（東から）
Ｔ－１号遺構Ｄ２周辺　遺物出土状況（東から）
Ｔ－１号遺構　完掘状況（西から）
Ｈ－１号竪穴建物跡カマド内
丸鞆出土状況（南東から）
Ｈ－３号竪穴建物跡カマド内
鎌出土状況（南から）
Ｗ－３・５号溝　完掘状況（西から）
Ｂ－１号掘立柱建物跡　完掘状況（南から）
ＰＬ．５
Ｊ－２・３号竪穴建物跡　遺物写真
ＰＬ．６
Ｊ－３・４号竪穴建物跡　遺物写真
ＰＬ．７
Ｊ－４・５号竪穴建物跡　遺物写真
土坑　遺物写真
ＰＬ．８
土坑　遺物写真（１）
ＰＬ．９
土坑　遺物写真（２）
ＰＬ．10
土坑　遺物写真（３）
ＰＬ．11
土坑　遺物写真（４）
ＰＬ．12
土坑　遺物写真（５）
ＰＬ．13
土坑　遺物写真（６）
ＰＬ．14
土坑・ピット・遺構外　遺物写真
ＰＬ．15
遺構外　遺物写真
Ｄ 34- ２　展開写真
ＰＬ．16
Ｄ 38 －４　展開写真
Ｄ 58 －１　展開写真
Ｄ 198 －１　展開写真
ＰＬ．17
Ｄ 219 －１　展開写真
Ｄ 240 －１　展開写真
遺構外－１　展開写真
ＰＬ．18
Ｈ－１～５号竪穴建物跡　遺物写真
ＰＬ．19
Ｈ－６号竪穴建物跡　遺物写真
Ｔ－１号遺構　遺物写真

Ⅰ　調査に至る経緯

平成26年５月、前橋市産業課より当該地を工場用地として売却を予定しているが、埋蔵文化財に関する手続きは必要であるかとの問い合わせがあった。前橋市教育委員会で当該地の発掘調査歴を確認し、「五代深堀Ⅰ遺跡」として一部の発掘調査が実施されていることを把握する。発掘調査は一部分のみであったところから、工場建設にあたっては、試掘・確認調査を実施して、埋蔵文化財の取扱いについて改めて協議が必要であることを回答する。教育委員会は産業課からの試掘調査の依頼をうけ、同年６月２から５日に試掘調査を実施し、縄文時代中期の竪穴住居跡・土坑、古墳時代から奈良・平安時代の竪穴住居跡・土坑・溝跡を確認した。試掘調査の結果を受け、埋蔵文化財の保護について協議を重ねたが、売却および設計の変更は不可能であるため、発掘調査を実施し記録保存の措置を執ることで合意を得た。教育委員会では既に直営による発掘調査を実施しており、直営による調査の実施が困難であるため、「群馬県内の記録保存を目的とする埋蔵文化財の発掘調査における民間調査組織導入事務取扱要綱」に則り、教育委員会の作成する調査仕様書に基づく監理・指導の下、発掘調査を実施することとなり、平成26年７月７日付けで前橋市長、民間調査組織である有限会社毛野考古学研究所との間で発掘調査・整理業務委託の契約を締結され、同年７月７日から現地調査が開始された。

Ⅱ　遺跡の位置と環境

１　地理的環境

五代深堀Ⅰ遺跡№.２は、前橋市の中心部から北東へ約５㎞の場所にある五代南部工業団地（42.3ha）内に位置する。前橋市は群馬県のほぼ中央部にあたり、北東に赤城山、北西に榛名山を望む。西は利根川、東は渡良瀬川に囲まれており、南の裾野は関東平野へと続いている。この裾野は、主に火砕流堆積物や扇状地堆積物から構成されている。赤城山は複式成層火山で、本遺跡は赤城火山斜面と呼ばれる赤城山の南麓に形成された傾斜地に立地し、標高132ｍ～135ｍの間にある。この火山斜面には山頂付近から流路をとる河川があり、開析谷が放射状に発達している。このため大部分の地域が、多くの舌状台地と谷地部によって構成される地形である。遺跡周辺

Fig. 1　遺跡の位置

の中小河川には、利根川水系の藤沢川・寺沢川などがあり、遺跡の東側を藤沢川、西側を寺沢川と薬師川が南流する。遺跡の北側には大正用水が東西方向に流れる。赤城火山斜面の末端部は旧利根川が形成した広瀬川低地帯に接しており、中小河川はこの低地帯をとおって桃ノ木川に合流する。これらの中小河川が赤城火山斜面に形成した舌状台地には、本遺跡も含め多数の遺跡が立地する。現在は主に桑畑等が広がり、谷地部では狭い範囲で水田が営まれている。

２　歴史的環境

五代南部団地地区では平成 12 ～ 20 年度にわたり発掘調査が実施され、縄文時代前期・中期の竪穴建物跡、土坑、古墳時代と奈良・平安時代の竪穴建物跡や掘立柱建物跡が検出されている。本遺跡が所在する前橋市五代町及びその近隣地域でも、住宅団地造成事業や現在も伸長している上武道路（国道 17 号線）の工事に伴い、多くの発掘調査が行われている。ここでは、本遺跡の該当時期である縄文時代、奈良・平安時代を中心に概観して述べる。

縄文時代

赤城山南麓斜面の代表的な遺跡としては、後期旧石器とともに縄文時代前期中葉～後葉の石器配置遺構が発見された柳久保遺跡群柳久保遺跡（前橋市荒子町）や頭無遺跡（同町）があげられる。

五代町周辺でも多くの縄文時代の遺跡が確認されている。時期別にみていくと、本遺跡西側の谷底平野に位置する湯気遺跡（44）では縄文時代草創期及び前期、川白田遺跡（24）では早期の土器片が出土した。芳賀北部団地遺跡（26）、芳賀東部団地遺跡（27）では、前期の竪穴建物跡と中期後半の敷石住居跡が検出された。芳賀西部団地遺跡（28）では、前期の竪穴建物跡とともに配石遺構が検出された。本遺跡西側の台地では、鳥取福蔵寺遺跡（49）・鳥取福蔵寺Ⅱ遺跡（48）で前期から後期の竪穴建物跡が検出され、扇状地では芳賀北曲輪遺跡（25）、小神明遺跡群Ⅱ・西田遺跡（47）で前期、堤遺跡（30）で前期から後期の竪穴建物跡が確認された。本遺跡北東側では、五代砂留遺跡群（32）、萩窪東爪遺跡（35）、上泉新田塚遺跡群（34）で前期及び中期の竪穴建物跡が検出された。

五代南部工業団地（Fig. ３）では、五代木福Ⅰ遺跡（②）で、五代中原遺跡〈Ⅰ～Ⅲ〉（⑩・⑭・⑮）、五代山街道Ⅰ遺跡（⑯）では諸磯ａ～ｃ式、関山式の土器が出土した前期の竪穴建物跡・土坑が検出されている。五代伊勢宮遺跡〈Ⅱ～Ⅵ・（１）・（２）〉（⑦・⑧・⑪～⑬・㉒・㉓）で前期～中期後葉までの竪穴建物跡や土坑群が検出された。東側の台地では、五代深堀遺跡〈Ⅰ・Ⅱ〉（⑤・⑨）で中期後葉の竪穴建物跡が検出された。本遺跡の西側に位置する五代伊勢宮遺跡〈Ⅳ～Ⅵ〉（⑪～⑬）は同時期の遺物が出土しており、同じ環状集落である可能性が推測される。

これらの遺跡の分布から、五代南部団地地区周辺では、各台地上で継続的に縄文時代の集落が営まれていたことがうかがえる。また五代町の遺跡の特徴としては、東北、北陸、東関東など他地域の特徴をもつ土器や、搬入石材で製作されたとみられる石器が出土したことなどから、広範囲の文化交流があったことが指摘されている。

奈良・平安時代

この地域の代表的な遺跡は、芳賀北部団地遺跡（26）・芳賀東部団地遺跡（27）があげられる。芳賀北部団地遺跡は奈良・平安時代の竪穴建物跡が 237 軒検出され、勝沢城址の一部もみつかった。芳賀東部工業団地遺跡では、古墳時代・奈良・平安時代の竪穴建物跡が 500 軒、掘立柱建物跡が 206 棟のほか、鍛冶遺構が５基検出された。五代町周辺は古代の旧芳賀郡にあたり、両遺跡が「芳賀地区」の拠点的集落であった可能性が想定される。本遺跡の西側にあたる台地では、鳥取福蔵寺遺跡・鳥取福蔵寺Ⅱ遺跡で、古墳時代と奈良・平安時代の竪穴建物跡・掘立柱建物跡のほか、鍛冶関連遺構が検出された。北東に位置する檜峰遺跡（40）では、古墳時代、奈良・平安時代の竪穴建物跡とともに奈良三彩小壺（前橋市指定重要文化財）が検出された。

芳賀地区も含めた五代町周辺では、９世紀代になると集落数が増加する。また、８～９世紀の製鉄・精錬・鍛冶に関わる遺構が確認されていることから、それらの生産遺跡との関係性もうかがえる。

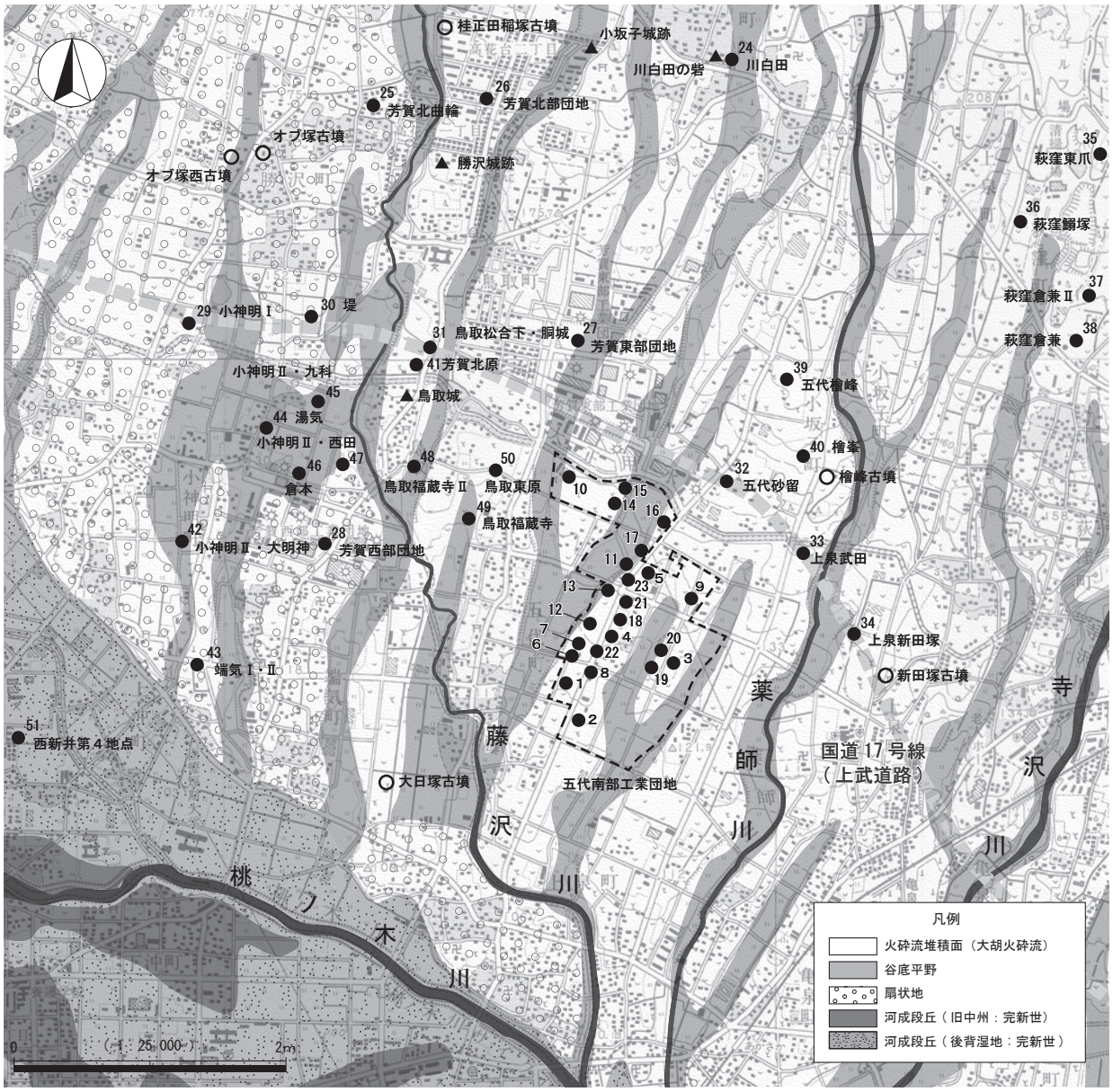


Fig. 2　周辺遺跡図

Tab. 1　周辺遺跡概要一覧表

No.	遺跡名	概　要	No.	遺跡名	概　要
1	五代江戸屋敷遺跡(12C21)	古墳・奈良・平安竪穴	27	芳賀東部団地遺跡	縄文、古墳、奈良・平安竪穴、製鉄・鍛冶遺構
2	五代木福Ⅰ遺跡(12C23)	縄文・古墳・奈良・平安竪穴	28	芳賀西部団地遺跡	縄文竪穴、古墳31基(5世紀後半～6世紀初頭)
3	五代木福Ⅱ遺跡(12C24)	縄文・古墳・奈良・平安竪穴	29	小神明遺跡群Ⅰ	縄文・奈良・平安竪穴
4	五代竹花遺跡(12C22)	縄文・古墳・奈良・平安竪穴	30	堤遺跡	縄文草創期・前期・後期、奈良・平安竪穴
5	五代深堀Ⅰ遺跡(12C25)	縄文・奈良・平安竪穴	31	鳥取松合下遺跡・胴城遺跡	旧石器、縄文前期・古墳・奈良・平安竪穴
6	五代伊勢宮Ⅰ遺跡(12C26)	古墳・奈良・平安竪穴	32	五代砂留遺跡群	旧石器、縄文前期・古墳・奈良・平安竪穴, 鍛冶遺構
7	五代伊勢宮Ⅱ遺跡(13C27)	縄文・古墳・奈良・平安竪穴	33	上泉武田遺跡	古墳・奈良・平安竪穴
8	五代伊勢宮Ⅲ遺跡(13C28)	縄文土坑・奈良・平安竪穴	34	上泉新田塚遺跡	縄文前, 中期・古墳・奈良・平安竪穴、円墳(7世紀代)
9	五代深堀Ⅱ遺跡(13C29)	縄文・古墳・奈良・平安竪穴	35	萩窪東爪遺跡	縄文竪穴
10	五代中原Ⅰ遺跡(13C30)	縄文・古墳・奈良平安竪穴、近世土坑	36	萩窪鰯塚遺跡	飛鳥・奈良・平安竪穴
11	五代伊勢宮Ⅳ遺跡(13C31)	縄文中期・奈良・平安竪穴	37	萩窪倉兼Ⅱ遺跡	奈良・平安竪穴
12	五代伊勢宮Ⅴ遺跡(14C32)	縄文・古墳・奈良・平安竪穴	38	萩窪倉兼遺跡	奈良・平安竪穴
13	五代伊勢宮Ⅵ遺跡(14C33)	縄文・古墳竪穴、奈良平安竪穴・鍛冶遺構	39	五代桧峰遺跡	古墳竪穴
14	五代中原Ⅱ遺跡(14C30)	縄文・古墳竪穴	40	檜峰遺跡	古墳・奈良・平安竪穴
15	五代中原Ⅲ遺跡(15C30)	古墳竪穴	41	芳賀北原遺跡	古墳・奈良・平安竪穴
16	五代山街道Ⅰ遺跡(15C34)	縄文、古墳、平安竪穴	42	小神明遺跡群Ⅱ・大明神遺跡	古墳竪穴
17	五代山街道Ⅱ遺跡(15C35)	縄文土坑	43	端気遺跡群Ⅰ・Ⅱ	縄文竪穴、弥生方形周溝墓、古墳竪穴
18	五代竹花Ⅱ遺跡(15C22)	縄文、古墳、奈良・平安竪穴, 中・近世地下式土坑	44	湯気遺跡	弥生後期・古墳・奈良・平安竪穴
19	五代木福Ⅲ遺跡(15C23)	古墳・奈良・平安竪穴、掘立柱建物跡	45	小神明遺跡群Ⅱ・九科遺跡	縄文・古墳・奈良・平安竪穴
20	五代木福Ⅵ遺跡(16C23)	奈良・平安竪穴	46	倉本遺跡	弥生中期～後期竪穴
21	五代深堀Ⅲ遺跡(16C25)	縄文竪穴、土坑、溝	47	小神明遺跡群Ⅱ・西田遺跡	縄文・古墳竪穴
22	五代伊勢宮遺跡(１)(18C37)	縄文・奈良平安竪穴	48	鳥取福蔵寺Ⅱ遺跡	旧石器、縄文・古墳・奈良・平安竪穴, 鍛冶遺構
23	五代伊勢宮遺跡(２)(20C37)	縄文・奈良平安竪穴	49	鳥取福蔵寺遺跡	縄文・古墳～平安竪穴, 製鉄遺構
24	川白田遺跡	縄文竪穴	50	鳥取東原遺跡	古墳竪穴、近世墓
25	芳賀北曲輪遺跡	縄文、古墳竪穴	51	西新井遺跡 第４地点	縄文晩期主体の包含層
26	芳賀北部団地遺跡	縄文、奈良・平安竪穴			

○大日塚古墳
○桂正田稲塚古墳
○オブ塚古墳
○オブ塚西古墳
○新田塚古墳
○桧峰古墳
▲鳥取城跡
▲勝沢城跡
▲小坂子城跡
▲川白田の砦

※1 竪穴…竪穴建物跡 ※2 地形分類図は群馬県史 通史編１「群馬県主要地域の地形分類図」を元に作成した。

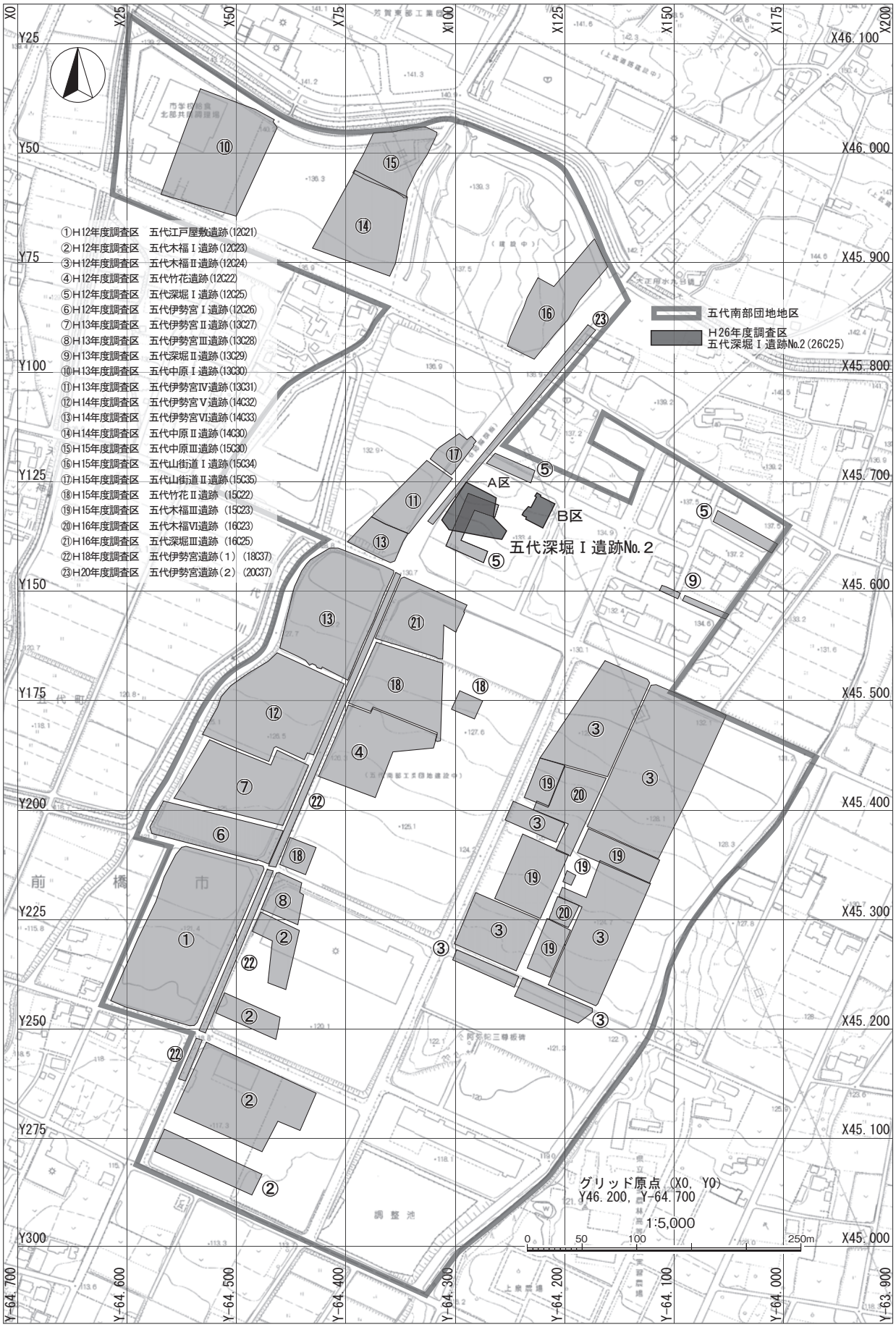


Fig. 3　五代深堀Ⅰ遺跡No.2　調査区位置・グリッド設定図

Ⅲ　調査の方法と経過

１　調査方法

本遺跡地内はすでに前橋市教育委員会による試掘調査が実施されており、その調査成果と周辺遺跡の状況からＡ区とＢ区の２区を調査することになった。各調査区の主な調査対象は、縄文時代の竪穴建物跡・土坑・溝（Ａ区）と奈良・平安時代の竪穴建物跡・土坑（Ｂ区）と想定されていた。

重機掘削による表土除去はＢ区北側から実施し、Ａ区に移行した。Ａ区の表土除去では、調査区北側で奈良・平安時代の遺構と縄文時代の一部の土坑を、基本土層Ｉ層中位で検出した。しかし、重機掘削後の遺構確認作業では縄文時代の遺構の平面プランの視認が非常に困難であった。そこでＡ区中央付近に傾斜に合わせて南北方向のトレンチを数か所設定したところ、確認面の 0.3 m程度下位で袋状土坑〈Ｄ－ 231 号土坑〉の平面プランと断面の立ち上がりを確認した。現状のレベルでは人力による遺構確認及び掘削は困難と判断し、前橋市教育委員会との協議ののち、再度重機を投入してＡ区中央から以南にかけて約 0.3 ～ 0.5 m掘り下げを行ったところ、200 基以上の土坑・ピットを検出した。

Ｂ区では表土除去後に人力による遺構確認・検出作業を実施し、Ａ区では２度目の重機掘削と同時並行で遺構確認作業を実施した。竪穴建物跡には遺構中央に南北方向の土層観察用ベルトを設定し、縄文時代は東西南北４分割、奈良・平安時代は東西２分割した上で、掘削ならびに遺物の取り上げを行った。その他の土坑やピット関しては、土層観察用ベルトを設定するか埋没土の１／２を残して断面を確認しながら掘削を行った。

遺構から出土した遺物は、遺構の床面直上もしくは特徴的に出土した場合は、写真測量による遺物出土状況の平面図を作成したのち、トータルステーション（以下、ＴＳ）を用いて１点ずつ取り上げを行った。遺構に伴わない調査区内の遺物は、残存状態が良好なものはＴＳで出土位置の座標と標高を測量し、取り上げた。

測量作業は、調査区周辺に基準杭を設定し、平面図をＴＳ測量、断面図を方眼紙を用いた手実測で行った。遺構平面図は 1/20、遺構断面図は 1/20 または 1/10 の縮尺で作成した。また土坑・ピットに限っては全ての遺構の土層断面図の作成が時間的に困難であったため、エレベーション図の作成を併用した。

写真撮影は、35 ㎜判フイルムカメラ（モノクロ・カラーリバーサルフィルム）とデジタルカメラ（1,500 万画素数相当）で撮影し、遺構掘削終了後にラジコンヘリコプターによる調査区全体の空中写真撮影を実施した。

検出された遺構は時代に関わらず、遺構別に検出した順番で遺構記号－番号を付した。本書では調査時の遺構番号をそのまま使用している。

２　調査経過

現地での発掘調査は平成 26 年７月７日から８月 29 日まで、整理・報告書作成業務は、平成 26 年９月１日から平成 27 年３月 10 日にかけて有限会社毛野考古学研究所において実施した。

【発掘調査】平成 26 年７月７日：草刈りと調査区の設定。発掘機材の搬入。現場事務所設置。７月９日：Ｂ区表土除去開始。７月 12 日：Ａ区表土除去開始。Ｂ区の遺構確認作業に着手。７月 14 日：Ｂ区遺構掘削作業の開始。７月 18 日：Ａ区表土除去終了。７月 24 日：Ａ区遺構確認作業に着手。縄文時代の平面プランの視認が困難を極める。７月 31 日：Ａ区にトレンチを設定し掘削を開始。８月５～６日：Ａ区２度目の重機掘削開始。同時に遺構確認作業に着手。８月 13 日：Ｂ区遺構掘削作業終了。８月 27 日：空中写真撮影を実施。８月 28 日：Ａ・Ｂ区の竪穴建物跡の掘方調査を実施。８月 29 日：前橋市教育委員会の立ち合いによる終了検査の実施。現地発掘調査完了。

【整理・報告書作成】平成 26 年９月１日：図面修正。遺物洗浄の開始。９月 24 日：遺物注記を開始。10 月：原稿執筆・図版作成。遺物接合、Ｔ－１号遺構の篩作業。10 月 22 日：遺物実測・写真撮影　11 月 20 日：原稿執筆・図版作成。遺物接合終了、樹脂による復元作業。12 月：遺物実測・写真撮影（縄文時代）１月 20 日～：版組み作業。平成 27 年１月 30 日：報告書入稿、校正作業。２月 23 日：印刷・製本。３月 10 日：報告書刊行。

Ⅳ　標準堆積土層

今回の調査では、基本土層観察用トレンチをＡ区の３か所に設置した。Ａ区での調査開始時の表土除去は、Ⅰ層中位からⅡ層上位まで掘削を行い、遺構を確認した。しかし縄文時代の遺構のほとんどはⅡ層中で視認することが困難であったため、不明瞭な範囲を中心にⅢ層上位まで掘り下げて遺構を確認した。このためＡ区の遺構確認面は場所によって異なり、Ⅰ～Ⅲ層の３層にわたっている。基本土層観察用トレンチは、確認面が異なるＡ区の北側、中央西側、南側にそれぞれ設置して記録を行った。北からそれぞれ基本土層１・２・３とした（Fig. ４）。

Ｂ区では基本土層観察用トレンチは設置していないが、調査区東端のトレンチでⅢ層までを確認している。Ｂ区の遺構確認面はⅡ層上位である。

当初はⅣ層をＡｓ－ＢＰＧｒｏｕｐ（浅間－板鼻褐色軽石群：19,000 － 24,000 年前）としていたが、火山灰の降下時期と堆積状態を考慮すると、Ａｓ－Ｓｒ（浅間－白糸軽石：18,000 年前）である可能性も考えられる。本報告ではＡｓ－ＢＰＧｒｏｕｐとして捉えておきたい。Ⅰ～Ⅱ層中にはＡｓ－Ａ・Ａｓ－Ｂ軽石が包含されていたとみられるが、今回の調査では分類が困難であったため、Ｈｒ－ＦＡ軽石のみ記載した。基本土層の主体となるものを比率（%）で表している。

表土：現耕作土。　**Ⅰ層**：暗褐色土（Hue10YR3/4）表土 60%、ソフトローム 40%、黄色粒・Ｈｒ－ＦＡ白色軽石粒を中量含む。しまり弱い。粘性弱い。**Ⅱ層**：明黄褐色土（Hue10YR7/6）ソフトローム 50%、ハードローム 50%、黄色粒・白色粒を多量に含む。しまり弱い。粘性弱い。ソフトローム層（Ⅱ層）とハードローム層（Ⅲ層）の漸移層とみられる。　**Ⅲ層**：明黄褐色土（Hue10YR7/6）ハードローム層。下位にＡｓ－ＢＰＧｒｏｕｐを少量含む。しまり強い。粘性ややあり。　**Ⅳ層**:黄褐色土（Hue10YR8/8）Ａｓ－ＢＰＧｒｏｕｐ。しまりあり。粘性弱い。　**Ⅴ層**：にぶい黄褐色土（Hue10YR5/3）Ａｓ－ＢＰＧｒｏｕｐ 40%、白色粘質土 60%。しまり強い。粘性強い。Ａｓ－ＢＰＧｒｏｕｐ（Ⅴ層）と白色粘質土層（Ⅵ層）の漸移層とみられる。　**Ⅵ層**：灰黄褐色土（Hue10YR6/3）白色粘質土層。しまり強い。粘性非常に強い。

テフラ（火山噴出物）の略称

Ａｓ－Ａ　浅間山Ａ軽石：1873 年

Ａｓ－Ｂ　浅間山Ｂ軽石：1108 年

Ｈｒ－ＦＰ　榛名－二ッ岳伊香保テフラ：６世紀中葉

Ｈｒ－ＦＡ　榛名－二ッ岳渋川テフラ：６世紀初頭

Ａｓ－Ｃ　浅間Ｃ軽石：３世紀後半

Ａｓ－ＢＰＧｒｏｕｐ　浅間－板鼻褐色軽石群：19,000 － 24,000 年前

Ａｓ－Ｓｒ　浅間－白糸軽石：18,000 年前

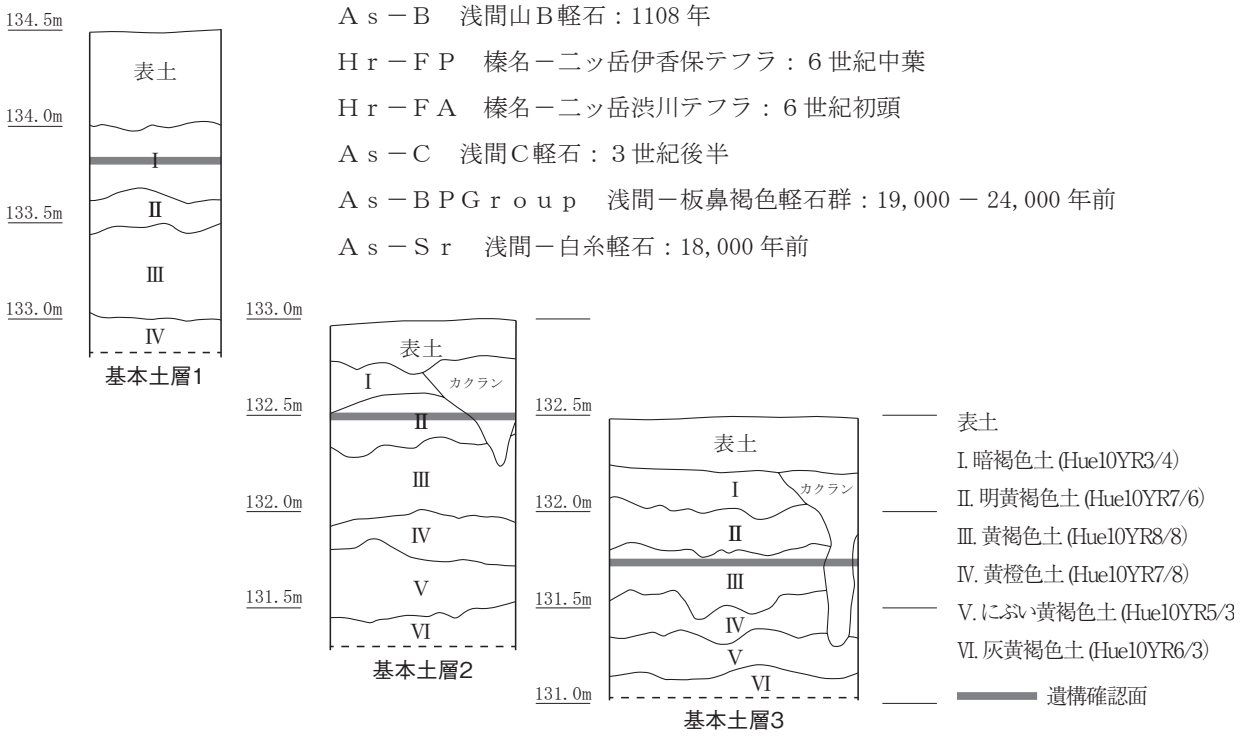


Fig. ４　五代深堀Ⅰ遺跡№２　標準堆積土層

Ⅴ　遺構と遺物

１　縄文時代

縄文時代の遺構は、主にＡ区で確認されている。Ａ区では竪穴建物跡４軒（Ｊ２～５）、土坑124基、ピット34基、Ｂ区で竪穴建物跡１軒（Ｊ－１）を検出した。

１　竪穴建物跡

Ｊ－１号竪穴建物跡　(Fig. ７・８、PL. １)

位置：Ｂ区。Ｘ121、Ｙ135グリッド。東側は調査区外。**重複**：南側は攪乱によって削平されており、上面では平安時代以降とみられる道路状遺構を検出している。**平面形状**：全容は不明であるが、円形を呈すると想定される。**規模**：3.11 × 1.84 m、残存深度64 ㎝。**床面**：ほぼ平坦だが、しまりはあまり強くない。**柱穴**：調査区内では検出されなかった。**炉跡**：確認した範囲では検出されなかった。**遺構埋没状態**：自然埋没とみられる。基本土層Ⅰ層の暗褐色土を主体とするソフトローム混じりの埋没土である。**遺物**：勝坂式・焼町類型の特徴をもつ深鉢の破片数点と磨石が出土した。**時期**：縄文時代中期中葉。

Ｊ－２号竪穴建物跡　(Fig. ６・８、PL. １・５)

位置：Ａ区。Ｘ108・109、Ｙ132・133グリッド。**重複**：なし。**平面形状**：やや不整円形。**規模**：3.81 × 3.48 m、残存深度51 ㎝。**床面**：細かな凹凸はあるものの全体的に平坦で、よく締まる。**柱穴**：14基のピットを検出した。そのうちＰ１～３・５～８は同規模の掘り込みと同様の埋没土であることから、遺構に伴うものと想定される。**炉跡**：中央付近に被熱範囲が２箇所確認された。北側の炉は43 ㎝× 22 ㎝で浅い掘り込みを持つ。南側の炉は20 ㎝× 14 ㎝で北側より小さく、掘り込みは持たない。**遺構埋没状態**：人為的な埋没と想定され、ロームブロック主体の土で埋没している。**遺物**：西側の深鉢（４・６）、東側の深鉢（２）は覆土中位から下位にかけて出土した。北側の床面直上からは深鉢（１・３）、石皿、磨石が出土した。　**時期**：縄文時代中期中葉。

Ｊ－３号竪穴建物跡　(Fig. ５・８、PL. １・５・６)

位置：Ａ区。Ｘ104・105、Ｙ130・131グリッド。**重複**：Ｄ－114・182・230・234・235、Ｐ-227と重複し、これらより新しいとみられる。**平面形状**：円形と想定される。**規模**：4.77 m× 4.27 m、残存深度75 ㎝。**床面**：中央付近から南東部にかけて平坦で、西側から北側にかけて緩やかに立ち上がる。**柱穴**：17基のピットを検出している。そのうちＰ１・３・４・５・７は、同規模の掘り込みと同様の埋没土から遺構に伴うものと想定される。**炉跡**：中央よりやや北西付近から検出した。掘り込みを持つタイプで規模は72 ㎝× 66 ㎝、深さ10 ～ 33 ㎝である。掘り込み内には被熱した礫が複数落とし込まれており、ロームブロック及び炭化物を含む黒色土とともに埋没していた。しまりが強く硬化していたが、焼土や赤化した範囲は検出されなかった。**遺構埋没状態**：人為的な埋没と想定され、埋没土は上位から中位に非常にしまりの強い黒褐色土、下位はローム粒を含む黄褐色土である。大きく２段階にわたって埋め戻されており、下層上面では焼土ブロックの面的な広がりを確認した。Ｊ－３の下層は別の土坑もしくは竪穴建物跡の可能性が考えられる。**遺物**：覆土中から多量の土器片、石器類が出土した。深鉢（１・７）は炉の上面からまとまって出土した。**時期**：縄文時代中期中葉。

Ｊ－４号竪穴建物跡　(Fig. ５・９、PL. １・６・７)

位置：Ａ区。Ｘ109 ～ 111、Ｙ136 ～ 138グリッド。**重複**：Ｐ－49・Ｄ－237・Ｄ－243と重複し、新旧関係はＰ－49 →Ｄ－243 → Ｊ－４→Ｄ－237の順に構築されている。**平面形状**：円形。**規模**：5.59 m× 5.17 m、残存深度56 ㎝。**床面**:全体的に立ち上がりは緩やかで、西側に中場を持つ。やや凹凸があり、しまりが非常に強い。**柱穴**：21基のピットを検出し、そのうちＰ１・３・４・６・８・９は主柱穴とみられる。南側のＰ３・４・７・８は近接しており、柱の建て替えも推測される。**炉跡**：住居中央のやや北寄りに18 ㎝× 14 ㎝の被熱範囲を確認した。掘り込みは持たない。**遺構埋没状態**：下位から中位にかけては人為的な埋没と想定される。**遺物**：同一個

体の浅鉢（10）が、北側と西側の立ち上がり付近から出土しており、10a は内面、10b は外面が上面になった状態であった。浅鉢 10a と深鉢の胴下部（４）は床面直上から出土した。Ｐ 10 の上面に蓋をするように北陸系の特徴をもつ浅鉢（13）下半部の破片が出土した。**時期**：縄文時代中期中葉。

Ｊ－５号竪穴建物跡　（Fig. ６・９、PL. １・７）

位置：Ａ区。Ｘ 107、Ｙ 129･130 グリッド。**重複**：Ｄ－ 229 号、Ｐ－ 248 と重複し、これらに切られる。**平面形状**：不整円形。**規模**：3.28 × 2.81 m、残存深度 35 ㎝。**床面**：凹凸があり、堅く締まる。立ち上がりは緩やかである。**柱穴**：５基のピットを検出したが、主柱穴と判断できるものは検出されなかった。**炉跡**：炉に伴う被熱範囲及び掘り込みは検出されなかった。**遺構埋没状態**：自然埋没と想定され、基本土層Ⅱ層を主体とする土で埋没している。**遺物**：中央の覆土下位から深鉢（１）が出土した。**時期**：縄文時代中期中葉。

２　土坑

Ａ区で確認した縄文時代の土坑は 124 基である。形状は円形や楕円形を呈するものが多く、断面形状は袋状、台形状、箱型状、Ｕ字状、碗型状などがある。出土遺物や遺構の重複関係から帰属する時期を決定したが、出土遺物の少ない土坑については、ほかの遺構との切り合い関係や埋没土の特徴等から時期を判断した。それさえも困難なものについては時期不明とした。ほとんどの土坑は縄文時代中期中葉に帰属することが想定される。ここでは、覆土上位から床面にかけて、残存状態が良好な個体や多量の遺物が出土した土坑について、遺物出土状況と埋没状態に重点を置いて記述する。その他の土坑については一覧表でまとめて報告する。

Ｄ－ 23 号土坑（Fig. ６・10、Tab. ４、PL. ７）

Ａ区、Ｘ 109、Ｙ 137 グリッド。平面形はほぼ円形、断面形状は碗型状である。残存深度は 22 ㎝で比較的浅い土坑である。埋没状態は人為的な埋没と想定され、埋没土はソフトロームを主体とした黄褐色土で、掘り込みは基本土層Ⅲ層まで及ぶ。遺物は、覆土上位から浅鉢と深鉢の胴部（１）が重なった状態で出土した。深鉢は浅鉢の下面から横位状態で出土した。

Ｄ－ 28 号土坑（Fig. ６・10、Tab. ４、PL. ７）

Ａ区、Ｘ 109、Ｙ 136 グリッド。平面形はほぼ円形、断面形状は箱型状である。Ｄ－ 29 号土坑と重複し、これより新しい埋没状態は人為的な埋没と想定され、埋没土はソフトローム及びハードロームを主体とする黄褐色土である。掘り込みは基本土層Ⅲ層まで及ぶ。覆土上位から中位にかけて、土器片や小礫が出土し、底面直上から深鉢（１）と打製石斧が出土した。深鉢は胴下部から上部にかけてほとんど形状を保った状態で、その深鉢の下面から打製石斧が出土した。

Ｄ -34 号土坑（Fig. ６・10、Tab. ４、PL. ２・８・９・15）

Ａ区、Ｘ 108、Ｙ 138 グリッド。平面形はほぼ円形、断面形状は底部付近で外側にオーバーハングする袋状である。遺構は基本土層Ⅲ層中で検出し、掘り込みはⅣ層まで及ぶ。埋没状態は人為的な埋没と想定され、埋没土はしまりが弱く白色粒を多量に含む黒色土が主体で、下位になるとロームブロックを含む。覆土中位から 10 ～ 30 ㎝前後の礫片が 20 点以上出土し、その下面から土器、磨石、石皿の端材などが出土した。底面付近の土器は特に大型で、胴下部や突起部などが多い（１・２・５・７）。遺物の出土状態から、底面付近の土器、覆土下位の土器、覆土中位の礫片とおおよそ３段階にわたって廃棄されたことが推測される。

Ｄ－ 38 号土坑（Fig. ６・10、Tab. ４、PL. ２・９・16）

Ａ区、Ｘ 108、Ｙ 137 グリッド。平面形は円形、断面形は碗型状である。Ｄ－ 37 と重複し、これを切る。遺構は基本土層Ⅲ層中で検出し、掘り込みはⅣ層まで及ぶ。埋没状態は人為的な埋没と想定され、埋没土はしまりがあり白色粒を多量に含む黒色土が主体である。焼土を少量含んでおり、底面付近になるとローム粒が多い黄褐色土で埋没している。遺物は、この黒色土から多量に出土しており、中位から底面付近まで土器片、剥片石器、礫

石器等が土坑内に隙間なく詰まった状態で出土した（１～３・６・７・８）。遺物はそれぞれがかみ合っており、特に北西側では底面直上まで遺物が集中していた。この北西側で、口縁部下に４単位の突起を持つ深鉢が２個体分出土した（４・５）。４は底面直上から、５は４より高いレベルからである。これらの出土土器には阿玉台式、勝坂式、焼町類型、大木８a 式の特徴をもつものがある。石器は磨石、打製石斧、スクレイパー等である。

Ｄ－ 48 号土坑（Fig. ６・10、Tab. ４、PL. 10）

Ａ区、Ｘ 107、Ｙ 137 グリッド。平面形は円形、断面形状は袋状である。上位から下位にかけてはほぼ垂直に掘り込まれ、底面付近でオーバーハングする。遺構は基本土層Ⅲ層中で検出した。残存深度は 50 ㎝で、掘り込みはⅣ層まで及ぶ。埋没状態は人為的な埋没と想定され、埋没土はⅢ･Ⅳ層を主体とする。覆土上位から打製石斧、深鉢の破片（２）、底面直上から深鉢（１）が一個体出土した。（２）に新巻類型の特徴が見受けられる。

Ｄ－ 58 号土坑（Fig. ６・10、Tab. ４、PL. ２・10・16）

Ａ区、Ｘ 106、Ｙ 137 グリッド。平面形は円形、断面形状は台形状で、掘り込みは基本土層Ⅳ層まで及ぶ。遺構はⅢ層中で検出した。埋没状態は人為的な埋没と想定され、埋没土はⅡ層を主体とし、炭化物粒を多量に含む。覆土中位から底面にかけて出土した大型自然礫、剥片、深鉢の多くが被熱していた。底面付近から深鉢（２）一個体分の破片と、阿玉台Ⅲ式の特徴をもつ深鉢（１）が逆位状態で出土した。この深鉢は胴下部と突起の一部が欠けているのみで完形に近い。

Ｄ－ 61 号土坑（Fig. ６・10、Tab. ４、PL. ２・10）

Ａ区、Ｘ 107、Ｙ 133 グリッド。平面形は円形、断面形状は浅い箱型状で緩やかに立ち上がる。遺構はⅡ層中で検出した。埋没状態は人為埋没と想定され、埋没土は基本土層Ⅰ層と黒色土を主体とし、炭化物粒を多量に含む。覆土下位から底面にかけて出土した自然礫、小礫、剥片、深鉢の破片（１）の多くが被熱していた。

Ｄ－ 86 号土坑（Fig. ５・11、Tab. ５、PL. 14）

Ａ区、Ｘ 100、Ｙ 132 グリッド。平面形は楕円形、断面形状は碗型状で壁面は緩やかに立ち上がる。Ｄ－ 184 と重複し、これより新しい。遺構は基本土層Ⅰ層下位で検出し、掘り込みはⅡ層まで及ぶ。埋没状態は人為埋没と想定され、埋没土はⅠ層を主体とし、覆土下位に炭化物粒を含む。遺構検出面で半分に割れた石皿（１）と浅鉢の破片数点が出土した。

Ｄ－ 96 号土坑（Fig. ６・11、Tab. ５、PL. 10）

Ａ区、Ｘ 105、Ｙ 137 グリッド。平面形は円形、断面形状は碗型状で立ち上がりは緩やかである。遺構は基本土層Ⅲ層で検出した。埋没状態は人為的な埋没と想定され、埋没土はⅡ層を主体とする。覆土中位で壁面に寄りかかるようにして完形に近い浅鉢（１）が正位に近い状態で出土した。

Ｄ－ 119 号土坑（Fig. ５・11、Tab. ５、PL. 10）

Ａ区、Ｘ 104、Ｙ 132 グリッド。平面形はほぼ正円形、断面形状は浅い碗型状である。遺構は基本土層Ⅱ層で検出し、掘り込みはⅢ層まで及ぶ。埋没状態は人為的な埋没と想定され、埋没土はⅡ層を主体とする。北東側に土坑に伴うとみられるピットを１基確認した。底面直上から浅鉢（１）が１点出土した。

Ｄ－ 123 号土坑（Fig. 11、Tab. ５、PL. ２・11）

Ａ区、Ｘ 104、Ｙ 134 グリッド。平面形は円形、断面形状は箱型状、立ち上がりは急で片側はややオーバーハングする。遺構は基本土層Ⅲ層中で検出し、掘り込みはⅣ層まで及ぶ。埋没状態は人為的な埋没と想定され、埋没土はⅡ・Ⅲ層を主体とする。覆土下位から大型の自然礫、小礫、深鉢の上部（１）が出土した。大型礫は遺構の壁面付近から、小礫は遺構の中央付近にまとまっていたり、立ち上がり付近に散っているものがみられた。土器は深鉢や浅鉢の破片で、礫の下面から出土している。

Ｄ－ 128 号土坑（Fig. ５・11、Tab. ５、PL. 11）

Ａ区、Ｘ 103、Ｙ 135 グリッド。平面形は円形、断面形状は箱型状、立ち上がりは急で、片側はややオーバーハングする。遺構は基本土層Ⅲ層中で検出し、掘り込みはⅣ層まで及ぶ。埋没状態は人為的な埋没と想定され、埋

没土はⅢ層を主体とする。覆土中位から大型の自然礫、礫の下面から底面にかけて深鉢の破片（１）が出土した。

Ｄ－129 号土坑（Fig. ５・11、Tab. ５、PL.11）

Ａ区、Ｘ 103、Ｙ 135 グリッド。平面形は円形、断面形状は箱型状で、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。遺構は基本土層Ⅲ層で検出し、掘り込みはⅣ層まで及ぶ。埋没状態は人為的な埋没で、埋没土はⅢ層を主体とする。遺物はほぼ検出面である覆土上位と底面付近から出土している。覆土上位からは横位状態の深鉢（１・２）が２点、底面付近からは、磨石が２点出土した。少なくとも２期にわたって遺構が埋没したと考えられる。

Ｄ－193 号土坑（Fig. ５・13、Tab. ６、PL. ２・12）

Ａ区、Ｘ 102、Ｙ 129 グリッド。平面形は円形、断面形状は箱型状である。遺構は基本土層Ⅱ層で検出した。埋没状態は人為的な埋没で、埋没土はⅡ・Ⅲ層を主体とする非常にしまりの強い灰黄褐色土である。遺物は覆土上位から、横位状態の深鉢（１）、口縁部片（２）、底部付近まで沈線が入る深鉢の破片（３）が同レベルで出土した。覆土中位以下底面まで、遺物は少量である。

Ｄ－198 号土坑（Fig. ５・13、Tab. ６、PL. ２・12・16）

Ａ区、Ｘ 99、Ｙ 132 グリッド。平面形は円形、断面形状は箱型状で上位から下位にかけてほぼ垂直に掘り込まれている。基本土層Ⅱ層中で遺構を検出した。埋没状態は人為的な埋没と想定され、埋没土は焼土や炭化物を多量に含む灰褐色土である。遺物は、底面直上で多量の土器片、石器とともに小礫が出土した。土器は深鉢３個体分の破片（１～３）が出土した。石器は磨石が１点、打製石斧が２点出土した。また、棒状の土製品（５）が１点あるが、器種は不明である。土器は阿玉台式、勝坂式、焼町類型の特徴をもつものがある。

Ｄ－218 号土坑（Fig. ６・13、Tab. ６）

Ａ区、Ｘ 105、Ｙ 129 グリッド。集石遺構。平面形は楕円形、断面形状は碗型状で底面にやや凹凸がみられる。遺構は基本土層Ⅰ層中で検出した。埋没状態は人為的な埋没と想定され、埋没土はⅡ層を主体とする。土坑内には、約 66 × 77 ㎝の楕円形の範囲に直径 10 ～ 30 ㎝の礫や剥片が集中しており、このうち約 60％が焼石であった。集石の範囲は掘方のやや内側で収まっており、礫の並べ方は、形状と大きさによる凹凸はあるものの、上面は平坦に近い状態である。掘り込みは浅く集石の上面を含めても約 20 ㎝程度で、Ⅲ層上面でとまる。焼土や炭化物の混入は確認できなかった。

Ｄ－219 号土坑（Fig. ６・13、Tab. ６、PL. ２・13・17）

Ａ区、Ｘ 105、Ｙ 129 グリッド。集石遺構。平面形は円形、断面形状は碗型状で、底面にやや凹凸がみられる。基本土層のⅠ層中で遺構を検出した。埋没状態は人為的な埋没と想定され、埋没土はⅠ層を主体とし、径３～５㎝のロームブロックを少量含む。焼土や炭化物は含まれていない。土坑内には直径 60 × 70 ㎝の範囲に径 10 ～ 20 ㎝の自然礫や剥片が集中しており、このうち 20％が焼石であった。底面が不明瞭であったため、基本土層Ⅲ層まで断ち割り調査を行った結果、掘り込みはⅡ層中でおさまることが分かった。また、礫や剥片とともにに深鉢の破片（１）が一個体分出土した。ほかの集石遺構Ｄ－ 218･220･229･243 では土器はほとんど出土していない。

Ｄ－220 号土坑（Fig. ６・14、Tab. ６）

Ａ区、Ｘ 106、Ｙ 130 グリッド。集石遺構。平面形は楕円形、断面形状はやや深い碗型状である。掘り込みは浅く、Ｄ－ 218 と同様に 20 ㎝程度である。基本土層Ⅰ層中で遺構を検出し、掘り込みはⅡ層まで及ぶ。埋没状態は人為埋没と想定され、埋没土はⅠ層を主体としたローム粒を少量含む暗褐色土で、焼土や炭化物は含まれていない。土坑内には径 20 ～ 30 ㎝の自然礫や剥片が中央付近に集中しており、焼けた小礫も検出された。土器は出土していない。

Ｄ－228 号土坑（Fig. ５・９、Tab. ７、PL. １・12）

Ａ区、Ｘ 104、Ｙ 127 グリッド。平面形は円形、断面形状は浅い碗型状で緩やかに立ち上がる。遺構は基本土層Ⅰ層下位で検出し、掘り込みはⅢ層まで及ぶ。底面は細かな凹凸はあるものの全体的に平坦で、ややしまりが強い。人為的な埋没と想定され、遺構内でピットを２基検出した。炉と想定できる焼土範囲及び掘り込みは確認できな

かった。出土遺物は、深鉢の破片（１）、浅鉢の破片（２）、打製石斧８点、棒状石器１点、礫石器 10 点、凹石（３）２点、石皿（４）１点のほか、多量の剥片がある。出土遺物と遺構形態から竪穴建物跡である可能性が推測される。

Ｄ－ 229 号土坑（Fig. ６・９、Tab. ７）

Ａ区、Ｘ 107、Ｙ 130 グリッド。集石遺構。平面形は不整形な円形で、断面形状は碗型状で底面には凹凸がみられる。遺構は基本土層Ｉ層中で検出した。Ｊ－５号竪穴建物跡と重複し、これより新しい。埋没状態は人為的な埋没と想定され、埋没土はＩ層を主体とする。焼土や炭化物の混入は確認できなかった。土坑内では直径 90 × 60 ㎝の範囲に径 10 ～ 20 ㎝の自然礫や剥片が集中しており、そのうち約 60％が被熱した礫であった。集石範囲の上面には平坦性があり、底面付近の集石の状態も同様である。掘り込みの底面が不明瞭であったため、基本土層Ⅲ層まで断ち割って断面観察を行った結果、土坑の底面はⅡ層中におさまることが分かった。

Ｄ－ 240 号土坑（Fig. ６・14、Tab. ７、PL. 13・17）

Ａ区、Ｘ 102、Ｙ 129 グリッド。平面形は円形を呈し、断面形状は碗型状である。上面が攪乱と重複する。埋没状態は人為的な埋没と想定され、埋没土は基本土層Ｉ・Ⅱ層を主体としており、掘り込みはⅢ層まで及ぶ。底面直上から、深鉢（１）がほぼ形状を保ったたまま横位状態で出土した。胴下部から底部にかけては欠損している。胴部が土坑底面に接地しており、廃棄される以前に欠損していたことが推測される。土器は阿玉台Ｉａ・Ⅱ式の特徴をもつ。

Ｄ－ 243 号土坑（Fig. ６・14、Tab. ７、PL. １）

Ａ区、Ｘ 110、Ｙ 136 グリッド。集石遺構。平面形はやや歪んだ楕円形を呈し、断面形状は不明である。Ｊ－４号竪穴建物跡と重複し、これを切る。当初はＪ－４号竪建物跡内の遺物集中範囲と想定して掘削を進めていたが、礫の集中範囲と土坑の平面プランを確認したため、別の遺構と判断した。集石は主に直径 15 ～ 30 ㎝の自然礫や剥片で、このうち約 10％が被熱した礫であった。これらの中には磨石と石皿の端材が含まれており、礫は土坑の底面付近まで入っていた。時期を決定できる土器は出土しなかったが、ほかの集石遺構やＪ－４との重複関係から、縄文時代中期中葉以降と想定される。

４　ピット（Fig.、５・６・13、Tab. ８・９、PL. １）

縄文時代中期中葉と想定されるピットは、Ａ区で 34 基を検出した。これらのピットには、竪穴建物跡に伴うような配置や、掘立柱建物跡が想定される配置などは確認できなかった。ピットについては一覧表でまとめて報告する。

２　奈良・平安時代

奈良・平安時代の遺構は、Ａ区で竪穴建物跡３軒（Ｈ－４～６）、溝１条（Ｗ－７）、Ｂ区で竪穴建物跡３軒（Ｈ－１～３）、溝６条（Ｗ－１～６）、掘立柱建物跡１棟（Ｂ－１）、ピット 29 基、道路状遺構２条（Ａ－１・２）を検出した。Ｂ区は調査区内への撹乱の影響が大きく、Ｈ－３付近で約 30 ㎝、Ｔ－１付近で 60 ㎝近く地山（基本土層Ⅲ層）が削平されている。

１　竪穴建物跡

Ｈ－１号竪穴建物跡　（Fig. ７・15、PL. ３・４・18）

位置：Ａ区。Ｘ 121・122、Ｙ 131・132 グリッド。**平面形状**：方形と想定される。南東側を攪乱によって削平される。**規模**：5.19 × 4.24 ｍ、残存深度 61 ㎝。**床面**：ロームブロック・As － BPG・白色粘質土を混和した貼床で、しまりが非常に強く堅緻である。**柱穴・貯蔵穴**：完掘段階では検出できず、掘方調査で西隅と東隅で浅い掘り込みを２箇所確認した。**カマド**：基本土層Ⅱ～Ⅲ層を掘り込んで造設される。燃焼部・煙道部を掘り込み、袖部を掘り込んだのち、白色粘質土をレンガ状に成形したものを構築材として袖に使用している。左袖は残存していたが、右袖はカマド前面でブロック状に崩れていた。焼成部の横断面で、火床面と灰層をそれぞれ２層確認したため、

カマド内部の補修もしくは造り替えが行われた可能性がある。焼成部中央付近の覆土下位から銅製の丸鞆（２）が出土した。**遺構埋没状態**:人為的な埋没と想定される。遺構の北西側から南東側にかけては流入土が観察でき、最終的に攪乱によって削平されている。**遺物**：土師器坏（１）、銅製丸鞆（２）のほか、土師器の破片が数点出土した。**時期**：８世紀後半以降と想定される。

Ｈ－２号竪穴建物跡　(Fig. ７・16、PL. ３・18)

位置:Ａ区。Ｘ 118･119、Ｙ 133 ～ 135 グリッド。**重複**:攪乱とＷ－１号溝に切られる。**平面形状**:方形。**規模**:5.13 × 4.70 ｍ、残存深度 62 ㎝。**床面**:ロームブロック･暗褐色土を混和した貼床で、しまりが非常に強く堅緻である。カマド前は特にしまりが強い。**柱穴・貯蔵穴**：検出されなかった。**カマド**：カマドは２基である。カマド１・２ともに東カマドで、Ｗ－１号溝及び攪乱によって一部が削平される。２基とも地山のⅡ～Ⅲ層を掘り込んで造設される。カマド１の袖部は地山の基部にロームブロックと白色粘質土の混和土で構築されていた。カマド２の袖はほとんど残存していない。カマド１・２の上場部分で、逆Ｕ字状に焼土・ロームブロック・白色粘質土の混和土を検出しており、構築材の一部とみられる。両カマドの煙道口付近と推定される場所から土師器甕の破片が出土した。カマド２の焼土範囲上面に、カマド１の焼土・炭化物の散在範囲と硬化面が広がっていたことから、カマド２→カマド１の順に使用していたと考えられる。**遺構埋没状態**：自然埋没と想定され、ローム粒を含むⅡ層を主体とする暗褐色土で埋没している。遺物は初期段階の埋没土に包含されている。**遺物**：主にカマド１の北側付近に集中しており、床面より５㎝程度高い位置から出土した。須恵器坏（３）、須恵器蓋（５）、土師器甕（６・７）、須恵器甕底部の転用硯（８）、砥石（９）などである。須恵器坏（４）は、埼玉県南比企産とみられるもので、床面直上から出土した。**時期**：８世紀第３四半期頃と想定される。

Ｈ－３号竪穴建物跡　(Fig. ７・17、PL. ４・18)

位置：Ａ区。Ｘ 119・120、Ｙ 128 ～ 130 グリッド。**重複**：攪乱・Ｄ－１号土坑と重複し、これらに切られる。**平面形状**：長方形。**規模**：4.60 × 2.82 ｍ、残存深度 16 ㎝。**床面**：全体的に硬化していたが、明確な貼床は確認できなかった。**柱穴・貯蔵穴**：カマドの北側と南側に貯蔵穴とみられる土坑を検出した。貯蔵穴１は 78 × 62㎝、深さ 24 ㎝、貯蔵穴２は 81 × 63㎝、深さ 26 ㎝である。主柱穴と判断できるピットは検出されなかった。**カマド**:東カマドである。攪乱とＤ－１によって両袖の上面と右袖が切られるが、左袖は部分的に残存していた。火床面は不明瞭であった。**遺構埋没状態**：遺構上面のほとんどを攪乱によって削平されており、遺構の残存深度は 10 ㎝前後である。埋没土は焼土・ローム粒を含む黄褐色土で、床面もしくは掘方内の埋没土であることが推定される。**遺物**：貯蔵穴１からカマドの構築材、須恵器片が出土した。貯蔵穴２から灰釉陶器（１）、カマド内から鎌の刃先（２）、床面直上から台石（３）が出土した。**時期**：９世紀前半と想定される。

Ｈ－４号竪穴建物跡　(Fig. ５・17、PL. ３・18)

位置：Ａ区。Ｘ 105、Ｙ 128・129 グリッド。**平面形状**：方形。**規模**：2.80 × 2.19 ｍ、残存深度 26 ㎝。**床面**：他の竪穴建物跡のような硬化した貼床は検出されなかった。しまりはあるものの、床面は全体的に凹凸があり、中央に細長い楕円形の掘り込みを検出した。**柱穴・貯蔵穴**:南西端と南東端に貯蔵穴とみられる土坑を検出した。貯蔵穴１は 62 × 56㎝、深さ 21 ㎝、貯蔵穴２は 34 × 38㎝、深さ 41 ㎝である。貯蔵穴１の脇から壁の立ち上がりにかけて、焼土と炭化物が少量混入する白色粘質土の塊が検出された。主柱穴と判断できるピットは検出されなかった。**カマド**：東カマドである。天井部・袖部はほとんど破壊されていた。左袖の一部が残存している。**遺構埋没状態**：上位～中位は自然埋没、下位は人為的な埋没と想定される。**遺物**：遺構中央の掘り込み付近から、２点の墨書土器（１・２）､貯蔵穴から土師器坏が出土した。**時期**:９世紀第４四半期～ 10 世紀初頭と想定される。

Ｈ－５号竪穴建物跡　(Fig. ５・18、PL. ３・18)

位置：Ａ区。Ｘ 101・102、Ｙ 128・129 グリッド。**平面形状**：方形。**規模**：5.84 × 4.15 ｍ、残存深度 87 ㎝。

床面：ロームブロックと黒色土を混和した貼床で、非常にしまりが強く堅緻である。カマド前は特に硬化していた。南西側にかけて床面が５～７㎝程度高くなる。出入口もしくは間仕切りとしての役割があった可能性も考

えられる。また遺構中央のやや南寄りから、上面が平坦な台石を検出した。断ち割りを行った結果、掘方段階で据えてから、貼床をしていたことが分かった。**柱穴・貯蔵穴**：カマド南側から深さ72㎝のＤ１を検出した。Ｄ１の北側にＤ２・Ｄ３、西側にＤ４があり、Ｄ３・Ｄ４は床下土坑とみられる。Ｄ１は基本土層Ⅵ層の白色粘質土層まで掘り込まれており、覆土下位はこの白色粘質土層が堆積していたことから、粘質土を採集するための土坑であった可能性が考えられる。Ｄ２は上面にカマドの構築材とみられる粘質土が広がっていた。Ｄ３・Ｄ４はローム粒・焼土粒・炭化物粒を含んだ土で埋められており、上面には貼床が及んでいた。**カマド**：東カマドである。残存する煙道部から火床面の窪みの端まで1.6ｍ、火床面からの上面までの高さが0.6ｍである。天井部が一部残存しており、煙道の先端部は攪乱に切られるものの、煙出口の一部を確認することができた。右袖が一部残存していた。袖部は地山であるソフトローム（基本土層Ⅱ層）を掘り込み、掘り残した袖の基部に自然礫を立て、白色粘質土と黒色粘質土で構築する。**遺構埋没状態**：人為的な埋没と想定される。上位はⅡ層を主体とする暗褐色土、下位はロームブロック主体の黄褐色土で埋没している。**遺物**：墨書土器（**１**）と灰釉陶器（**４**）は壁周溝付近の床面、コモ編石（**８**）は台石と隣接して床面直上から出土した。**２・３・６・７**は覆土中位から下位で出土した。**時期**：９世紀後半と想定される。

Ｈ－６号竪穴建物跡　(Fig. ５・19、PL. ３・19)

位置:Ａ区。Ｘ100･101、Ｙ134･135グリッド。**平面形状**:方形。**規模**:4.96×3.81ｍ、残存深度45～50㎝。**床面**:ロームブロックと黒色土を混和した貼床で、中央付近が特にしまりの強い硬化面であった。**柱穴・貯蔵穴**：検出した６基のピットのうち、Ｐ４・６は掘り込みが明瞭で柱穴の可能性が考えられる。カマド南側に貯蔵穴とみられる土坑を検出した。**カマド**:東カマドである。地山であるハードローム（基本土層Ⅲ層）を掘り込んでいる。全長1.45ｍ、下幅0.5ｍである。カマドの前面に天井部の構築材とみられる切り石が崩落していた。灰白色を呈する凝灰岩質砂岩で、被熱による赤化が顕著であった。カマド燃焼部付近の上面に黒色粘質土が張り付けられており、構築材の一部とみられる。**遺構埋没状態**：自然埋没と想定され、上位はⅡ層主体、下位はロームブロックを主体とする暗褐色土で埋没している。**遺物**：土師器坏（**３**）が貯蔵穴内から出土した。土師器坏（**１・２**）は貯蔵穴が埋まったあと廃棄されたものとみられる。須恵器坏（**４**）、短頸壺（**７**）は床面直上から出土し、短頸壺はカマド正面に正位状態で置かれていた。**２・５・６**は覆土中位からである。**時期**：８世紀第２・３四半期と想定される。

２　竪穴状遺構

Ｔ－１号遺構　(Fig. ７・20・21、PL. ４・18)

位置：Ａ区。Ｘ117・118、Ｙ131～133グリッド。**平面形状**：隅丸方形と想定される。**重複**：攪乱、Ｗ－４・Ｗ－６号溝と重複し、これらより旧い。**規模**：4.60×2.82ｍ、残存深度16㎝。**床面**：掘り込みは基本土層Ⅳ層まで及ぶ。中央付近に平坦性はあるものの、貼床と明瞭な硬化面は検出されなかった。中央付近から縁辺に向かって緩やかに立ち上がる。**柱穴**：遺構内では３基のピットを確認した。埋没土と検出状況から遺構に伴うことが想定されるが、底面に礫や硬化部などはなく、Ｐ３はＤ３のすぐ脇で検出されているため、これらを主柱穴とする確証は得られなかった。Ｐ１の底面からは灰の塊と炭化物を検出した。**炉跡**：中央からやや北寄りの場所に１基検出した。炉上面には流入土とともに被熱痕跡の認められる自然礫が５石並んでおり、これらの下面から火床面を検出した。礫の中には鍛冶滓の付着した金床石（**14**）とみられるものがあった。炉はⅣ層を掘り込んだ地床炉で、中央付近が特に赤化していた。**遺構埋没状態**：人為的な埋没と想定される。遺構内のＤ１～５と竪穴遺構内の埋没土に大きな差異はなく、堆積状況や遺物出土状況などから、土坑を含めて一体的に埋没した過程が考えられる。埋没土はⅠ・Ⅱ層を主体とし、ロームブロック・ローム粒を含む。特に遺構の北西側、中央付近の埋没土には多量の鍛冶滓が含まれていた。**遺物**：遺物は主に遺構の北側を中心に出土した。北西側には碗型鍛冶滓（**９・10**）などの遺物が上位から床面まで集中しており、Ｄ１から須恵器坏（**２**）、Ｄ５から須恵器坏（**３**）、Ｄ２からは花崗岩とみられる金床石の端材が出土した。再結合滓（**13**）は東側の立ち上がり付近の床面出土である。

また、Ｄ１～３・５内の埋没土の篩と水洗を行った結果、砂鉄・鍛造剥片・粒状滓を検出した。**時期**：９世紀前半頃と想定される。

３　掘立柱建物跡

Ｂ－１号建物跡　(Fig. ７・21、PL. ４)

10 基の柱穴（Ｐ－１～10）から構成される。それぞれの配置から２間×３間の掘立柱建物跡とみられる。棟持柱と想定されるピットは検出されなかった。柱穴の計測値は一覧表で報告する。

４　土坑 (Fig. ５～７、Tab. ４～７)

縄文時代以外の土坑はＡ区で 89 基、Ｂ区で 10 基、計 99 基を検出した。いずれも明確な時期は不明であり、確実に奈良・平安時代と想定される土坑は検出されていない。Ｂ区で確認した土坑は総じて円形で残存深度が５～ 10 ㎝であった。Ａ区では同様の埋没土の特徴をもつ土坑が検出されており、掘り込みが 50 ㎝以上のものもある。Ｂ区で検出した土坑も、本来はこれらの土坑と同程度の掘り込みをもっていた可能性が考えられる。

５　ピット (Fig. ５～７、Tab. ８・９)

奈良･平安時代に帰属すると想定されるピットは､Ｂ－１号掘立柱建物跡の柱穴を除き､Ａ区で５基､Ｂ区 29 基、計 34 基を検出した。時期の決定が困難であったピットは時期不明とし、Ａ区で 150 基を確認した。ピットについては一覧表でまとめて報告する。

６　溝状遺構 (Fig. ５～７、Tab. ２、PL. ４)

溝状遺構はＡ区で１条、Ｂ区で５条、計６条を検出した。Ｂ区のＷ－１～６号溝は遺構の重複関係と埋没土の特徴から、奈良・平安時代以降に帰属することが推測される。Ａ区のＷ－７号溝は上面が削平されており、部分的な検出であった。各遺構の計測値は一覧表で報告する。

７　道路状遺構 (Fig. ７、Tab. ３)

Ｂ区の南東端で並行する２条の道路状遺構を検出した。調査区の端部であったため部分的に調査を行った。遺構の平面形態は、灰黄褐色を呈する硬化面でやや鉄分が沈着する。硬化面の厚みは２～５㎝であった。２条は重複しておらず、両側に溝や高まり等は検出されなかった。配置や硬化面の状態から、Ａ－１・Ａ－２号道路状遺構はほぼ同時期に機能していたとみられる。遺構に伴う遺物はほとんど出土しておらず､甕の破片が数点である。出土遺物から平安時代以降と想定される。Ｂ区北東から南東部にかけては基本土層Ⅱ層以下から落ち込みが始まるため、東側に谷地があると考えられる。道路状遺構の計測値は一覧表でまとめて報告する。

Tab. ２　奈良・平安時代　溝状遺構一覧表

遺構	区	位置	検出長(m)	検出幅(m)	残存深度(㎝)	主軸方位	断面	重複	時期
Ｗ－１	Ｂ区	X117,Y134～X121,Y134	16.52	0.59～0.85	28	Ｎ－79°－Ｗ	碗型	Ｈ－２・Ｐ－11と重複し、これを切る。	平安時代以降
Ｗ－３	Ｂ区	X119,Y130～X122,Y130	12.55	0.61～0.94	23	Ｎ－84°－Ｅ	碗型	Ｄ－５・Ｐ－12と重複し、これらを切る。	平安時代以降
Ｗ－４	Ｂ区	X118,Y133～X120,Y133	10.4	0.56～1.04	27	Ｎ－69°－Ｗ	箱型	Ｔ－１･Ｗ－６と重複し、これらを切る。撹乱により西側は削平を受ける。	平安時代以降
Ｗ－５	Ｂ区	X118,Y130～X123,Y130	30.72	1.04～1.6	25	Ｎ－85°－Ｅ	碗型	Ｗ－４と重複し､これに切られる。	平安時代以降
Ｗ－６	Ｂ区	X118,Y132～X118,Y134	7.28	0.70～0.81	10	Ｎ－３°－Ｅ	碗型	撹乱により南側は削平を受ける。	平安時代以降
Ｗ－７	Ａ区	X102,Y127～X107,Y127	16.18	0.43～0.73	20	Ｎ－68°－Ｅ	碗型	撹乱により南側は削平を受けており､中央付近は一部途切れる。	平安時代以降

Tab. ３　奈良・平安時代　道路状遺構一覧表

遺構	区	位置	検出長(m)	検出幅(m)	主軸方位	時期
Ａ－１	Ｂ区	X120～121,Y133～135	6.27	0.24～0.82	Ｎ－45°－Ｅ	平安時代以降
Ａ－２	Ｂ区	X120～121,Y135～136	3.25	0.24～0.82	Ｎ－48°－Ｅ	平安時代以降

Tab. 4　土坑一覧表（1）　※（　　）は残存値を示す

調査区	番号	遺構位置	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	平面	断面	覆土	時期	備考
B区	D-1	X120,Y129	186	99	26	円形	碗型	A		
B区	D-2	X120,Y129	95	82	10	円形	碗型	A		
B区	D-3	X121,Y130	96	93	14	円形	碗型	A		
B区	D-4	X120,Y130	103	97	19	円形	碗型	A		
B区	D-5	X120,Y130	113	(56)	6	円形	碗型	A		
B区	D-6	X122,Y131	81	71	14	円形	碗型	A		
B区	D-7	X119,Y133	89	(84)	6	円形	碗型	A		
B区	D-8	X120,Y132	95	67	14	不整円形	碗型	A		
B区	D-12	X122,Y133	94	85	17	円形	碗型	A		P-13･14と重複
A区	D-13	X104,Y130	98	102	43	円形	箱型	A	縄文時代中期中葉	
A区	D-14	X106,Y129	93	79	6	円形	U字型	-	縄文時代中期中葉	集石土坑
A区	D-15	X106,Y128	96	89	27	円形	箱型	A	縄文時代中期中葉	
A区	D-16	X106,Y128	117	(115)	10	円形	箱型	A		
A区	D-17	X107,Y128	121	107	16	円形	箱型	A	縄文時代中期中葉	
A区	D-19	X109,Y136	95	77	12	円形	碗型	B	縄文時代中期中葉	
B区	D-20	X119,Y135	98	67	55	円形	碗型			
A区	D-21	X109,Y138	85	73	31	不整円形	碗型	B		
A区	D-22	X109,Y137	162	136	39	円形	箱型	B		
A区	D-23	X109,Y137	73	68	22	不整円形	碗型	D		
A区	D-24	X109,Y138	134	98	52	楕円形	箱型	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-25	X109,Y136	90	94	26	円形	箱型	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-26	X109,Y136	94	55	31	楕円形	箱型	B		
A区	D-27	X108,Y136	106	100	33	円形	箱型	B		
A区	D-28	X109,Y136	102	104	30	円形	箱型	C	縄文時代中期中葉	
A区	D-29	X109,Y136	119	(79)	29	円形	碗型	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-30	X108,Y137	99	90	15	円形	碗型	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-31	X108,Y137	300	231	44	楕円形	箱型	B	縄文時代中期中葉	D-30と重複
A区	D-32	X108,Y137	98	841	53	円形	箱型	B	縄文時代中期中葉	D-30と重複
A区	D-33	X108,Y137	90	77	22	不整円形	碗型	B		
A区	D-34	X108,Y138	100	106	92	円形	袋状	C		
A区	D-36	X108,Y137	64	52	42	円形	U字型	D		
A区	D-37	X108,Y137	144	112	34	円形	碗型	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-38	X108,Y137	141	111	27	円形	碗型	C	縄文時代中期中葉	
A区	D-39	X107,Y138	60	(63)	7	円形	碗型	B		
A区	D-40	X109,Y135	121	114	47	円形	箱型	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-41	X108,Y134	123	122	37	円形	碗型	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-42	X107,Y135	109	100	45	円形	袋状	B		底面にピット
A区	D-43	X107,Y135	104	(86)	21	円形	碗型	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-44	X107,Y135	108	95	40	円形	箱型	B		
A区	D-45	X108,Y135	56	58	49	円形	U字型	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-46	X107,Y136	104	93	67	円形	箱型	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-47	X108,Y136	110	109	38	円形	箱型	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-48	X107,Y137	110	104	50	円形	袋状	B		
A区	D-49	X107,Y137	78	76	33	円形	碗型	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-50	X107,Y138	91	79	25	円形	碗型	B		
A区	D-51	X107,Y137	96	68	50	円形	碗型	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-52	X107,Y137	48	42	24	楕円形	碗型	B		
A区	D-53	X107,Y137	69	54	42	楕円形	碗型	B		
A区	D-54	X107,Y135	96	94	78	円形	袋状	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-55	X107,Y135	91	844	28	円形	碗型	B	縄文時代中期中葉	底面にピット
A区	D-56	X106,Y135	76	60	15	円形	碗型	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-57	X106,Y135	45	40	14	円形	碗型	B		
A区	D-58	X106,Y137	109	107	37	円形	箱型	C	縄文時代中期中葉	D-59を切る。
A区	D-59	X106,Y137	94	87	55	円形	箱型	D		D-58に切られる。
A区	D-60	X108,Y133	56	52	31	円形	碗型	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-61	X107,Y133	98	90	18	円形	碗型	-		
A区	D-62	X106,Y134	114	109	44	円形	箱型	D	縄文時代中期中葉	中央下層で土器がまとまって出土
A区	D-63	X106,Y135	99	98	52	円形	箱型	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-64	X106,Y135	115	113	67	円形	袋状	B	縄文時代中期中葉	P-79と重複
A区	D-65	X106,Y135	130	130	78	円形	袋状	B	縄文時代中期中葉	剥片
A区	D-66	X106,Y135	105	84	39	円形	箱型	D		
A区	D-67	X106,Y135	102	92	95	円形	U字型	-	縄文時代中期中葉	P-106と重複
A区	D-68	X106,Y135	59	55	1	円形	碗型	-		底面不整形
A区	D-69	X106,Y135	80	87	23	円形	碗型	B	縄文時代中期中葉	D-70と重複
A区	D-70	X106,Y135	132	129	57	円形	箱型	D		D-69と重複
A区	D-71	X106,Y139	103	96	28	円形	箱型	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-72	X105,Y139	90	85	31	円形	U字型	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-73	X108,Y129	126	118	13	円形	碗型	-		
A区	D-74	X107,Y129	92	79	175	円形	碗型	-	縄文時代中期中葉	
A区	D-75	X108,Y130	70	57	21	楕円形	碗型	B		
A区	D-76	X108,Y130	52	47	43	円形	碗型	-		
A区	D-77	X108,Y130	75	75	20	円形	碗型	B	縄文時代中期中葉	

【土坑の覆土分類】
A…黒色土。白色粒・焼土・炭化物粒を含む。しまりあり。粘性あり。B…灰黄褐色土。炭化物粒・黄色粒を多量に含む。しまり非常に強い。粘性弱い。C…灰褐色土。炭化物粒・焼土粒を多量に含む。しまり強い。粘性あり。遺物を多量に包含する。D…暗褐色土。白色粒・炭化物粒を中量、ソフトロームを多量に含む。しまりあり。粘性あり。

Tab. 5　土坑一覧表（2）　※（　　）は残存値を示す

調査区	番号	遺構位置	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	平面	断面	覆土	時期	備考
A区	D-78	X109,Y130	107	83	20	不整円形	凹凸	A		
A区	D-79	X110,Y130	(115)	(37)	12	楕円形	U字型	A		D-78・P-220・P-221と重複
A区	D-80	X112,Y136	129	111	23	円形	碗型	A	縄文時代中期中葉	
A区	D-81	X106,Y132	107	94	24	円形	碗型	D		
A区	D-82	X107,Y132	65	60	20	円形	箱型	－		P-112と重複
A区	D-83	X106,Y131	106	101	51	円形	－	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-84	X106,Y131	117	110	9	円形	箱型	B		
A区	D-85	X105,Y132	84	80	23	円形	碗型	B		
A区	D-86	X100,Y132	103	74	32	円形	U字型	D	縄文時代中期	D-184を切る。
A区	D-87	X106,Y134	86	82	19	円形	碗型	D		
A区	D-88	X105,Y134	69	67	17	円形	碗型	B		
A区	D-89	X105,Y134	112	107	47	円形	碗型	D	縄文時代中期中葉	P-121と重複
A区	D-90	X105,Y135	196	150	67	円形	碗型	－	縄文時代中期中葉～後葉か	D-90・92と重複
A区	D-91	X105,Y135	(97)	99	50	円形	碗型	－	縄文時代中期中葉	D-90・92と重複
A区	D-92	X105,Y135	57	54	11	円形	碗型	－		D-90・91と重複
A区	D-93	X105,Y135	174	140	55	不整円形	箱型	－	縄文時代中期中葉	
A区	D-94	X105,Y135	98	93	39	円形	U字型	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-95	X105,Y135	104	100	41	円形	U字型	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-96	X105,Y137	109	106	38	円形	U字型	B		
A区	D-97	X105,Y138	80	(70)	28	円形	碗型	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-98	X105,Y139	69	(65)	53	円形	碗型	－		
A区	D-100	X106,Y131	65	57	32	円形	箱型	－		
A区	D-101	X105,Y131	106	100	38	円形	碗型	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-104	X105,Y131	145	136	46	円形	箱型	－	縄文時代中期中葉	楕円形土坑と重複
A区	D-106	X105,Y134	42	39	36	円形	箱型	D		
A区	D-107	X104,Y134	88	72	23	円形	碗型	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-108	X104,Y135	137	123	35	円形	箱型	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-109	X104,Y135	94	104	36	円形	U字型	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-110	X104,Y136	147	122	72	円形	袋状	D	縄文時代中期中葉	
A区	D-111	X104,Y136	88	65	39	円形	箱型	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-112	X104,Y135	86	78	26	円形	碗型	B		
A区	D-113	X105,Y130	72	62	15	不定形	碗型	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-114	X105,Y131	97	(71)	20	円形	箱型	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-115	X105,Y131	87	59	32	円形	碗型	－	縄文時代中期中葉	
A区	D-116	X105,Y132	123	106	47	円形	碗型	－	縄文時代中期中葉	
A区	D-117	X108,Y137	(78)	(47)	31	円形	碗型	B		
A区	D-118	X104,Y132	96	95	28	円形	箱型	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-119	X104,Y132	232	224	24	円形	箱型	B		
A区	D-121	X104,Y132	92	86	39	円形	U字型	B	縄文時代中期中葉	底面にピット
A区	D-122	X103,Y133	65	61	29	円形	碗型	B		
A区	D-123	X104,Y134	99	112	60	円形	袋状	B		下層～底面に礫
A区	D-124	X103,Y134	95	87	41	円形	箱型	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-125	X103,Y134	76	74	25	円形	箱型	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-126	X104,Y135	84	(23)	13	円形	碗型	B		
A区	D-127	X103,Y135	105	90	42	円形	箱型	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-128	X103,Y135	121	106	59	円形	箱型	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-129	X103,Y135	124	108	66	円形	箱型	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-130	X103,Y137	103	101	18	円形	碗型	B		
A区	D-131	X103,Y131	107	106	36	円形	箱型	A		
A区	D-132	X103,Y131	136	134	63	円形	袋状	C	縄文時代中期中葉	
A区	D-133	X103,Y132	90	85	36	円形	碗型	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-134	X103,Y132	131	115	70	円形	箱型	B		
A区	D-135	X102,Y132	52	47	15	円形	碗型	－	縄文時代中期中葉	
A区	D-136	X102,Y132	128	109	67	円形	袋状	C	縄文時代中期中葉	
A区	D-138	X103,Y132	80	47	45	楕円形	U字型	－		
A区	D-139	X105,Y131	70	70	24	円形	U字型	－		
A区	D-140	X102,Y133	121	98	37	円形	碗型	B		
A区	D-141	X103,Y133	106	(71)	24	円形	碗型	B		
A区	D-142	X103,Y133	126	84	44	円形	箱型	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-143	X103,Y133	69	(39)	22	円形	碗型	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-144	X103,Y134	77	(29)	26	円形	箱型	－	縄文時代中期中葉	
A区	D-145	X103,Y134	82	53	12	不整円形	箱型	－		
A区	D-146	X103,Y134	98	67	28	円形	U字型	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-147	X102,Y134	104	91	55	円形	袋状	D	縄文時代中期中葉	前期初頭:花積下層Ⅰ

【土坑の覆土分類】
A…黒色土。白色粒・焼土・炭化物粒を含む。しまりあり。粘性あり。B…灰黄褐色土。炭化物粒・黄色粒を多量に含む。しまり非常に強い。粘性弱い。C…灰褐色土。炭化物粒・焼土粒を多量に含む。しまり強い。粘性あり。遺物を多量に包含する。D…暗褐色土。白色粒・炭化物粒を中量、ソフトロームを多量に含む。しまりあり。粘性あり。

Tab. 6　土坑一覧表（3）　※（　　）は残存値を示す

調査区	番号	遺構位置	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	平面	断面	覆土	時期	備考
A区	D-148	X102,Y134	90	85	48	円形	碗型	D	縄文時代中期中葉	前期前葉:関山Ⅱ
A区	D-149	X99,Y132	134	124	91	円形	袋状	D	縄文時代中期中葉	前期初頭:花積下層Ⅰ
A区	D-151	X102,Y134	164	119	71	円形	箱型	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-152	X103,Y135	120	119	75	円形	箱型	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-153	X104,Y134	120	92	49	円形	袋状	D		片側が膨らむ
A区	D-154	X102,Y135	103	102	70	円形	袋状	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-155	X101,Y135	104	80	24	円形	碗型	B		北陸系の土器片
A区	D-157	X104,Y128	125	98	60	楕円形	碗型	A	縄文時代中期中葉	
A区	D-158	X105,Y132	46	46	50	楕円形	凹凸	-	縄文時代中期中葉	
A区	D-160	X101,Y135	80	120	26	円形	碗型	A	縄文時代中期中葉	
A区	D-161	X104,Y126	103	102	34	円形	箱型	A	縄文時代中期中葉	
A区	D-162	X103,Y127	75	59	18	楕円形	碗型	A	縄文時代中期中葉	
A区	D-163	X100,Y130	85	86	21	楕円形	碗型	A	縄文時代中期中葉	
A区	D-164	X103,Y127	77	71	28	楕円形	碗型	A	縄文時代中期中葉	
A区	D-165	X104,Y132	66	60	64	円形	-	B		
A区	D-166	X104,Y132	99	79	35	円形	箱型	B		
A区	D-167	X102,Y129	101	101	24	円形	箱型	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-168	X102,Y130	154	130	59	円形	箱型	B		
A区	D-169	X102,Y130	153	(152)	46	円形	碗型	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-170	X101,Y130	91	66	36	円形	U字型	A	縄文時代中期中葉	
A区	D-171	X101,Y130	146	134	48	円形	碗型	C	縄文時代中期中葉	
A区	D-173	X102,Y131	149	133	53	円形	U字型	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-175	X101,Y130	63	58	42	円形	U字型	B		
A区	D-176	X100,Y130	101	78	38	円形	碗型	A		
A区	D-177	X100,Y130	102	(66)	21	(不整円形)	箱型	A	縄文時代中期中葉	
A区	D-178	X101,Y129	137	129	36	円形	碗型	C	縄文時代中期中葉	
A区	D-179	X111,Y137	72	72	27	楕円形	凹凸	-		
A区	D-180	X101,Y130	143	121	42	円形	碗型	A	縄文時代中期中葉	底面にピット。
A区	D-181	X100,Y131	130	115	79	円形	箱型	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-182	X104,Y130	139	84	26	(楕円形)	碗型	B		
A区	D-183	X101,Y132	94	89	43	円形	碗型	C	縄文時代中期中葉	
A区	D-184	X100,Y132	117	(67)	56	円形	箱型	B		
A区	D-186	X100,Y131	101	82	17	円形	碗型	A		
A区	D-187	X99,Y132	76	70	21	円形	箱型	A		
A区	D-188	X99,Y132	66	(52)	25	円形	碗型	D		北側にカクラン
A区	D-189	X99,Y132	97	(61)	32	円形	碗型	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-190	X99,Y132	73	(59)	20	円形	U字型	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-191	X100,Y132	108	122	41	円形	碗型	D	縄文時代中期中葉	P-231を切る。
A区	D-192	X102,Y129	108	98	45	円形	袋状	C	縄文時代中期中葉	
A区	D-193	X102,Y129	106	103	44	円形	箱型	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-194	X110,Y138	148	129	82	円形	箱型	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-195	X99,Y132	116	98	84	円形	箱型	B	縄文時代中期中葉	D-189・212・149と重複。
A区	D-197	X102,Y132	93	(73)	63	円形	箱型	B	縄文時代中期中葉	D-136に切られる。
A区	D-198	X100,Y132	129	110	69	円形	箱型	C		
A区	D-199	X111,Y137	98	44	14	楕円形	凹凸	-	縄文時代中期中葉	
A区	D-200	X101,Y133	138	125	85	円形	袋状	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-201	X101,Y134	137	126	86	円形	箱型	B		底面にピット
A区	D-202	X102,Y133	70	57	26	円形	箱型	B		
A区	D-203	X111,Y137	73	59	43	円形	碗型			
A区	D-204	X100,Y134	118	83	26	楕円形	碗型	A		
A区	D-205	X99,Y134	81	64	15	円形	碗型	A		
A区	D-208	X99,Y133	103	90	73	円形	袋状	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-209	X99,Y135	72.5	70.8	37.6	円形	-	-		
A区	D-211	X110,Y138	77	(62)	28	円形	碗型	D	縄文時代中期中葉	
A区	D-212	X99,Y132	139	125	94	円形	袋状	D		
A区	D-213	X99,Y136	85	71	25	円形	碗型	A		
A区	D-216	X105,Y129	94	(66)	4	円形	U字型	A		
A区	D-217	X106,Y128	99	99	8	円形	箱型	A	縄文時代中期中葉	
A区	D-218	X105,Y129	120	91	20	楕円形	碗型	C	縄文時代中期中葉	集石土坑
A区	D-219	X105,Y129	100	96	30	円形	箱型	C	縄文時代中期中葉	集石土坑
A区	D-220	X106,Y130	82	71	27	円形	碗型	C	縄文時代中期中葉	集石土坑
A区	D-221	X109,Y131	94	51	42	不整円形	U字型	-		
A区	D-222	X109,Y131	91	72	30	楕円形	U字型	D		
A区	D-223	X110,Y130	86	78	21	円形	U字型	B		
A区	D-224	X110,Y130	59	57	24	円形	碗型	-		

【土坑の覆土分類】
A…黒色土。白色粒・焼土・炭化物粒を含む。しまりあり。粘性あり。B…灰黄褐色土。炭化物粒・黄色粒を多量に含む。しまり非常に強い。粘性弱い。C…灰褐色土。炭化物粒・焼土粒を多量に含む。しまり強い。粘性あり。遺物を多量に包含する。D…暗褐色土。白色粒・炭化物粒を中量、ソフトロームを多量に含む。しまりあり。粘性あり。

Tab. 7　土坑一覧表（4）　※（　　）は残存値を示す

調査区	番号	遺構位置	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	平面	断面	覆土	時期	備考
A区	D-225	X109,Y129	93	84	38	円形	U字型	-	縄文時代中期中葉	P-226と重複
A区	D-226	X109,Y129	87	(76)	26	円形	碗型	-		P-225と重複
A区	D-227	X110,Y130	140	85	23	不整円形	凹凸	A	縄文時代中期中葉	
A区	D-228	X104,Y127	281	271	37	円形	箱型	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-229	X107,Y130	61	(34)	32	円形	U字型	A	縄文時代中期中葉	集石土坑
A区	D-230	X104,Y130	138	125	80	円形	袋状	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-231	X104,Y131	206	152	79	円形	箱型	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-232	X101,Y130	127	123	26	円形	碗型	B	縄文時代中期中葉	底面にピット。
A区	D-233	X102,Y129	87	73	38	円形	碗型	B		
A区	D-234	X104,Y130	99	94	53	円形	箱型	B	縄文時代中期中葉	J-3と重複
A区	D-235	X105,Y130	123	109	77	円形	袋状	B	縄文時代中期中葉	J-3に切られる。
A区	D-236	X103,Y134	101	97	67	円形	袋状	B	縄文時代中期中葉	D-143に切られる。D-144と重複。
A区	D-237	X110,Y138	144	(105)	21	円形	碗型	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-238	X108,Y136	117	103	57	円形	袋状	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-239	X103,Y132	78	76	47	円形	碗型	C	縄文時代中期中葉	
A区	D-240	X102,Y129	97	91	46	円形	碗型	D	縄文時代中期中葉	
A区	D-241	X111,Y137	95	85	19	円形	U字型	B		
A区	D-242	X112,Y138	83	(46)	27	円形	碗型	B		
A区	D-243	X110,Y36	114.4	79.3	-	楕円形	碗型か	D	縄文時代中期中葉	集石遺構。J－4と重複。
A区	D-244	X105,Y134	71	56	45	円形	碗型	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-245	X134,Y102	(69)	(69)	(45)	不整円形	碗型	D	縄文時代中期中葉	
A区	D-246	X102,Y134	79	(60)	(11)	不整円形	碗型	D		

D－9、10、18、35、99、102、103、105、120、137、150、156、159、172、174、185、196、206、207、210、214、215は欠番。

【土坑の覆土分類】
A…黒色土。白色粒・焼土・炭化物粒を含む。しまりあり。粘性あり。B…灰黄褐色土。炭化物粒・黄色粒を多量に含む。しまり非常に強い。粘性弱い。C…灰褐色土。炭化物粒・焼土粒を多量に含む。しまり強い。粘性あり。遺物を多量に包含する。D…暗褐色土。白色粒・炭化物粒を中量、ソフトロームを多量に含む。しまりあり。粘性あり。

Tab. 8　ピット一覧表（1）　※（　　）は残存値を示す

調査区	番号	位置	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	時期
B区	P-12	X120, Y130	36	32	19	奈良・平安時代
B区	P-13	X122, Y133	68	36	28	奈良・平安時代
B区	P-14	X122, Y133	26	23	26	奈良・平安時代
B区	P-15	X121, Y134	49	44	38	奈良・平安時代
B区	P-16	X120, Y134	39	(31)	56	奈良・平安時代
B区	P-17	X121, Y134	42	(36)	33	奈良・平安時代
B区	P-18	X121, Y132	41	27	40	奈良・平安時代
B区	P-19	X121, Y132	28	27	53	奈良・平安時代
B区	P-20	X121, Y134	54	51	36	奈良・平安時代
B区	P-21	X121, Y133	53	46	35	奈良・平安時代
B区	P-22	X121, Y133	47	44	42	奈良・平安時代
B区	P-23	X121, Y134	59	(43)	16	奈良・平安時代
B区	P-24	X121, Y134	52	(43)	16	奈良・平安時代
B区	P-25	X120, Y135	47	42	32	奈良・平安時代
B区	P-26	X120, Y135	53	36	30	奈良・平安時代
B区	P-27	X121, Y134	43	40	30	奈良・平安時代
B区	P-28	X121, Y134	79	55	39	奈良・平安時代
B区	P-29	X121, Y134	56	56	29	奈良・平安時代
B区	P-30	X121, Y134	40	36	37	奈良・平安時代
B区	P-31	X120, Y134	33	31	29	奈良・平安時代
B区	P-32	X118, Y132	50	32	13	奈良・平安時代
B区	P-33	X118, Y132	44	35	20	奈良・平安時代
B区	P-34	X120, Y132	27	27	42	奈良・平安時代
B区	P-35	X120, Y132	51	44	16	奈良・平安時代
B区	P-36	X120, Y131	52	52	17	奈良・平安時代
B区	P-37	X119, Y130	37	35	62	奈良・平安時代
B区	P-38	X119, Y130	37	25	17	奈良・平安時代
B区	P-39	X121, Y134	31	(23)	53	奈良・平安時代
B区	P-41	X121, Y130	39	33	36	奈良・平安時代
A区	P-42	X112, Y137	38	38	11	縄文時代中期中葉
A区	P-43	X112, Y137	29	29	10	
A区	P-44	X112, Y137	―	39	0	
A区	P-45	X112, Y137	―	41	6	縄文時代中期中葉
A区	P-46	X112, Y137	(29)	39	17	縄文時代中期中葉
A区	P-48	X110, Y138	60	45	29	縄文時代中期中葉
A区	P-49	X110, Y138	32	25	54	
A区	P-50	X110, Y135	49	39	34	
A区	P-51	X110, Y135	48	42	31	
A区	P-52	X109, Y134	60	49	23	
A区	P-53	X109, Y135	36	34	23	
A区	P-54	X109, Y135	37	32	31	

調査区	番号	位置	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	時期
A区	P-55	X109, Y135	32	30	20	
A区	P-56	X109, Y136	53	44	20	
A区	P-57	X108, Y136	35	34	23	
A区	P-58	X109, Y136	32	32	25	
A区	P-59	X109, Y136	25	22	33	
A区	P-60	X109, Y136	37	(12)	9	
A区	P-61	X109, Y137	41	34	18	縄文時代中期中葉
A区	P-62	X109, Y137	46	35	68	
A区	P-63	X109, Y138	59	48	20	
A区	P-64	X108, Y137	38	33	74	
A区	P-65	X108, Y137	44	40	44	
A区	P-66	X109, Y134	42	28	37	
A区	P-67	X109, Y134	47	40	36	
A区	P-68	X107, Y137	63	59	48	縄文時代中期中葉
A区	P-69	X108, Y135	59	34	35	
A区	P-70	X108, Y135	49	44	8	
A区	P-71	X129, Y102	48	38	29	縄文時代中期中葉
A区	P-72	X108, Y134	37	33	43	
A区	P-73	X108, Y134	44	34	68	
A区	P-74	X108, Y134	24	23	46	
A区	P-75	X108, Y134	26	24	75	
A区	P-76	X107, Y135	36	34	53	
A区	P-77	X108, Y137	38	38	30	
A区	P-78	X103, Y126	32	31	19	縄文時代中期中葉
A区	P-79	X107, Y136	43	(29)	47	
A区	P-80	X107, Y137	60	47	39	
A区	P-82	X107, Y137	49	42	37	
A区	P-84	X107, Y138	44	39	39	
A区	P-85	X105, Y135	47	36	46	縄文時代中期中葉
A区	P-86	X107, Y137	29	29	44	
A区	P-87	X107, Y137	35	29	61	
A区	P-88	X107, Y137	29	28	47	
A区	P-89	X107, Y137	28	26	59	
A区	P-91	X106, Y135	48	41	30	
A区	P-92	X106, Y137	60	54	11	
A区	P-93	X107, Y136	59	48	20	
A区	P-95	X106, Y135	32	30	47	
A区	P-96	X106, Y136	59	35	40	
A区	P-97	X107, Y134	46	38	49	
A区	P-98	X104, Y132	43	37	64	
A区	P-99	X107, Y134	53	41	53	

Tab. 9　ピット一覧表（2）　※（　　）は残存値を示す

調査区	番号	位置	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	時期
A区	P-100	X107, Y134	39	32	32	
A区	P-101	X104, Y127	39	34	39	9 世紀
A区	P-102	X104, Y127	41	41	29	9 世紀
A区	P-103	X106, Y134	26	23	8	
A区	P-104	X106, Y135	45	40	19	
A区	P-105	X106, Y135	65	47	34	
A区	P-106	X106, Y135	35	25	30	
A区	P-107	X106, Y135	30	28	18	
A区	P-109	X104, Y136	59	48	36	
A区	P-110	X106, Y133	28	26	24	
A区	P-113	X106, Y132	54	45	29	
A区	P-115	X106, Y132	65	55	17	
A区	P-116	X106, Y133	52	51	30	
A区	P-117	X106, Y133	26	26	60	
A区	P-118	X105, Y133	67	61	34	
A区	P-120	X106, Y134	35	31	18	
A区	P-122	X133, Y99	48	(30)	28	
A区	P-123	X105, Y135	50	34	47	縄文時代中期中葉
A区	P-124	X105, Y135	38	31	31	
A区	P-125	X105, Y135	48	39	47	
A区	P-126	X105, Y136	32	30	17	縄文時代中期中葉
A区	P-127	X103, Y137	36	34	63	
A区	P-128	X105, Y134	50	40	29	
A区	P-129	X105, Y134	40	35	59	
A区	P-130	X105, Y134	23	(11)	8	
A区	P-131	X104, Y135	52	37	21	
A区	P-132	X104, Y135	61	52	21	
A区	P-133	X103, Y137	48	45	31	
A区	P-134	X111, Y136	48	37	48	
A区	P-135	X104, Y136	47	46	49	
A区	P-136	X111, Y136	77	66	26	
A区	P-137	X111, Y136	52	38	42	縄文時代中期中葉
A区	P-138	X104, Y137	44	34	20	
A区	P-139	X111, Y136	37	30	72	
A区	P-141	X104, Y132	43	38	36	
A区	P-142	X104, Y132	37	28	51	縄文時代中期中葉
A区	P-143	X103, Y132	69	41	22	縄文時代中期中葉
A区	P-144	X103, Y132	39	35	16	
A区	P-145	X103, Y132	50	47	49	
A区	P-146	X103, Y132	36	27	18	
A区	P-147	X104, Y132	32	29	35	
A区	P-148	X104, Y132	40	36	53	
A区	P-149	X111, Y137	60	52	25	
A区	P-150	X104, Y133	44	34	51	
A区	P-151	X103, Y133	44	41	48	
A区	P-152	X103, Y134	31	30	70	
A区	P-153	X103, Y134	60	54	18	
A区	P-154	X103, Y135	48	37	13	
A区	P-155	X103, Y135	60	45	22	
A区	P-156	X103, Y126	34	33	22	
A区	P-157	X102, Y135	49	42	54	
A区	P-158	X111, Y137	66	52	25	縄文時代中期中葉
A区	P-159	X102, Y136	54	35	20	
A区	P-161	X101, Y136	43	40	14	
A区	P-162	X101, Y135	65	64	30	
A区	P-163	X103, Y127	53	38	59	
A区	P-164	X100, Y135	56	47	88	
A区	P-165	X99, Y135	52	48	32	
A区	P-166	X99, Y135	27	23	27	
A区	P-167	X102, Y128	56	41	31	
A区	P-168	X99, Y136	33	33	37	縄文時代中期中葉
A区	P-169	X102, Y128	39	31	16	
A区	P-170	X99, Y135	54	51	20	
A区	P-171	X111, Y137	47	27	21	縄文時代中期中葉
A区	P-172	X98, Y135	74	58	21	中期後葉か
A区	P-173	X98, Y136	83	(36)	23	
A区	P-174	X111, Y138	40	26	13	縄文時代中期中葉
A区	P-175	X111, Y136	89	63	72	縄文時代中期中葉
A区	P-176	X100, Y133	56	47	88	縄文時代中期中葉
A区	P-177	X102, Y130	59	40	70	縄文時代中期中葉
A区	P-178	X100, Y133	39	35	61	
A区	P-179	X100, Y132	53	48	50	
A区	P-180	X103, Y126	40	35	22	縄文時代中期中葉
A区	P-182	X101, Y133	69	49	24	
A区	P-183	X101, Y131	54	50	27	
A区	P-184	X103, Y129	80	76	55	
A区	P-185	X102, Y128	34	22	19	
A区	P-186	X103, Y127	42	37	46	縄文時代中期中葉
A区	P-187	X103, Y126	32	31	18	縄文時代中期中葉
A区	P-188	X102, Y128	50	37	46	
A区	P-189	X103, Y126	45	43	51	
A区	P-190	X103, Y126	48	35	22	
A区	P-191	X103, Y126	42	37	29	縄文時代中期中葉
A区	P-192	X103, Y126	32	23	40	縄文時代中期中葉
A区	P-193	X108, Y131	40	37	29	
A区	P-194	X108, Y131	39	29	35	
A区	P-195	X108, Y131	49	47	25	
A区	P-196	X108, Y130	56	41	50	
A区	P-197	X103, Y126	41	35	56	
A区	P-198	X109, Y131	31	31	20	
A区	P-199	X109, Y130	40	33	17	
A区	P-200	X109, Y130	45	43	21	
A区	P-201	X109, Y130	38	35	44	縄文時代中期中葉
A区	P-202	X108, Y130	38	30	39	
A区	P-203	X108, Y129	42	34	43	
A区	P-204	X102, Y128	44	35	29	
A区	P-205	X109, Y129	34	30	37	
A区	P-206	X109, Y129	56	48	37	
A区	P-207	X108, Y129	33	31	25	
A区	P-208	X108, Y129	35	30	23	
A区	P-209	X102, Y128	38	35	29	
A区	P-211	X102, Y129	37	34	36	
A区	P-212	X109, Y130	33	31	27	
A区	P-213	X119, Y130	39	38	12	
A区	P-214	X109, Y130	38	36	17	
A区	P-215	X109, Y130	42	30	23	
A区	P-216	X109, Y130	51	44	25	縄文時代中期中葉
A区	P-217	X110, Y130	36	35	21	縄文時代中期中葉
A区	P-218	X103, Y129	56	44	55	
A区	P-219	X110, Y130	50	39	19	
A区	P-220	X110, Y130	50	40	5	
A区	P-223	X104, Y127	39	31	29	奈良・平安時代
A区	P-225	X104, Y126	43	35	57	9 世紀
A区	P-226	X105, Y132	50	43	45	縄文時代中期中葉
A区	P-227	X104, Y130	18	18	19	
A区	P-228	X105, Y130	53	44	138	
A区	P-229	X106, Y130	71	68	33	
A区	P-230	X101, Y132	44	36	14	
A区	P-231	X100, Y132	25	19	26	
A区	P-232	X100, Y132	29	23	11	
A区	P-233	X105, Y129	57	47	72	縄文時代中期中葉
A区	P-234	X129, Y102	45	45	29	縄文時代中期中葉
A区	P-235	X104, Y129	33	32	37	
A区	P-236	X111, Y136	44	43	42	
A区	P-237	X111, Y136	57	48	21	
A区	P-238	X111, Y137	72	66	37	
A区	P-239	X105, Y134	46	46	30	
A区	P-240	X111, Y136	57	51	33	
A区	P-241	X105, Y129	54	42	18	
A区	P-243	X107, Y132	39	35	26	
A区	P-244	X111, Y137	48	32	23	
A区	P-245	X108, Y137	56	41	83	
A区	P-246	X106, Y135	30	25	45	
A区	P-247	X105, Y129	57	41	17	
A区	P-248	X107, Y130	48	40	68	
A区	P-249	X102, Y132	50	41	45	

P -11. 40. 47. 81. 83. 90. 94. 108. 111. 112. 114. 119. 121. 140. 166. 181. 210. 221. 222. 242 は欠番

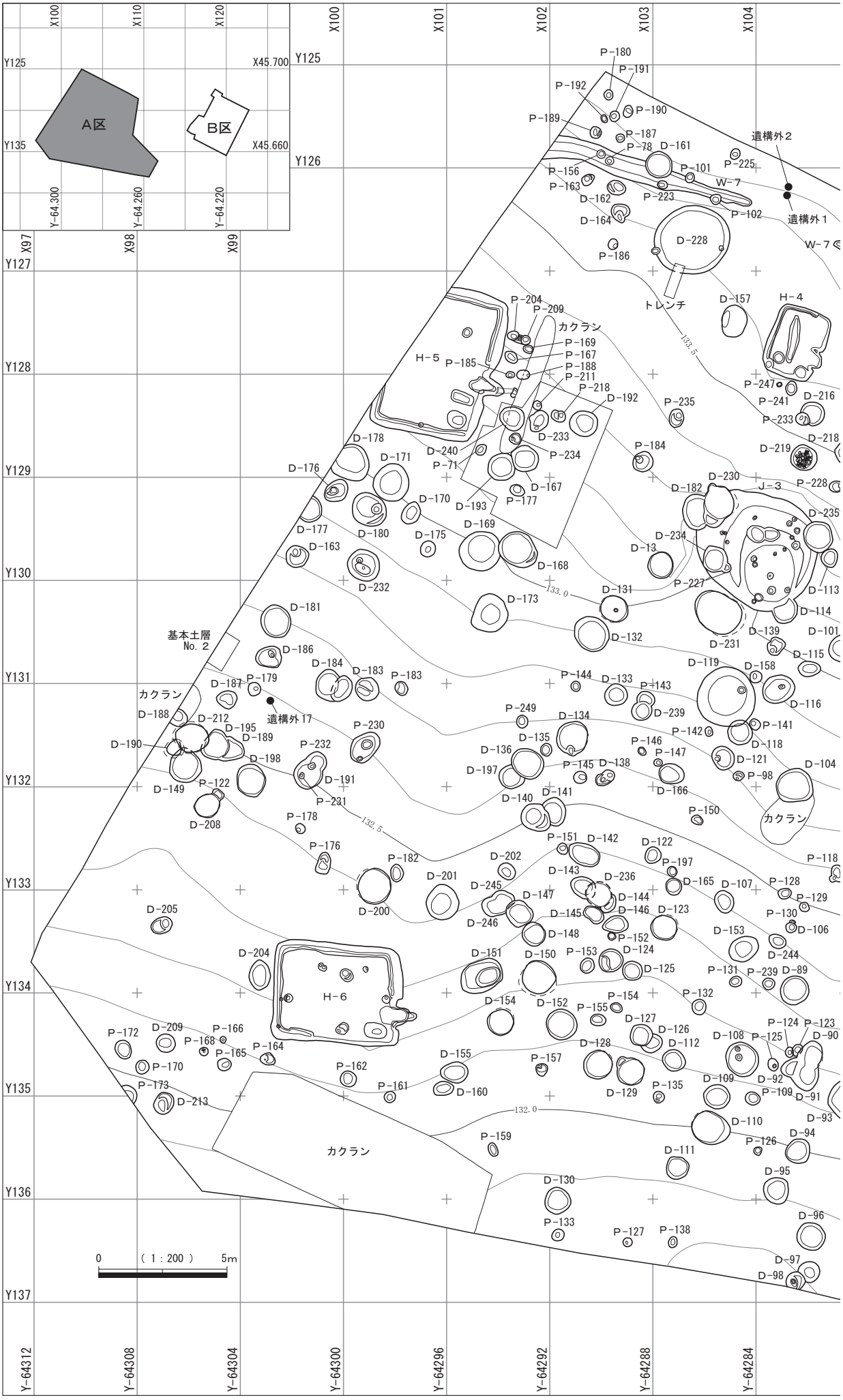


Fig. 5　五代深堀Ⅰ遺跡№2　A区全体図（1）

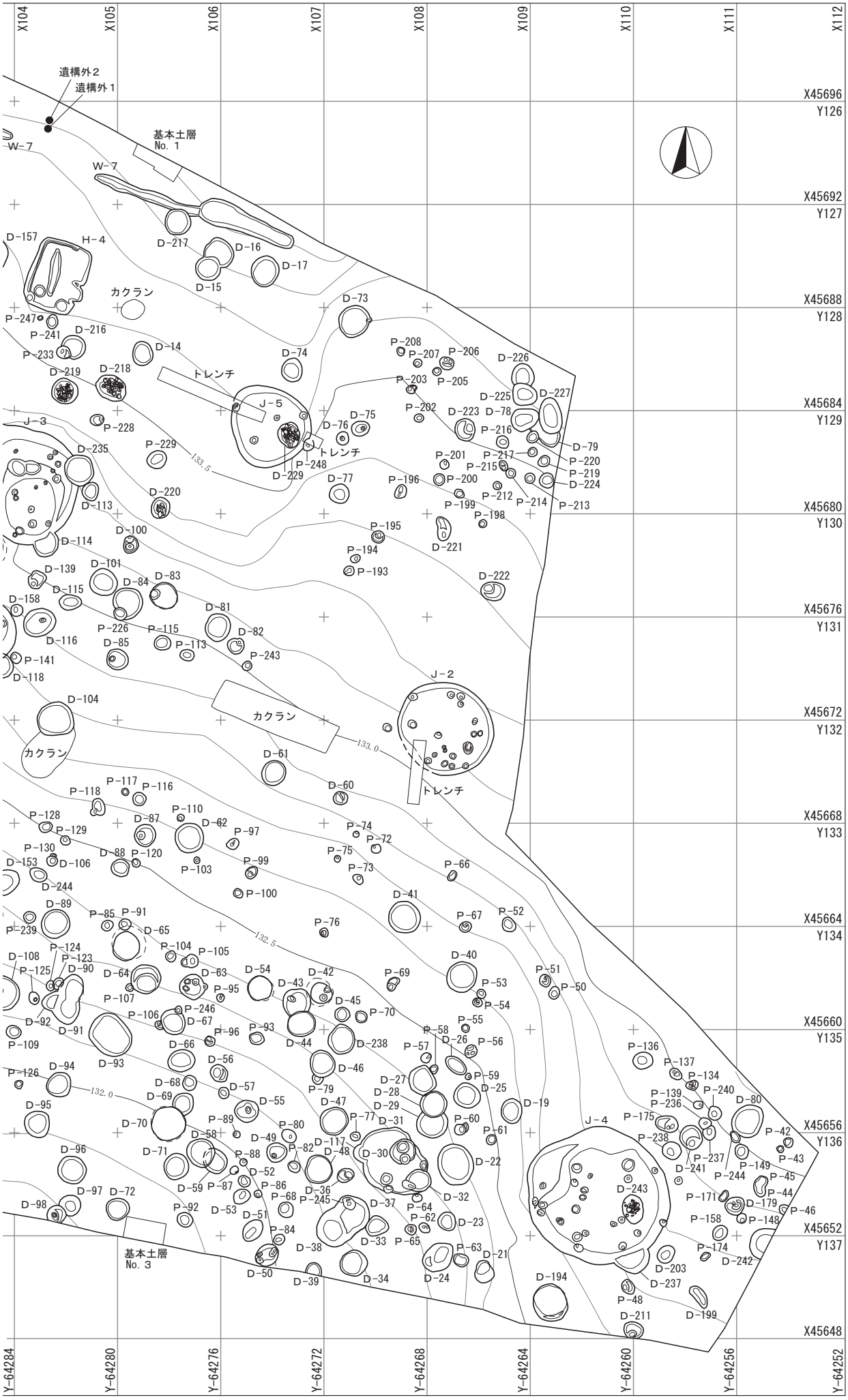


Fig. 6　五代深堀Ⅰ遺跡№2　A区全体図（2）

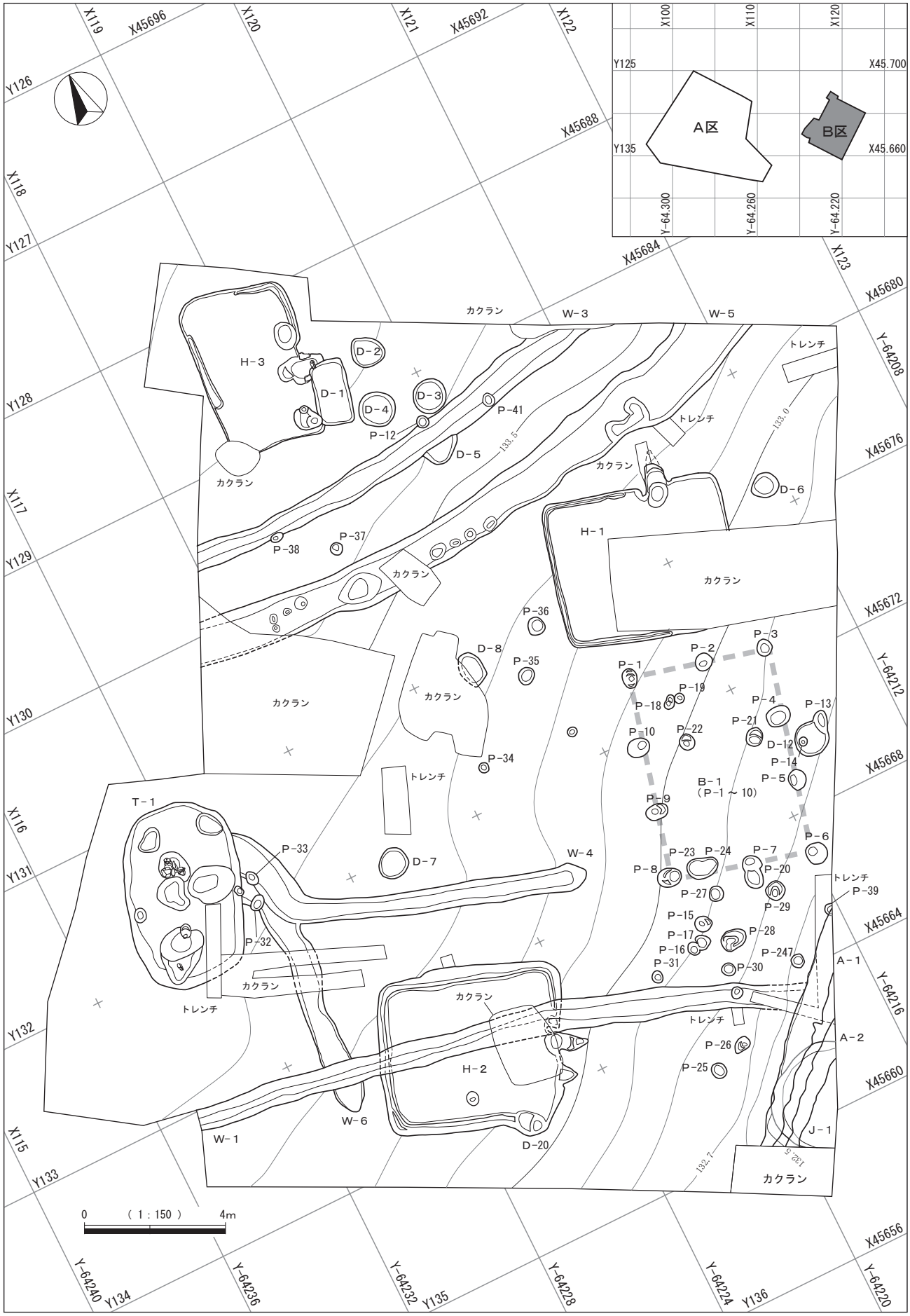
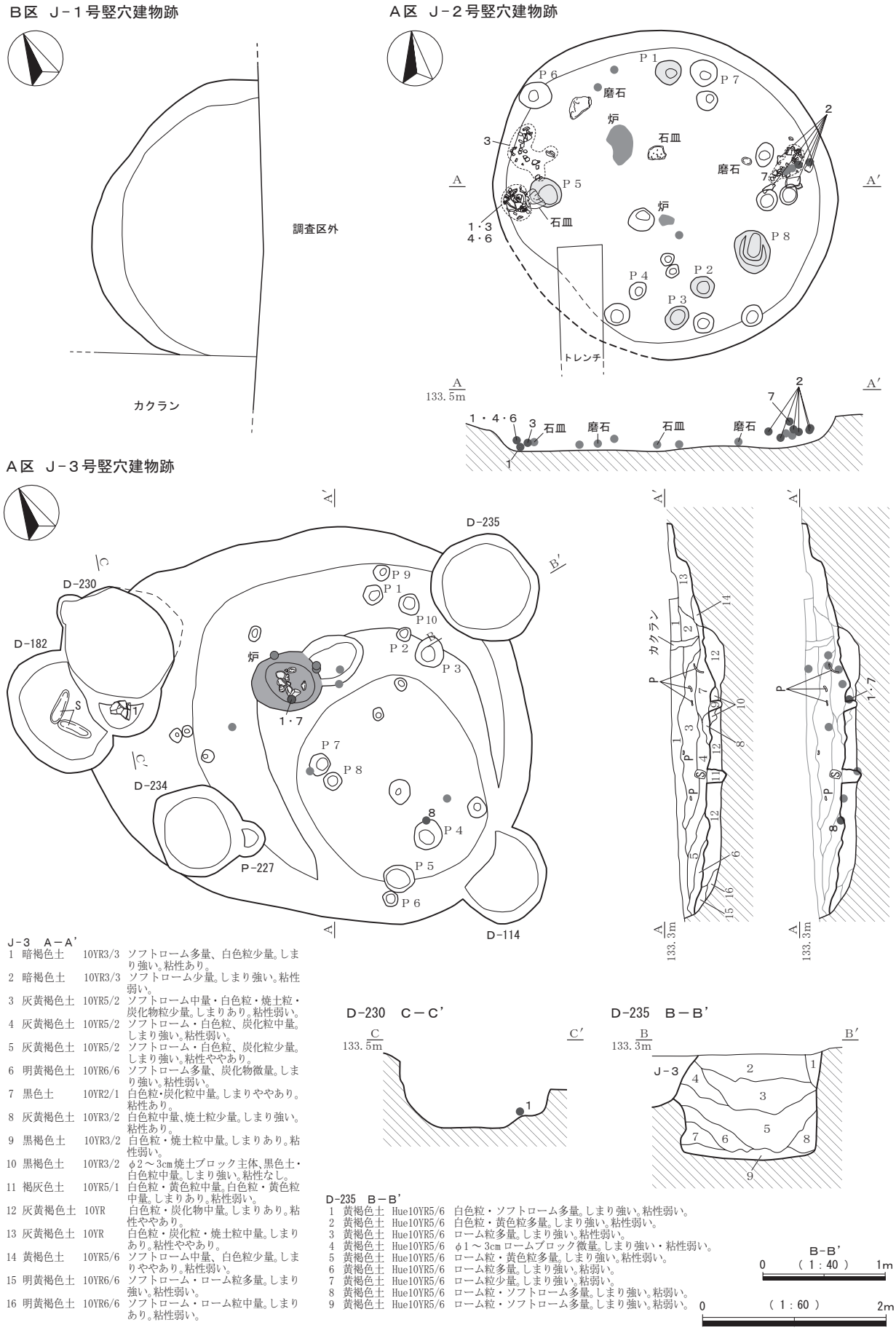


Fig. 7　五代深堀Ⅰ遺跡№.2　Ｂ区全体図



J-3 A－A′

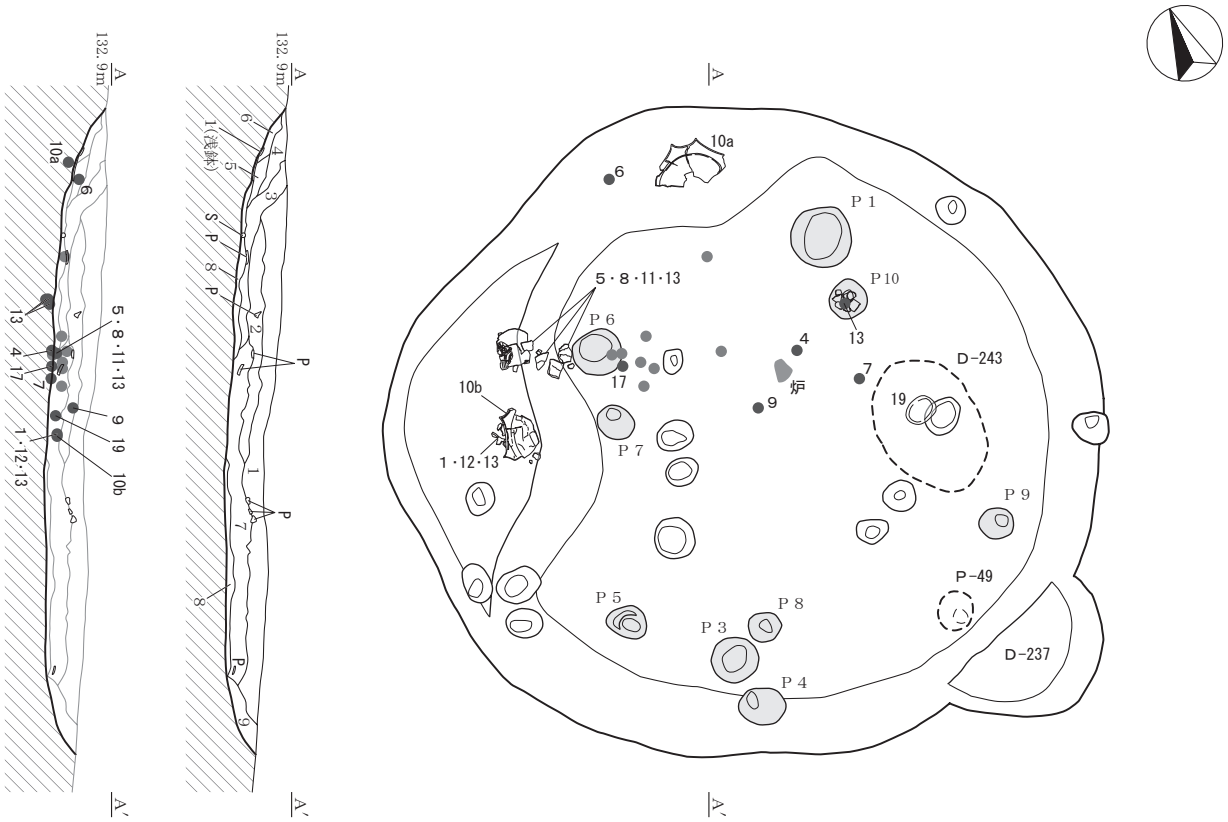
1	暗褐色土	10YR3/3	ソフトローム多量、白色粒少量。しまり強い。粘性あり。
2	暗褐色土	10YR3/3	ソフトローム少量。しまり強い。粘性弱い。
3	灰黄褐色土	10YR5/2	ソフトローム中量・白色粒・焼土粒・炭化物粒少量。しまりあり。粘性弱い。
4	灰黄褐色土	10YR5/2	ソフトローム・白色粒、炭化粒中量。しまり強い。粘性弱い。
5	灰黄褐色土	10YR5/2	ソフトローム・白色粒、炭化粒少量。しまり強い。粘性ややあり。
6	明黄褐色土	10YR6/6	ソフトローム多量、炭化物微量。しまり強い。粘性弱い。
7	黒色土	10YR2/1	白色粒・炭化粒中量。しまりややあり。粘性あり。
8	灰黄褐色土	10YR3/2	白色粒中量、焼土粒少量。しまり強い。粘性あり。
9	黒褐色土	10YR3/2	白色粒・焼土粒中量。しまりあり。粘性弱い。
10	黒褐色土	10YR3/2	φ2～3cm焼土ブロック主体、黒色土・白色粒中量。しまり強い。粘性なし。
11	褐灰色土	10YR5/1	白色粒・黄色粒中量。白色粒・黄色粒中量。しまりあり。粘性弱い。
12	灰黄褐色土	10YR	白色粒・炭化物中量。しまりあり。粘性ややあり。
13	灰黄褐色土	10YR	白色粒・炭化粒・焼土粒中量。しまりあり。粘性ややあり。
14	黄褐色土	10YR5/6	ソフトローム中量、白色粒少量。しまりややあり。粘性弱い。
15	明黄褐色土	10YR6/6	ソフトローム・ローム粒多量。しまり強い。粘性弱い。
16	明黄褐色土	10YR6/6	ソフトローム・ローム粒中量。しまりあり。粘性弱い。

D-235 B－B′

1	黄褐色土	Hue10YR5/6	白色粒・ソフトローム多量。しまり強い。粘性弱い。
2	黄褐色土	Hue10YR5/6	白色粒・黄色粒多量。しまり強い。粘性弱い。
3	黄褐色土	Hue10YR5/6	ローム粒多量。しまり強い。粘性弱い。
4	黄褐色土	Hue10YR5/6	φ1～3cmロームブロック微量。しまり強い・粘性弱い。
5	黄褐色土	Hue10YR5/6	ローム粒・黄色粒多量。しまり強い。粘性弱い。
6	黄褐色土	Hue10YR5/6	ローム粒多量。しまり強い。粘弱い。
7	黄褐色土	Hue10YR5/6	ローム粒少量。しまり強い。粘弱い。
8	黄褐色土	Hue10YR5/6	ローム粒・ソフトローム多量。しまり強い。粘弱い。
9	黄褐色土	Hue10YR5/6	ローム粒・ソフトローム多量。しまり強い。粘弱い。

Fig. 8　A・B区　J－1～3号竪穴建物跡　遺構実測図

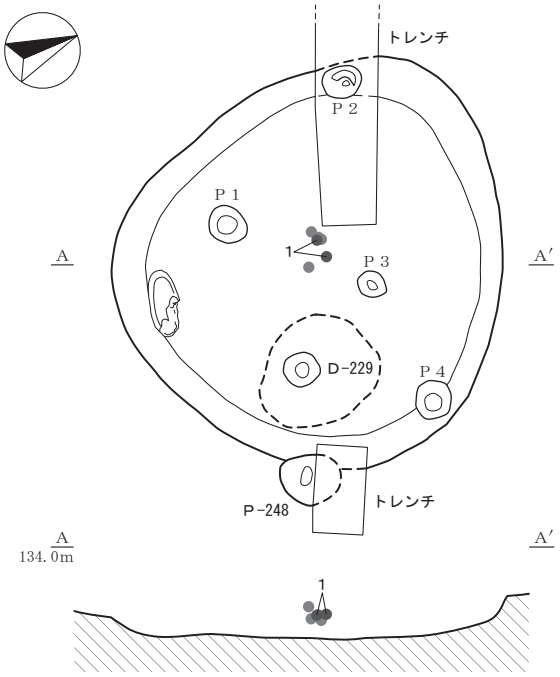
Ａ区　Ｊ－４号竪穴建物跡



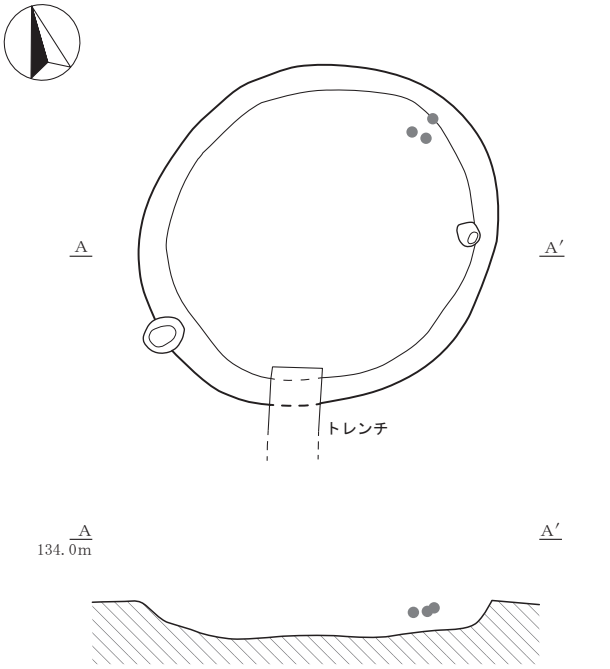
J-4　A－A′

1　暗褐色土　10YR3/3　ソフトローム少量、炭化粒微量。しまり強い。粘性弱い。
2　灰黄褐色土　10YR5/2　ソフトローム中量、炭化粒少量。しまり強い。粘性弱い。
3　灰黄褐色土　10YR5/2　ソフトローム中量、ローム粒・炭化粒・白色粒少量。しまり強い。粘性弱い。
4　黄褐色土　10YR5/6　ソフトローム多量。しまり強い。粘性弱い。
5　明黄褐色土　10YR6/6　ソフトローム中量。しまり強い。
6　黄褐色土　10YR5/6　ソフトローム多量。しまり強い。粘性弱い。
7　暗褐色土　10YR3/4　ソフトローム中量。しまり強い。粘性弱い。
8　黄褐色土　10YR5/6　ソフトローム・白色粒中量。しまり強い。粘性弱い。
9　黄褐色土　10YR5/6　ソフトローム・ローム粒中量。しまり強い。粘性弱い。

Ａ区　Ｊ－５号竪穴建物跡



Ａ区　Ｄ-228 号土坑



0　（1：60）　2m

Fig. 9　Ａ区　Ｊ－４・Ｊ－５号竪穴建物跡，Ｄ－228 号土坑　遺構実測図

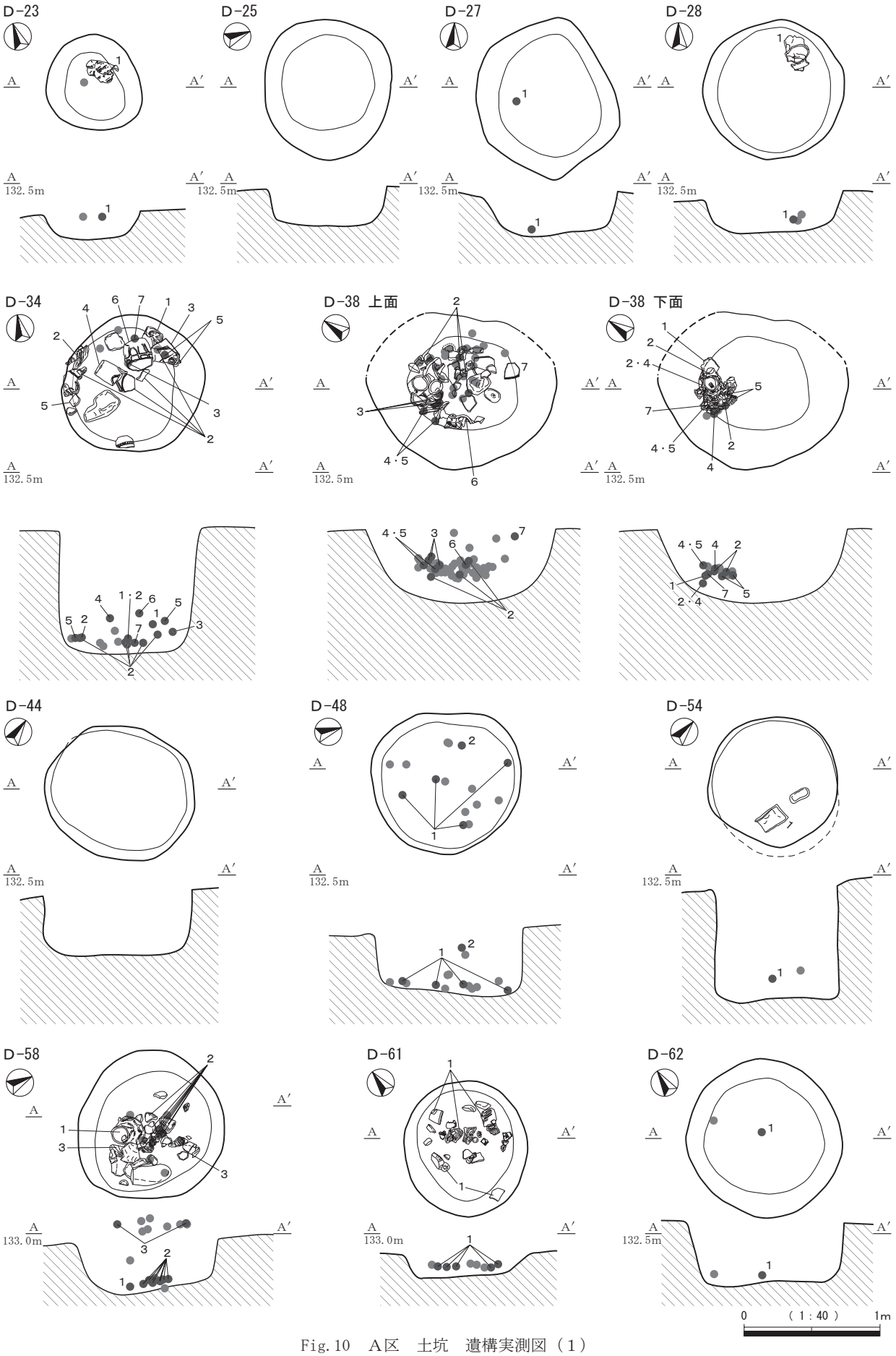


Fig.10　A区　土坑　遺構実測図（1）

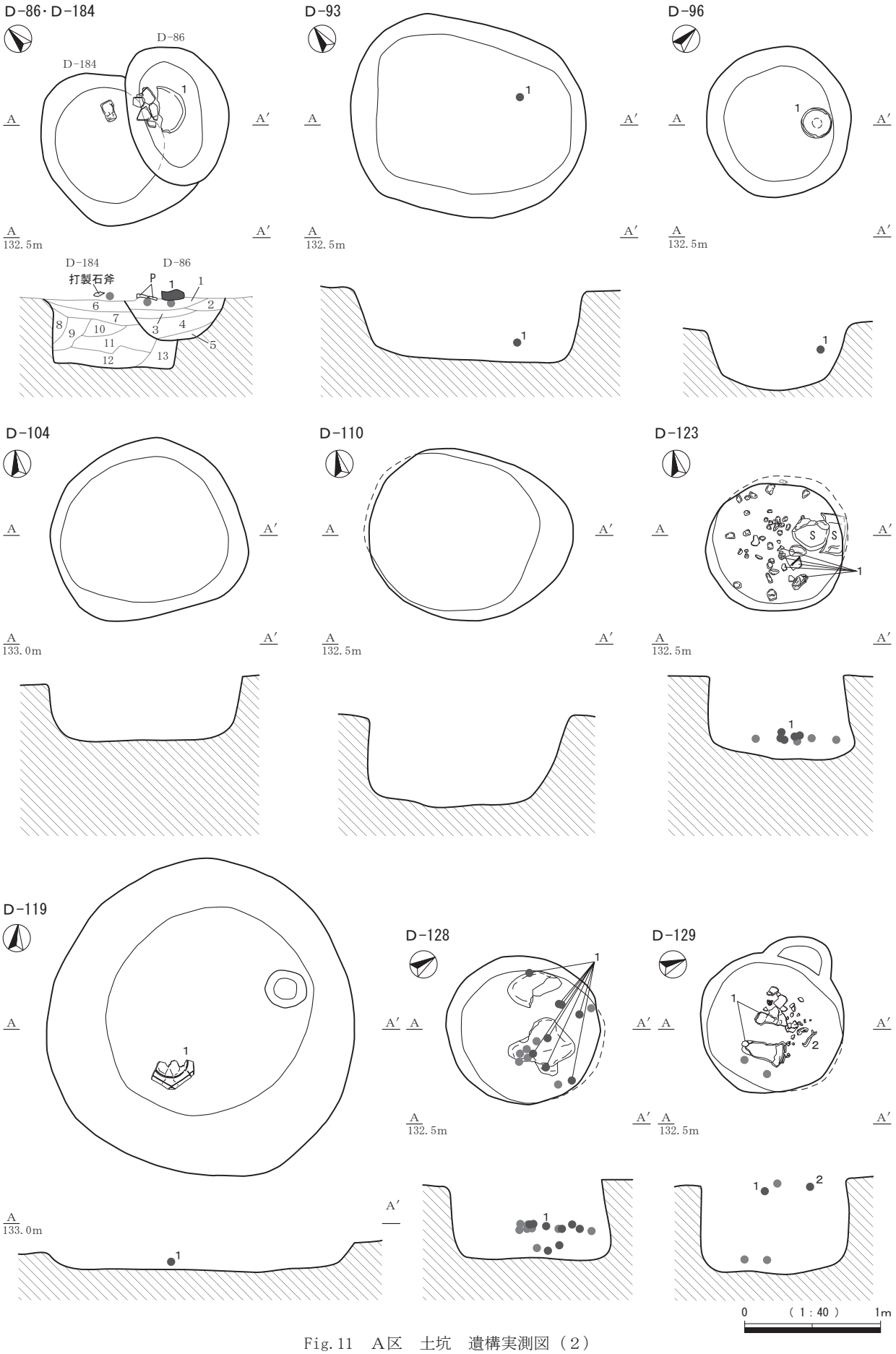


Fig.11　A区　土坑　遺構実測図（2）

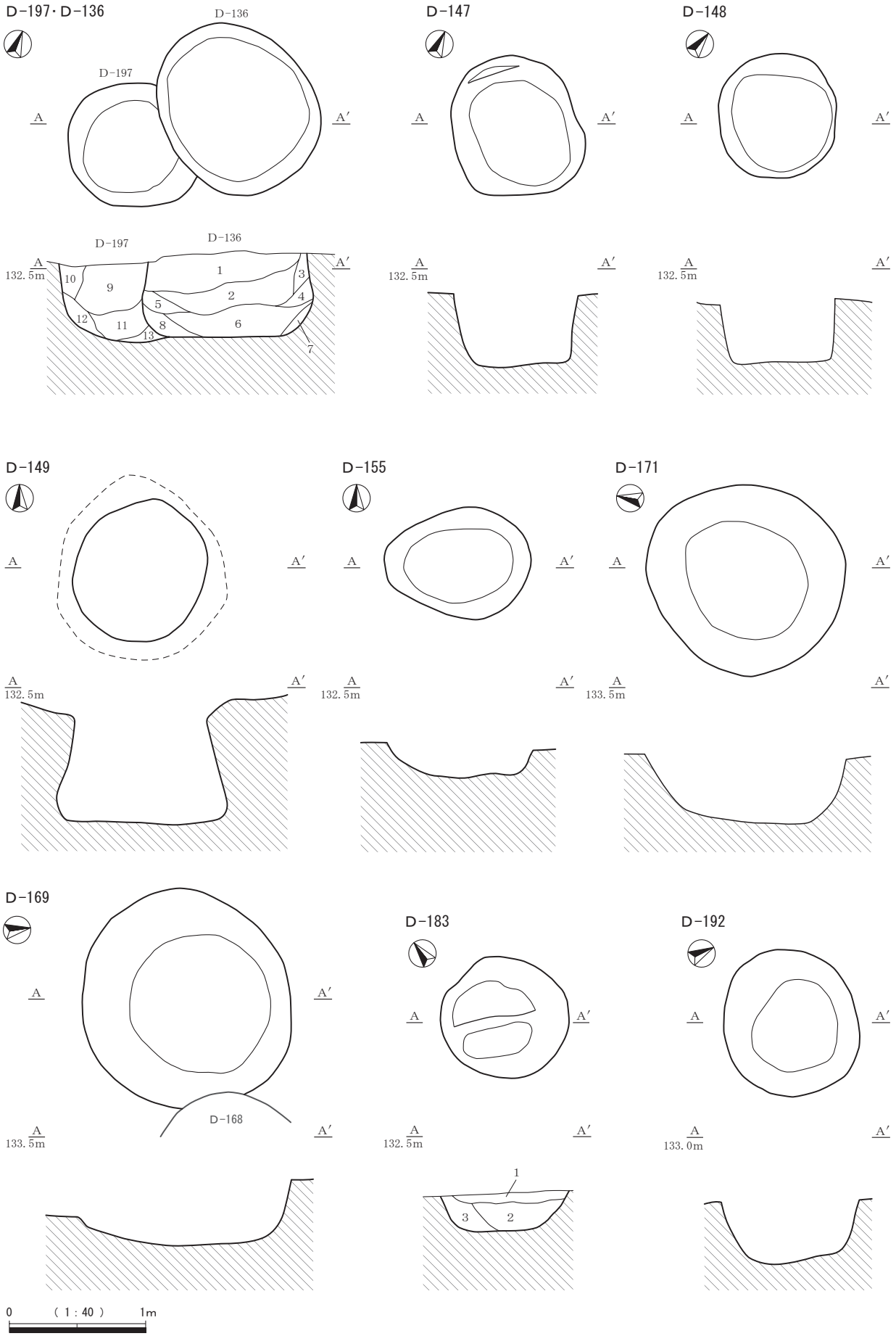


Fig.12　A区　土坑　遺構実測図（3）

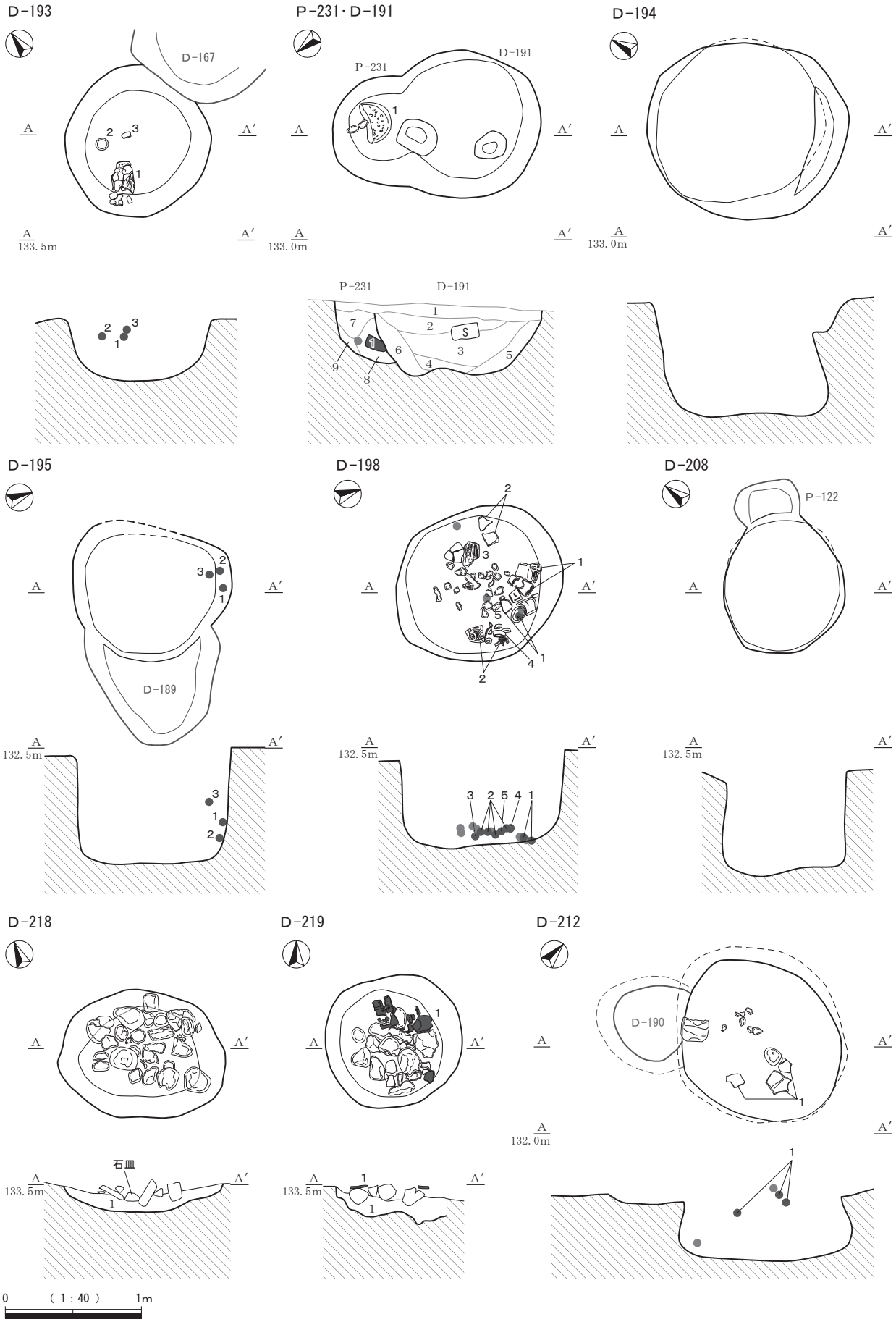
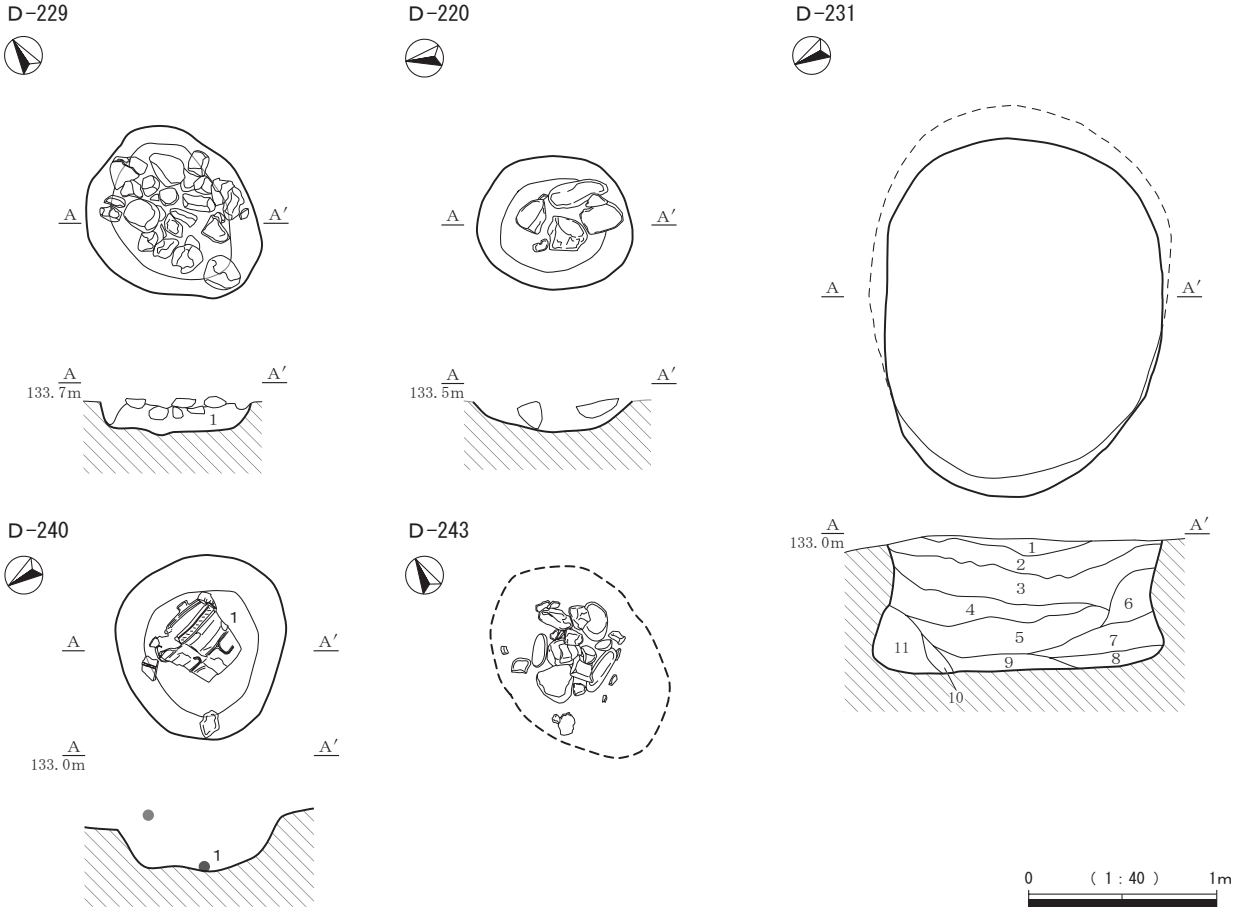


Fig.13　A区　土坑　遺構実測図（4）



D-86・184

1	暗褐色土	10YR3/3	φ0.5cmのロームブロック微量、ローム粒微量、Hr-FA軽石粒・炭化物粒微量。しまりあり。粘性あり。<D-86>
2	暗褐色土	10YR3/4	ローム粒微量、Hr-FA軽石粒少量。しまりあり。粘性あり。
3	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒少量、Hr-FA軽石粒少量。しまりあり。粘性あり。
4	暗褐色土	10YR3/3	φ0.5cm のロームブロック微量、ローム粒・Hr-FA 軽石粒少、炭化物粒微量。しまりあり。粘性あり。
5	にぶい黄褐色土	10YR4/3	φ0.5cm のロームブロック少量、ローム粒中量、Hr-FA 軽石粒少量、炭化物粒微量。しまりあり。粘性あり。
6	灰黄褐色土	10YR4/2	φ0.5cmのロームブロック微量、ローム粒・Hr-FA軽石粒少量。しまりあり。粘性あり。<D-184>
7	灰黄褐色土	10YR4/2	φ0.5cmのロームブロック少量、ローム粒・Hr-FA軽石粒少量、炭化物粒微量。しまりあり。粘性あり。
8	黄褐色土	10YR5/6	φ0.5～1cm のロームブロック中量、ローム粒多量、Hr-FA 軽石粒少量。しまりあり。粘性あり。壁面崩落土。
9	にぶい黄褐色土	10YR5/3	φ0.5cm のロームブロック少量、ローム粒中量、Hr-FA 軽石粒少量、炭化物粒微量。しまりあり。粘性あり。
10	灰黄褐色土	10YR4/2	φ0.5cmのロームブロック微量、ローム粒・Hr-FA軽石粒少量、As-BPG・炭化物粒微量。しまりあり。粘性あり。
11	灰黄褐色土	10YR4/2	φ0.5cmのロームブロック微量、ローム粒・Hr-FA軽石粒少量、As-BPG・炭化物粒微量。しまりあり。粘性あり。
12	灰黄褐色土	10YR4/2	φ0.5～1cm のロームブロック微量、ローム粒中量、Hr-FA 軽石粒少量 As-BPG 微量。しまりあり。粘性あり。
13	灰黄褐色土	10YR4/2	φ0.5～2cm のロームブロック少量、ローム粒中量、Hr-FA 軽石粒少量、As-BPG 微量。しまりあり。粘性あり。

D-136・197

1	暗褐色土	10YR3/3	φ0.5cm のロームブロック微量、ローム粒・Hr-FA 軽石粒・炭化物粒少量。しまりあり。粘性あり。<D-136>
2	暗褐色土	10YR3/3	φ0.5～1cmのロームブロック微量、ローム粒・Hr-FA軽石粒・炭化物粒少量。しまりあり。粘性あり。
3	暗褐色土	10YR3/3	φ0.5cmのロームブロック少量、ローム粒中量、Hr-FA 軽石粒少量、炭化物粒微量。しまりあり。粘性あり。
4	暗褐色土	10YR3/3	φ0.5cmのロームブロック微量、ローム粒・Hr-FA軽石粒少量、炭化物粒微量。しまりあり。粘性あり。
5	灰黄褐色土	10YR4/2	φ0.5～1cm のロームブロック微量、ローム粒・Hr-FA 軽石粒少量、炭化物粒微量。しまりあり。粘性あり。
6	にぶい黄褐色土	10YR5/3	φ0.5～3cm のロームブロック少量、ローム粒・Hr-FA 軽石粒少量、φ2cm の炭化物。しまりあり。粘性あり。
7	にぶい黄褐色土	10YR5/3	φ0.5～2cm のロームブロック少量、ローム粒中量、Hr-FA 軽石粒少量。しまりあり。粘性あり。
8	にぶい黄褐色土	10YR5/4	φ0.5cm のロームブロック微量、ローム粒中量、Hr-FA 軽石粒少量。しまりあり。粘性あり。
9	灰黄褐色土	10YR4/2	φ0.5～1cm のロームブロック微量、ローム粒・Hr-FA 軽石粒少量、炭化物粒微量。しまりあり。粘性あり。<D-197>
10	黄褐色土	10YR5/6	φ0.5～1cm のロームブロック少量、ローム粒多量、Hr-FA 軽石粒少量、炭化物粒微量。しまりあり。粘性あり。壁面崩落土。
11	灰黄褐色土	10YR5/2	φ0.5cm のロームブロック微量、ローム粒・Hr-FA 軽石粒少量、As-BPG・炭化物粒微量。しまりあり。粘性あり。
12	にぶい黄褐色土	10YR5/4	ローム粒中量、Hr-FA 軽石粒少量、As-BPG 微量。しまりあり。粘性あり。
13	灰黄褐色土	10YR5/2	ローム粒・Hr-FA 軽石粒少量。As-BPG 微量。しまりあり。粘性あり。

D-183

1	暗褐色土	10YR3/4	Hr-FA 軽石粒微量。しまりあり。粘性あり。漸移層
2	黒褐色土	10YR3/2	φ0.5cmのロームブロック微量、ローム粒・Hr-FA 軽石粒少量、炭化物粒微量。しまりあり。粘性あり。
3	にぶい黄褐色土	10YR5/3	φ0.5～1cm のロームブロック少量、ローム粒中量、Hr-FA 軽石粒少量、炭化物粒微量。しまりあり。粘性あり。

D-191・P-231

1	暗褐色土	10YR3/4	Hr-FA 軽石粒微量。しまりあり。粘性あり。漸移層
2	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒少量、Hr-FA 軽石粒少量、炭化物粒微量、。しまりあり。粘性あり。<D-191>
3	暗褐色土	10YR3/3	φ0.5～1cm のロームブロック少量、ローム粒・Hr-FA 軽石粒少量、炭化物粒微量。しまりあり。粘性あり。
4	暗褐色土	10YR3/3	φ0.5～1cm のロームブロック中量、ローム粒・Hr-FA 軽石粒少量、炭化物粒微量。しまりあり。粘性あり。
5	にぶい黄褐色土	10YR5/4	ローム粒中量、Hr-FA 軽石粒少量、炭化物粒微量。しまりあり。粘性あり。
6	暗褐色土	10YR3/4	ローム粒少量、Hr-FA 軽石粒・炭化物粒少量。しまりあり。粘性あり。
7	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒微量、Hr-FA 軽石粒少量、炭化物粒微量。しまりあり。粘性あり。<P-231>
8	暗褐色土	10YR3/3	φ0.5cmのロームブロック微量、ローム粒少量、Hr-FA 軽石粒・炭化物粒微量。しまりあり。粘性あり。
9	褐色土	10YR4/6	φ0.5～1cm のロームブロック少量、ローム粒少量、Hr-FA 軽石粒・炭化物粒微量。しまりあり。粘性あり。

D-218

1	暗褐色土	10YR3/3	ソフトローム粒中量。しまりややあり。粘性弱い。

D-219

1	暗 褐色土	10YR3/3	ソフトローム粒中量。しまりややあり。粘性弱い。

D-229

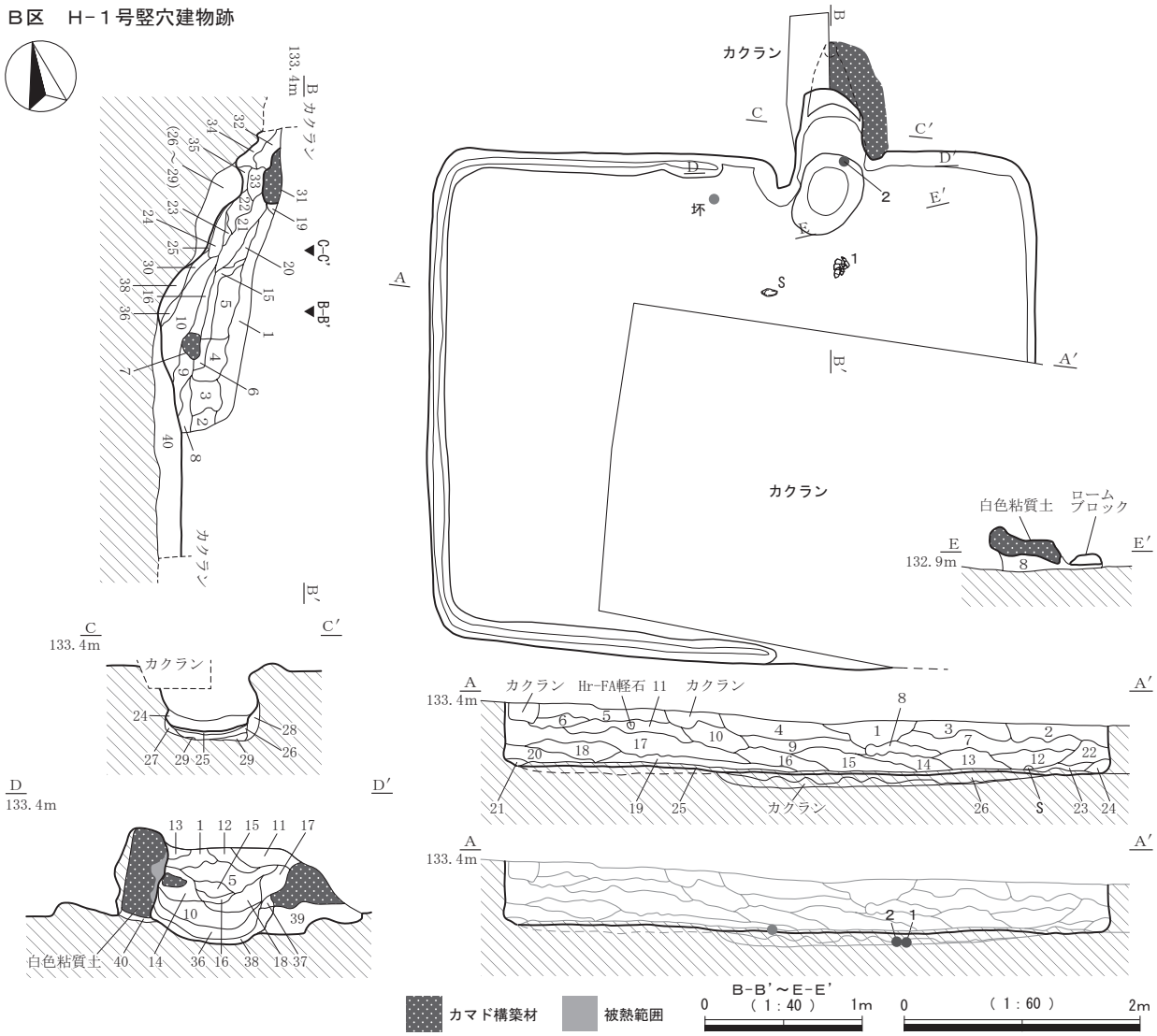
1 黒褐色土 Hue10YR2/3 ソフトローム粒微量。しまり・粘性弱い。

D-231

1	褐灰色土	Hue10YR4/1	白色粒・炭化物粒中量。しまり強い。粘性あり。
2	灰黄褐色土	Hue10YR5/2	白色粒多量、炭化物粒少量。しまり強い。粘性弱い。
3	灰黄褐色土	Hue10YR5/2	白色粒中量、炭化物粒少量。しまり強い。粘性弱い。
4	黄褐色土	Hue10YR5/6	白色粒多量、炭化物粒少量、ローム粒多量。しまりあり。粘性あり。
5	灰黄褐色土	Hue10YR5/2	φ2～3cmロームブロック中量。しまり・粘性あり。
6	黒褐色土	Hue10YR2/3	白色粒・炭化物粒多量。しまり強い。粘性あり。
7	灰白色土	Hue10YR7/1	白色粒中量、炭化物粒・焼土粒少量。しまり・粘性あり。
8	灰黄褐色土	Hue10YR5/2	ローム粒多量。しまりあり。粘性ややあり。
9	灰黄褐色土	Hue10YR5/2	ソフトローム多量。しまり・粘性ややあり。
10	黄橙色土	Hue10YR7/8	ロームブロック多量。しまりあり。粘性ややあり。
11	灰白色土	Hue10YR7/1	ローム粒・ソフトローム多量。しまり強い。粘性ややあり。

Fig.14　A区　土坑　遺構実測図（5）

Ｂ区　Ｈ-１号竪穴建物跡



Ｈ－１　Ａ－Ａ'

1 黄褐色土　10YR5/8　φ1～3㎝ののロームブロック中量、Hr-FA軽石粒を中量。しまりあり。粘性あり。
2 黄褐色土　10YR5/6　φ1～ 2 ㎝のロームブロック中量、Hr-FA軽石粒を中量。しまりあり。粘性弱い。
3 黄褐色土　10YR5/6　φ0.5～1㎝のロームブロック中量、Hr-FA軽石粒中量。しまりあり。粘性あり。
4 黒褐色土　10YR3/1　φ1～ 2 ㎝のロームブロック中量、Hr-FA軽石粒を多量。しまりあり。粘性あり。
5 暗褐色土　10YR3/3　φ1～ 3 ㎝のロームブロック中量、Hr-FA軽石粒を多量。しまりあり。粘性あり。
6 黒褐色土　10YR3/1　φ0.5 ㎝のロームブロック微量、ソフトロームを多量。しまり弱い。粘性あり。
7 黒褐色土　10YR3/1　φ0.5～1㎝のロームブロック中量、Hr-FA軽石粒を中量。しまりあり。粘性あり。
8 黄褐色土　10YR5/6　φ0.5～1㎝のロームブロック中量、Hr-FA軽石粒を少量。しまり弱い。粘性あり。
9 黒褐色土　10YR3/1　φ1～ 2 ㎝のロームブロック少量、ソフトローム多量、Hr-FA軽石粒を少量。しまり弱い。粘性あり。
10 暗褐色土　10YR3/3　φ0.5～1㎝のロームブロック少量、ソフトローム多量、Hr-FA軽石粒を少量。しまり弱い。粘性あり。
11 黄褐色土　10YR5/8　φ1～ 2 ㎝のロームブロック少量、ソフトローム多量、Hr-FA軽石粒を少量。しまり弱い。粘性あり。
12 灰褐色土　10YR4/2　ソフトローム多量、Hr-FA軽石粒を微量。しまり弱い。粘性ややあり。
13 灰黄褐色土 10YR4/2　ソフトローム多量、Hr-FA軽石粒を中量、焼土粒を微量。しまりあり。粘性あり。
14 黒褐色土　10YR3/1　φ0.5 ㎝のロームブロック少量、ソフトローム・Hr-FA軽石粒を中量。しまりややあり。粘性あり。
15 黄褐色土　10YR5/4　φ1～ 15 ㎝のロームブロック中量、Hr-FA軽石粒を中量、焼土粒微量。しまり弱い。粘性あり。
16 黒褐色土　10YR3/2　φ1～ 3 ㎝のロームブロック中量、Hr-FA軽石粒を少量。しまりあり。粘性あり。
17 黄褐色土　10YR5/8　φ1～ 2 ㎝のロームブロック多量、Hr-FA軽石粒を少量。しまりあり。粘性あり。
18 黒褐色土　10YR3/2　φ1～ 2 ㎝のロームブロック・ソフトローム・Hr-FA軽石粒を多量。しまりあり。粘性あり。
19 黒褐色土　10YR3/1　φ1～ 2 ㎝のロームブロック・ソフトローム・Hr-FA軽石粒を多量。しまりあり。粘性あり。
20 黒褐色土　10YR3/1　φ0.5～ 1 ㎝のロームブロックを多量。しまりあり。粘性あり。
21 黄褐色土　10YR5/8　φ1～ 2 ㎝のロームブロックを少量、ソフトローム多量。しまりあり。粘性あり。
22 黄褐色土　10YR5/6　φ1～ 2 ㎝のロームブロック・Hr-FA軽石粒を中量。しまりあり。粘性あり。
23 黒褐色土　10YR5/6　φ1～ 5 ㎝のロームブロック中量、ソフトローム少量。しまり弱い。粘性あり。
24 明黄褐色土 10YR6/8　φ1～ 2 ㎝のロームブロック中量、ソフトロームを微量。しまりあり。粘性ややあり。
25 黄色土　10YR7/8　φ1～ 5 ㎝のロームブロック多量、黒色土ブロック・焼土粒を中量。しまり非常に強い。粘性弱い。住居貼床。

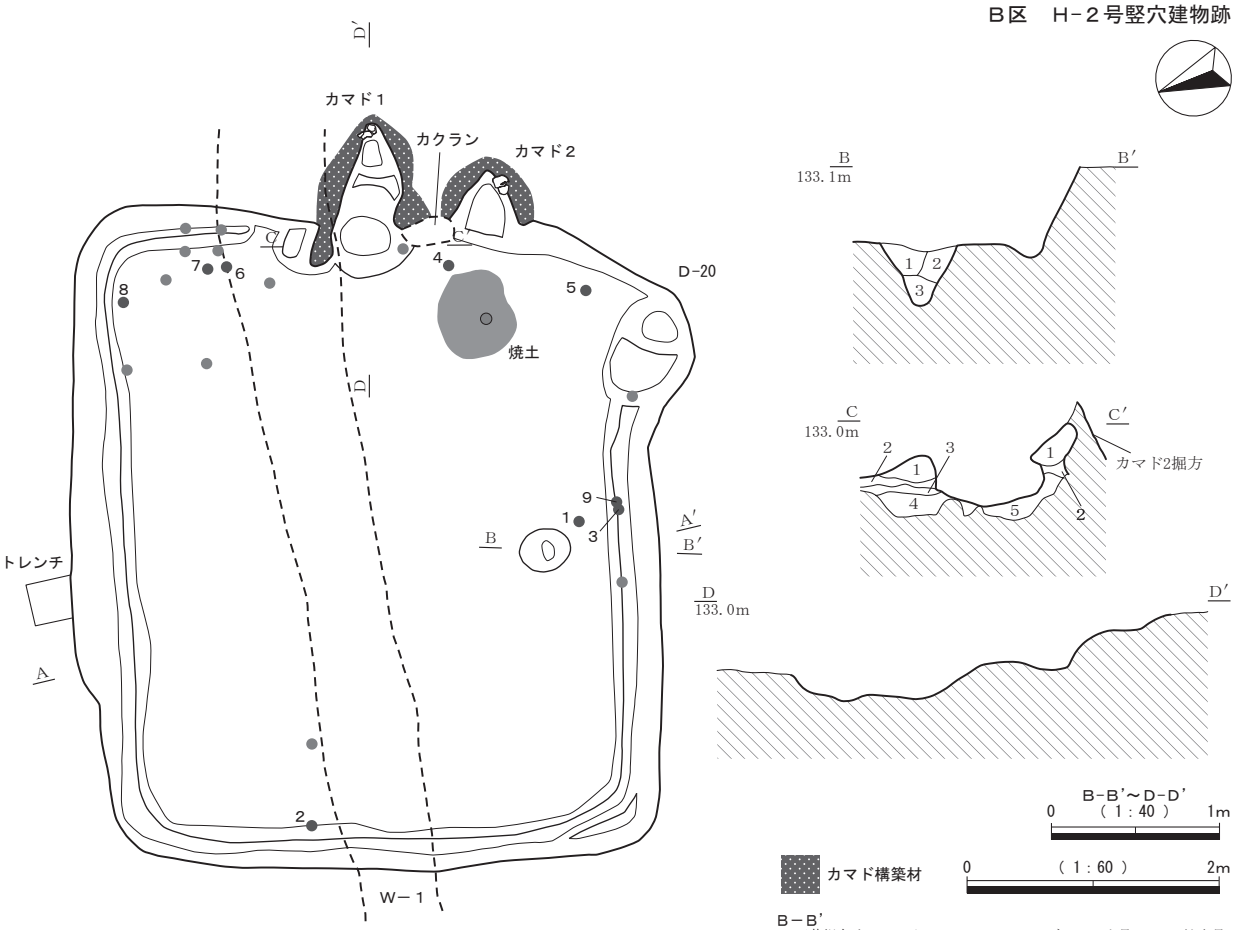
Ｂ～Ｂ'－Ｅ～Ｅ'

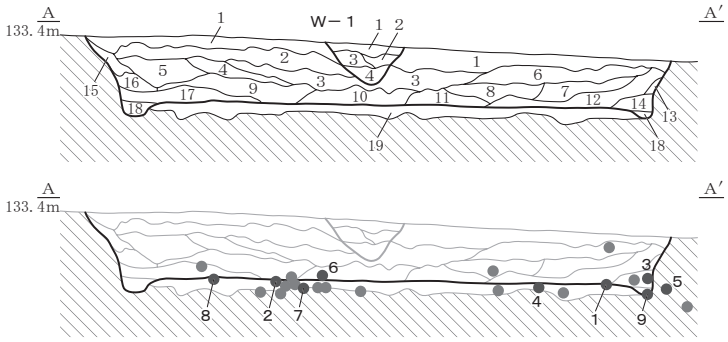
1 灰黄褐色土 10YR4/2　ローム粒中量、Hr-FA 軽石粒・焼土粒中量。しまりあり。粘性ややあり。
2 褐灰色土　10YR4/1　ローム粒少量、Hr-FA 軽石粒・焼土粒中量。しまり弱い。粘性あり。
3 灰黄褐色土 10YR6/2　白色粘質土・ローム粒・焼土粒を多量。しまり強い。粘性ややあり。
4 灰黄褐色土 10YR4/2　ローム粒を多量。しまりややあり。粘性弱い。
5 黒褐色土　10YR3/1　ソフトロームを多量。しまり弱い。粘性ややあり。
6 にぶい黄橙色土 10YR7/2　白色粘質土・焼土粒を中量。しまり弱い。粘性ややあり。
7 灰白・黄橙色土 2.5YR7/8　ローム粒・白色粘質土主体。天井崩落土。
8 黒褐色土　10YR3/2　φ1～ 5 ㎝ロームブロック・焼土ブロック微量。しまりあり。粘性ややあり。
9 灰褐色土　10YR5/2　φ1～ 2 ㎝ロームブロック微量、ローム粒中量。しまり弱い。粘性あり。
10 褐灰色土　10YR6/1　灰層。焼土粒を多量。しまり弱い。粘性あり。
11 灰黄褐色土　10YR4/2　φ1～2 ㎝ロームブロック・ソフトロームを中量。しまりややあり。粘性ややあり。
12 灰黄褐色土　10YR4/2　φ1～ 5 ㎝ロームブロック少量、ローム粒・ソフトロームを中量。しまり強い。粘性ややあり。
13 橙色土　10YR7/8　ソフトロームを多量、白色粘質土中量、焼土粒を多量。しまり強い。粘性ややあり。
14 灰白色土　10YR7/1　ローム粒多量、白色粘質土中量、焼土粒を中量。しまり強い。粘性弱い。
15 灰黄褐色土　10YR4/2　ローム粒多量、焼土粒少量。しまり弱い。粘性ややあり。
16 灰黄褐色土　10YR4/2　ローム粒・焼土粒を多量。しまりあり。粘性ややあり。
17 にぶい黄橙色土 10YR7/2　ソフトローム・白色粘質土粒を多量。しまりややあり。粘性ややあり。
18 灰黄褐色土　10YR4/2　ローム粒・焼土粒を多量。しまりあり。粘性ややあり。
19 明黄褐色土　10YR6/8　ローム粒を多量。しまり強い。粘性ややあり。
20 暗褐色土　10YR3/3　ローム粒多量、白色粘質土粒を少量。しまりあり。粘性あり。
21 灰白色土　10YR7/1　ローム粒多量、焼土粒を少量、炭化物粒中量。しまりあり。粘性あり。
22 暗褐色土　10YR3/3　ローム粒中量・炭化物粒中量、φ1～ 2 ㎝焼土ブロック少量。しまりあり。粘性あり。
23 灰白色土　10YR7/1　白色粘質土粒・焼土粒を多量。しまりあり。粘性弱い。

Fig. 15　Ｂ区　Ｈ－１号竪穴建物跡　遺構実測図

24 橙色土　2.5YR6/8　白色粘質土主体。ローム粒を少量。しまり強い。粘性なし。
25 灰白色土　10YR7/1　白色粘質土粒を微量。しまり弱い。粘性強い。
26 赤褐色土　2.5YR4/8　粘質土。しまりあり。粘性あり。
27 灰赤色土　10YR4/2　焼土ブロック・焼土粒を多量。しまりあり。粘性なし。
28 灰黄褐色土　10YR4/2　白色粘質土粒・焼土粒を多量。しまりややあり。粘性あり。
29 褐灰色土　10YR4/1　灰層。しまり弱い。粘性弱い。
30 灰黄褐色土　10YR6/2　灰・焼土粒を多量。しまり弱い。
31 赤褐色土　2.5YR4/8　白色粘質土、ハードロームを主体とする。焼土ブロック多量。しまり強い。粘性なし。天井崩落土。
32 赤褐色土　2.5YR4/8　白色粘質土、ハードロームを主体とする。焼土ブロック・焼土粒を多量。しまりあり。粘性なし。天井崩落土。
33 暗褐色土　10YR3/3　φ0.5～2.0㎝の白色粘質土粒多量、Hr-FA 軽石粒・焼土粒・ローム粒中量。しまりあり。粘性なし。
34 暗褐色土　10YR3/3　φ2～5㎝のロームブロック中量、焼土粒を多量。しまり強い。粘性ややあり。
35 赤褐色土　2.5YR4/8　φ1～5㎝の焼土ブロックを中量。しまりあり。粘性なし。天井崩落土。
36 灰黄褐色土　10YR6/2　灰多量、焼土粒中量。しまり弱い。粘性ややあり。
37 灰黄褐色土　10YR6/2　φ0.5～1㎝ロームブロックを中量。しまり弱い。粘性ややあり。
38 灰黄褐色土　10YR6/2　灰多量、焼土粒中量。しまり弱い。粘性ややあり。
39 黄褐色土　10YR5/6　φ1～2㎝ロームブロック多量、炭化物粒中量。しまりややあり。粘性あり。
40 黄褐色土　10YR5/6　φ0.5～1㎝ロームブロック中を多量。2しまりあり。粘性あり。

B区　H－2号竪穴建物跡





B－B'
1 灰黄褐色土 10YR4/2 φ0.5㎝のロームブロック少量、ローム粒中量、Hr-FA 軽石粒少量、焼土粒・炭化物粒微量。しまりあり。粘性ややあり。
2 暗褐色土 10YR3/3 φ0.5㎝のロームブロック少量、ローム粒中量、Hr-FA 軽石粒中量、炭化物粒微量。しまりあり。粘性あり。
3 暗褐色土 10YR3/3 φ0.5㎝のロームブロック微量、ローム粒中量、Hr-FA 軽石粒少量。しまりあり。粘性あり。

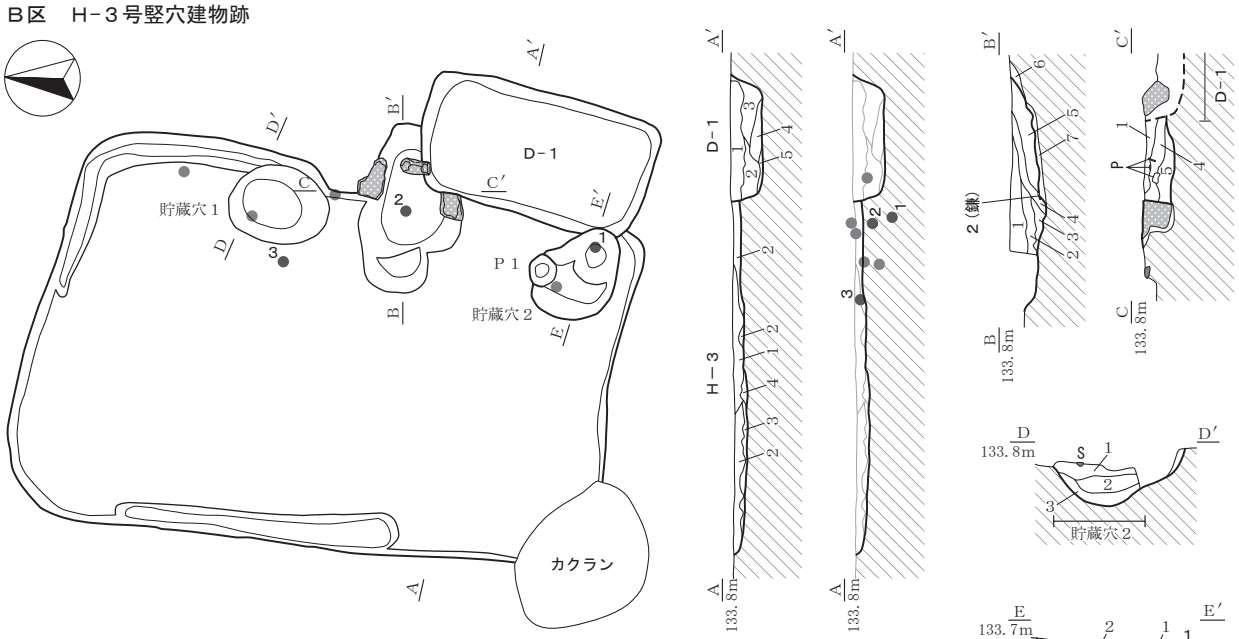
C-C'
1 灰黄褐色土 10YR4/2 φ0.5㎝のロームブロック少量、ローム粒中量、Hr-FA 軽石粒少量、焼土粒・炭化物粒微量。しまりあり。粘性あり。
2 灰黄褐色土 10YR4/2 φ0.5㎝のロームブロック微量、ローム粒中量、Hr-FA 軽石粒中量、焼土粒少量、炭化物粒微量。しまりあり。粘性ややあり。
3 暗褐色土 10YR3/4 φ0.5～1㎝のロームブロック微量、ローム粒中量、Hr-FA 軽石粒少量、焼土粒微量。しまりあり。粘性あり。
4 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒少量、Hr-FA 軽石粒中量、焼土粒微量、しまりあり。粘性あり。
5 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒中量、φ0.5㎝ 焼土ブロック微量、Hr-FA 軽石粒少量、焼土粒少量。しまりあり。粘性あり。

H－2　A－A'
1 褐色土 10YR4/4 ローム粒・Hr-FA 軽石粒多量。粘性弱い。
2 褐色土 10YR4/4 Hr-FA 軽石粒多量。しまりあり。粘性なし。
3 黒褐色土 10YR3/2 Hr-FA 軽石粒多量、ローム粒中量。しまりあり。粘性ややあり。
4 黒褐色土 10YR3/2 ソフトローム多量、Hr-FA 軽石粒中量。しまりあり。粘性ややあり。
5 黄褐色土 10YR8/6 φ1～5㎝ロームブロック少量、Hr-FA 軽石粒多量。しまり弱い。粘性あり。
6 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒中量、Hr-FA 軽石粒多量。しまりあり。粘性弱い。
7 暗褐色土 10YR3/3 Hr-FA 軽石粒多量、ローム粒多量、ソフトローム中量。しまり弱い。粘性ややあり。
8 暗褐色土 10YR3/4 Hr-FA 軽石粒中量、ローム粒・ソフトローム少量。しまりあり。粘性弱い。
9 黒褐色土 10YR3/1 Hr-FA 軽石粒多量。しまりあり。粘性弱い。
10 暗褐色土 10YR3/4 Hr-FA 軽石粒多量。しまりややあり。粘性弱い。
11 褐色土 10YR4/4 ローム粒・ソフトローム中量、Hr-FA 軽石粒多量。しまり弱い。粘性ややあり。
12 褐色土 10YR4/4 ローム粒・ソフトローム中量、Hr-FA 軽石粒多量。しまりあり。粘性あり。
13 暗褐色土 10YR3/3 ソフトローム中量。しまりややあり。粘性弱い。
14 暗褐色土 10YR3/4 ローム粒中量、ソフトローム少量。しまりややあり。粘性弱い。
15 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒多量。しまりややあり。粘性弱い。
16 黄褐色土 10YR5/6 ローム粒・ソフトローム中量。しまりあり。粘性なし。
17 暗褐色土 10YR3/4 ローム粒少量。しまりややあり。粘性なし。
18 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒多量、φ0.5～1㎝ロームブロック多量。しまりあり。粘性あり。
19 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒中量、φ0.5～1㎝ロームブロック中量。しまりあり。粘性あり。

W-1
1 灰黄褐色土 10YR5/2 Hr-FA 軽石粒中量、焼土粒微量。しまりあり。粘性弱い。
2 にぶい黄褐色土 10YR5/4 Hr-FA 軽石粒中量。しまりややあり。粘性ややあり。
3 にぶい黄褐色土 10YR5/3 Hr-FA 軽石粒少量。しまりややあり。粘性あり。
4 にぶい黄褐色土 10YR5/3 Hr-FA 軽石粒微量。しまりややあり。粘性あり。

Fig.16　B区　H－2号竪穴建物跡　遺構実測図

B区　H－3号竪穴建物跡



D－1
1 黒褐色土　10YR3/2　ローム粒少量、Hr-FA 軽石多量、焼土粒中量。しまり強い。粘性弱い。
2 黄褐色土　10YR5/6　ローム粒微量。焼土粒中量。炭化物少量。しまり強い。粘性弱い。
3 明黄褐色土 10YR6/6　φ1～3㎝ローム ブロック多量。Hr-FA 軽石中量、ソフトローム多量。しまり強い。粘性あり。
4 明黄褐色土 10YR6/6　φ1～3㎝ローム ブロック多量。Hr-FA 軽石中量、ソフトローム多量。しまり強い。粘性あり。
5 明黄褐色土 10YR6/6　ローム粒多量、焼土粒微量。しまり強い。粘性あり。

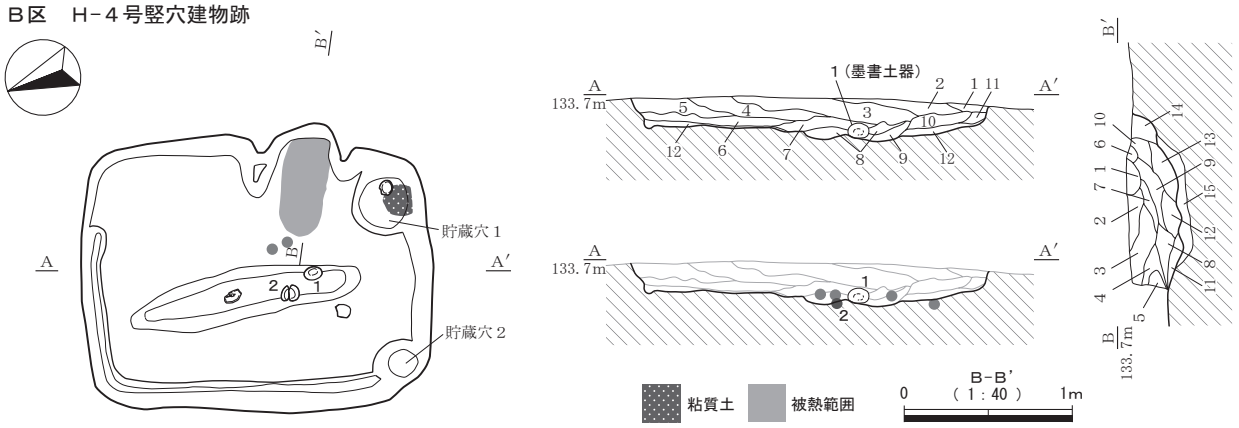
A－A′
1 赤褐色土　2.5YR4/6　φ0.5～2㎝の焼土ブロック多量。しまり強い。粘性弱い。
2 黒褐色土　10YR3/1　Hr-FA 軽石多量、焼土粒少量。しまり強い。粘性あり。
3 黄褐色土　10YR5/6　ローム粒中量、しまり強い。粘性やや弱い。
4 暗褐色土　10YR3/3　ローム粒中量、しまり強い。粘性弱い。〈貼床の残存部か〉

B－B′・C－C′
1 暗褐色土　10YR3/4　ローム粒、Hr-FA 軽石粒多量、焼土粒中量。しまり強い。粘性ややあり。
2 暗褐色土　10YR3/4　ローム粒、Hr-FA 軽石粒中量、焼土粒多量。しまり強い。粘性ややあり。
3 暗褐色土　10YR3/4　ローム粒、Hr-FA 軽石粒中量、焼土粒・炭化粒中量。しまり強い。粘性弱い。
4 明赤褐色土 2.5YR5/8　Hr-FA 軽石粒少量、φ0.5～1㎝の焼土粒多量。しまり強い。粘性ややあり。
5 赤褐色土　2.5YR4/8 ローム粒、Hr-FA 軽石粒少量、炭化粒中量。しまり強い。粘性あり。
6 黄褐色土　10YR4/2　ローム粒、Hr-FA 軽石粒・焼土粒中量。しまり強い。粘性弱い。
7 灰黄褐色土　10YR4/2　ローム粒・ローム粒子・焼土粒中量。しまり強い。粘性弱い。

D－D′
1 黄褐色土　10YR5/6　ローム粒、Hr-FA 軽石中量。しまり強い。粘性弱い。
2 暗褐色土　10YR3/3　ローム粒、φ1～2㎝焼土ブロック多量。しまり強い。粘性弱い。
3 暗褐色土　10YR3/3　ローム粒、焼土粒、炭化粒中量。しまり弱い。粘性弱い。
4 黄褐色土　10YR5/6　φ5㎝のローム ブロック微量。しまり弱い。粘性ややあり。
5 黄褐色土　10YR5/6　ソフトローム多量。しまりややあり。粘性あり。

E－E′
1 暗褐色土　10YR3/4　Hr-FA 軽石、ローム粒子、炭化粒多量。しまり強い。粘性ややあり。
2 黄褐色土　10YR5/8　ローム粒子多量、Hr-FA 軽石少量。しまり強い。粘性あり。
3 黄褐色土　10YR5/8　ローム粒子多量、炭化粒微量。しまり強い。粘性ややあり。

B区　H－4号竪穴建物跡

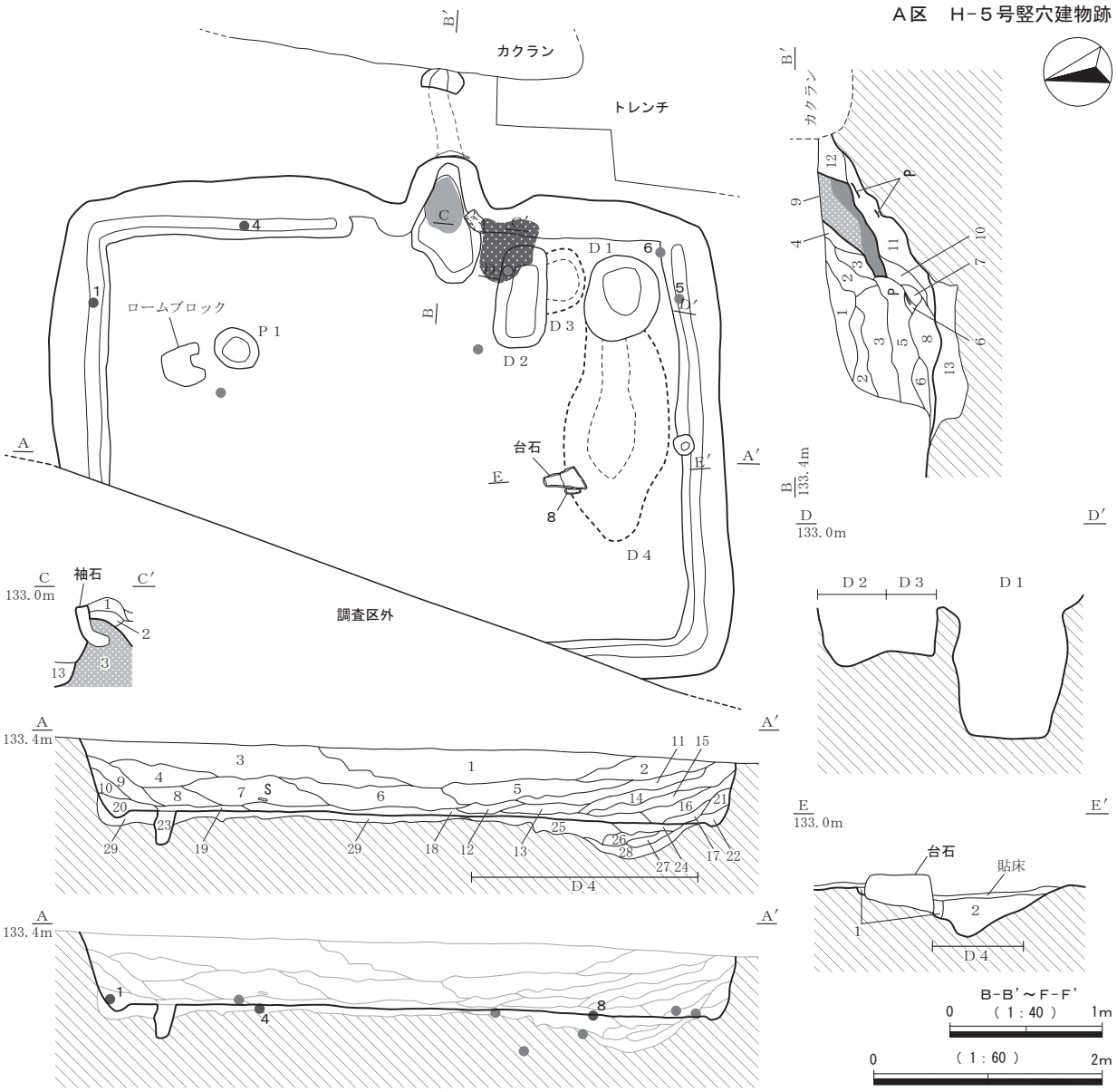


A－A′
1 黄褐色土　10YR5/6　ソフトローム・Hr-FA 軽石粒中量。しまり弱い。粘性ややあり。
2 暗褐色土　10YR3/3　ソフトローム多量、Hr-FA 軽石粒・黄色粒中量。しまりあり。粘性ややあり。
3 暗褐色土　10YR3/3　ソフトローム中量、Hr-FA 軽石粒・黄色粒多量。しまり強い。粘性ややあり。
4 褐灰色土　10YR4/1　ソフトローム・Hr-FA 軽石粒多量。しまり強い。粘性弱い。
5 暗褐色土　10YR3/4　ソフトローム多量。しまりあり。粘性弱い。
6 黄褐色土　10YR5/6　ソフトローム多量。しまりややあり。粘性弱い。
7 黄褐色土　10YR5/6　ソフトローム多量、φ1～2㎝ ロームブロック少量。しまりあり。粘性なし。
8 黄褐色土　10YR5/6　ソフトローム多量、ローム粒少量。しまりあり。粘性弱い。
9 黄褐色土　10YR5/6　ソフトローム多量。しまりややあり。粘性弱い。
10 黄褐色土　10YR5/6　ソフトローム多量。しまりあり。粘性弱い。
11 黄褐色土　10YR5/6　ソフトローム中量。しまりややあり。粘性弱い。
12 明黄褐色土 10YR5/6　ソフトローム中量。しまり弱い。粘性弱い。

B－B′
1 黄褐色土　10YR5/6　ロームブロック・ソフトローム主体、Hr-FA 軽石粒微量。しまり強い。粘性弱い。
2 暗褐色土　10YR3/3　ソフトローム中量、焼土粒微量。しまりあり。粘性ややあり。
3 黄褐色土　10YR5/6　ソフトローム多量、焼土粒中量、Hr-FA 軽石粒少量、φ1～2ｃｍ炭化物微量。しまりあり。粘性ややあり。
4 暗褐色土　10YR3/3　ソフトローム焼土粒少量。しまりあり。粘性弱い。
5 黄橙色　10YR6/8　ロームブロック（被熱）主体。しまり強い。粘性弱い（カマドの構築材の部）
6 暗褐色土　10YR3/3　ソフトローム中量、焼土粒微量。しまりあり。粘性ややあり。
7 暗褐色土　10YR3/3　ソフトローム多量、焼土粒少量。しまりあり。粘性ややあり。
8 黄褐色土　10YR5/6　ソフトローム多量、焼土粒少量。しまりあり。粘性ややあり。
9 黄褐色土　10YR5/6　ソフトローム多量、炭化粒微量、焼土粒・灰多量。しまりあり。粘性あり。
10 黄褐色土　10YR5/6　焼土粒多量。しまり強い。粘性あり。
11 暗褐色土　10YR3/3　ローム粒少量。しまりややあり。粘性弱い。
12 赤褐色土　10YR4/6　焼土粒多量。しまりあり。粘性弱い。（崩落土）
13 赤褐色土　10YR4/6　φ1～1.5㎝ 焼土ブロック中量、焼土粒少量。しまり弱い。粘性ややあり。（崩落土）
14 暗褐色土　10YR3/3　ソフトローム微量含む。しまり弱い。粘性弱い。（流入土）
15 灰黄褐色土 10YR5/2　ソフトローム多量。しまりややあり。粘性弱い。（カマド床面）

0　（１：60）　2m

Fig.17　B区　H－3・4号竪穴建物跡　遺構実測図



カマド構築材　粘質土　被熱範囲　掘方で検出した土坑

A－A'

1	黒褐色土	10YR3/1	Hr-FA 軽石粒多量、黄色粒中量、ソフトローム少量。しまりあり。粘性弱い。
2	暗褐色土	10YR3/3	Hr-FA 軽石粒多量、黄色粒中量、ソフトローム多量、炭化粒・焼土粒微量。しまりあり。粘性ややあり。
3	暗褐色土	10YR3/3	Hr-FA 軽石粒多量、黄色粒中量、ソフトローム多量、炭化粒・焼土粒微量。しまりあり。粘性ややあり。
4	暗褐色土	10YR3/4	Hr-FA 軽石粒中量、ソフトローム・ローム粒少量含む。しまり強い。粘性ややあり。
5	暗褐色土	10YR3/4	Hr-FA 軽石粒・黄色粒・ソフトローム中量。しまり強い。粘性ややあり。
6	暗褐色土	10YR3/3	Hr-FA 軽石粒多量、黄色粒・焼土粒少量。しまり強い。粘性弱い。
7	暗褐色土	10YR3/3	Hr-FA 軽石粒中量、ソフトローム多量。しまり強い。粘性弱い。
8	黒褐色土	10YR3/2	ソフトローム中量。しまり弱い。粘性ややあり。
9	黄褐色土	10YE5/6	Hr-FA 軽石粒・ソフトローム少量。しまりあり。粘性ややあり。
10	にぶい黄褐色土	10YR5/4	ローム粒・ソフトローム多量。しまりあり。粘性弱い。
11	褐色土	10YR4/6	Hr-FA 軽石粒・ソフトローム多量、φ1～2cm ロームブロック中量、焼土粒・黄色粒少量。しまりあり。粘性弱い。
12	にぶい黄褐色土	10YR4/3	ソフトローム中量、ロームブロック微量。しまりあり。粘性ややあり。
13	黄褐色土	10YR5/3	ソフトローム多量。しまりあり。粘性ややあり。
14	にぶい黄褐色土	10YR4/3	φ1～3cm ロームブロック多量、ソフトローム・Hr-FA 軽石粒・黒色土粒中量。しまりあり。粘性ややあり。
15	暗褐色土	10YR3/3	ソフトローム多量、Hr-FA 軽石粒微量。しまりあり。粘性ややあり。
16	暗褐色土	10YR3/4	ソフトローム・Hr-FA 軽石粒中量。しまりあり。粘性弱い。
17	褐色土	10YR4/4	ソフトローム多量。しまりあり。粘性ややあり。
18	褐色土	10YR4/4	ソフトローム・Hr-FA 軽石粒中量。しまりあり。粘性ややあり。
19	黄褐色土	10YR6/5	ローム粒・ソフトローム多量。しまりあり。粘性ややあり。
20	黄褐色土	10YR6/5	ソフトローム多量。しまりあり。粘性ややあり。
21	褐色土	10YR4/1	ローム粒・ソフトローム多量。しまり強い。粘性弱い。
22	黄褐色土	10YR5/6	ローム粒・ソフトローム多量、φ1cm ロームブロック微量。しまり強い。粘性弱い。
23	黄褐色土	10YR5/6	ソフトローム中量。しまりあり。粘性ややあり。
24	暗褐色土	10YR3/3	ソフトローム中量。炭化物粒少量。しまりあり。粘性ややあり。
25	明黄褐色土	10YR6/6	φ1～2cm ロームブロック主体。しまり強い。粘性あり。
26	明黄褐色土	10YR6/6	φ1～2cm ロームブロック主体。炭化物粒・焼土粒多量。しまり・粘性あり。
27	黄褐色土	10YR6/5	ソフトローム多量。しまり・粘性ややあり。
28	黄褐色土	10YR6/5	ソフトローム・ローム粒多量。しまり・粘性ややあり。
29	黄橙色土	10YR7/8	ハードローム主体。しまり非常に強い。粘性弱い。

B－B'

1	黒褐色土	10YR3/1	Hr-FA 軽石粒中量、黄色粒・ソフトローム・焼土少量。しまりあり。粘性やや弱い。
2	暗褐色土	10YR3/4	黄色粒・白色粘土粒・焼土少量。しまりあり。粘性ややあり。
3	褐色土	10YR4/6	白色粘土ブロックやや多量、焼土ブロック・炭化物中量。しまりあり。粘性あり。
4	にぶい黄褐色土	10YR5/4	白色粘土多量、焼土少量。しまりあり。粘性あり。
5	黒褐色土	10YR3/2	焼土ブロックやや少量、炭化物多量、白色粘土やや少量。しまりややあり。粘性弱い。
6	黒褐色土	10YR3/1	焼土ブロック・炭化物やや多量。しまりややあり。粘性弱い。
7	にぶい赤褐色土	2.5YR4/4	焼土多量、炭化物中量。しまり弱い。粘性弱い。
8	にぶい橙色	2.5YR6/4	焼土多量、炭化物やや少量。しまりややあり。粘性ややあり。
9	にぶい橙色	2.5YR4/4	ソフトローム主体。被熱して赤化した範囲は白色粘土が主体。しまりあり。粘性ややあり。(カマド構築材)
10	暗褐色土	10YR3/3	焼土ブロック・炭化物・白色粘土ブロックやや多量。しまりややあり。粘性弱い。
11	褐灰色土	10YR4/1	灰多量、焼土少量、炭化物中量。しまりややあり。粘性弱い。
12	暗褐色土	10YR3/1	焼土・炭化物少量、ロームブロック中量。しまりあり。粘性やや弱い。
13	赤黒色土	10R2/1	ローム粒・焼土粒・炭化物粒多量。しまり強い。粘性あり。

C－C'

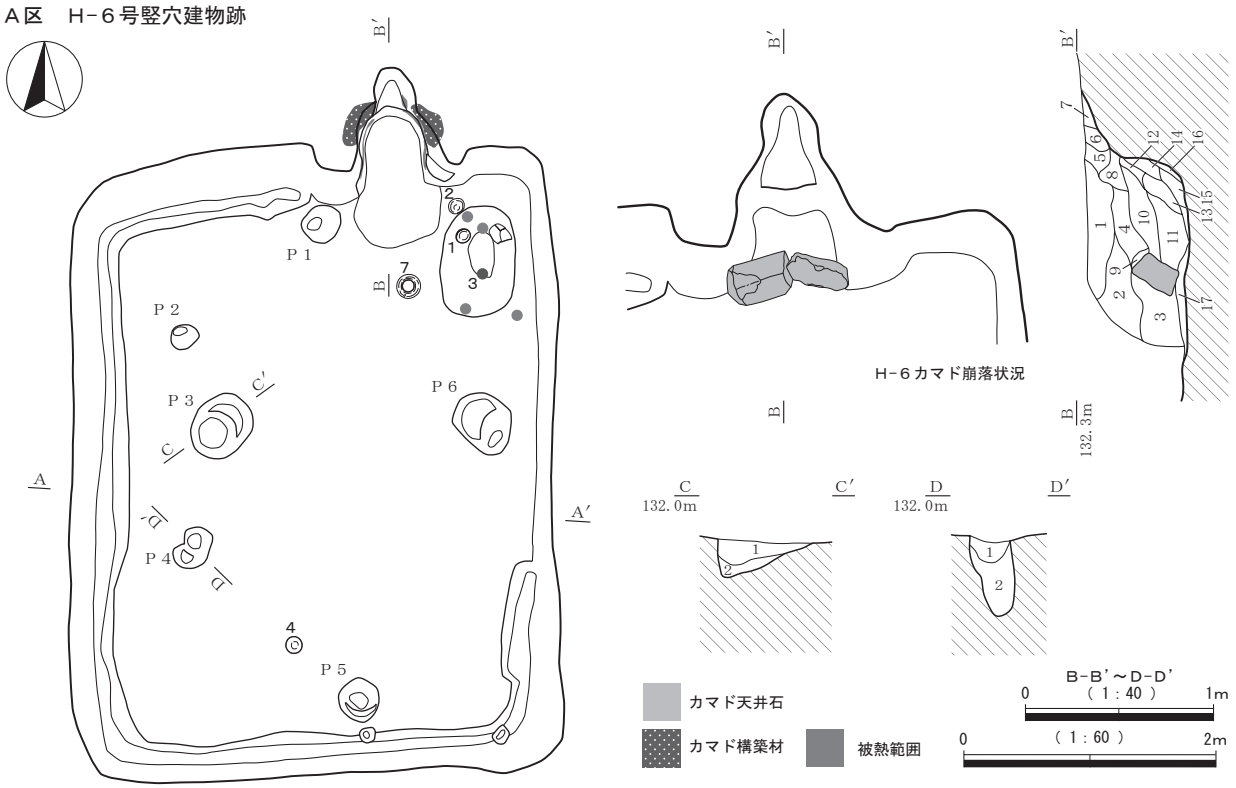
1	灰黄褐色土	10YR5/2	白色粘土・炭化粒・焼土粒中量。しまりややあり。粘性あり。
2	明赤褐色土	2.5YR5/8	白色粘土多量、焼土粒中量。しまり弱い。粘性あり。焼土粒多量。
3	褐灰色土	10YR6/1	白色粘土ブロック多量。焼土粒微量。しまりあり。粘性あり。(袖構築材)

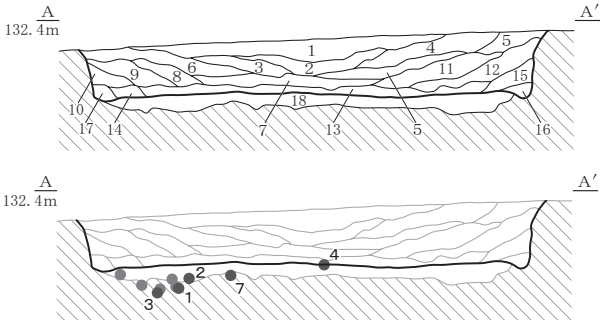
E－E'

1	暗褐色土	10YR3/3	ソフトローム中量。しまりあり。粘性ややあり。(台石掘方)
2	明黄褐色土	10YR6/6	φ1～2cm ロームブロック主体。しまり強い。粘性あり。(D-4)

Fig. 18　A区　H－5号竪穴建物跡　遺構実測図

A区　H−6号竪穴建物跡





H−6　A−A'

1	黒褐色土	10YR3/2	As-BPG 中量、ソフトローム少量、Hr-FA 軽石粒を多量。しまり強い。粘性ややあり。
2	黒色土	10YR2/1	As-BPG 中量、ソフトローム微量、Hr-FA 軽石粒を多量。しまりあり。粘性あり。
3	黒褐色土	10YR3/2	As-BPG 中量、ソフトローム微量、Hr-FA 軽石粒を多量。しまりあり。粘性あり。
4	暗褐色土	10YR3/3	ソフトローム中量、Hr-FA 軽石粒少量。しまりあり。粘性ややあり。
5	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒中量、ソフトローム多量、Hr-FA 軽石粒を少量。しまりあり。粘性弱い。
6	褐色土	10YR4/4	As-BPG・Hr-FA 軽石粒を多量。しまりあり。粘性ややあり。
7	灰黄褐色土	10YR6/2	ソフトローム多量、Hr-FA 軽石粒を少量。しまりややあり。粘性ややあり。
8	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒・ソフトローム多量、As-BPG を少量。しまりあり。粘性弱い。
9	黄褐色土	10YR5/6	ローム粒・ソフトロームを多量。しまりあり。粘性弱い。
10	黄褐色土	10YR5/6	φ1〜3㎝のロームブロック少量、ソフトローム中量。しまりあり。粘性弱い。
11	黄褐色土	10YR5/6	ソフトローム中量、Hr-FA 軽石粒を多量。しまりあり。粘性弱い。
12	黒褐色土	10YR3/2	ソフトローム微量、Hr-FA 軽石粒を中量。しまりあり。粘性弱い。
13	黄褐色土	10YR5/6	ローム粒・ソフトロームを多量。しまりあり。粘性弱い。
14	黄褐色土	10YR5/6	ローム粒多量、ソフトロームを中量。しまりあり。粘性ややあり。
15	黄橙色土	10YR7/8	ローム粒中量、ソフトロームを多量。しまりあり。粘性ややあり。
16	黄橙色土	10YR7/8	ローム粒・ソフトロームを多量。しまりあり。粘性あり。
17	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒を多量に。しまりあり。粘性ややあり。
18	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒・ソフトロームを中量。しまり強い。粘性ややあり。

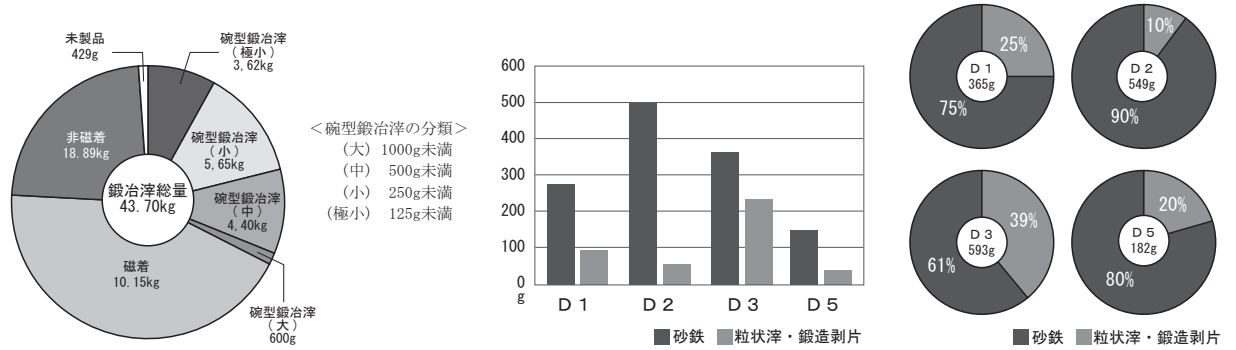
B−B'

1	黒褐色土	10YR3/1	Hr-FA 軽石粒多量、ソフトローム少量。しまりあり。粘性ややあり。
2	黒褐色土	10YR3/1	ソフトローム中量、黄色粒少量。しまりあり。粘性弱い。
3	暗褐色土	10YR3/3	ソフトローム・黄色粒中量。しまりあり。粘性弱い。
4	暗褐色土	10YR3/4	ソフトローム・黄色粒少量。しまりややあり。粘性ややあり。
5	褐灰色土	10YR4/1	ソフトローム中量、焼土粒少量。しまりあり。粘性ややあり。
6	赤褐色土	2.5YR4/6	焼土粒多量、ソフトローム少量。しまりあり。粘性あり。
7	黒褐色土	10YR3/1	ソフトローム少量。しまり弱い。粘性弱い。
8	黒褐色土	10YR3/2	焼土粒多量、ソフトローム少量。しまりややあり。粘性あり。
9	褐灰色土	10YR4/1	φ1〜2㎝ロームブロック多量、ソフトローム少量。しまりあり。粘性弱い。
10	暗褐色土	10YR3/3	ソフトローム多量。しまりあり。粘性ややあり。
11	褐灰色土	10YR4/1	φ0.5〜1.5㎝焼土ブロック多量、炭化粒中量。しまりあり。粘性弱い。
12	暗褐色土	10YR3/4	φ1〜2㎝焼土ブロック中量、灰・ソフトローム少量。しまり弱い。粘性弱い。
13	赤褐色土	2.5YR4/6	天井崩落土。焼けて硬く締まる。スサを含む。ローム粒中量。しまり強い。粘性なし。
14	暗褐色土	10YR3/3	φ1〜2㎝ロームブロック中量含む。しまりややあり。粘性弱い。
15	黒色土	10YR2/1	灰層(厚さ2〜3㎝)。しまり弱い。粘性弱い。
16	暗褐色土	10YR3/4	ソフトローム・焼土粒多量。しまりあり。粘性ややあり。
17	黒色土	10YR2/1	炭化粒・焼土粒多量。しまり強い。粘性あり。灰を含む。

C−C'・D−D'

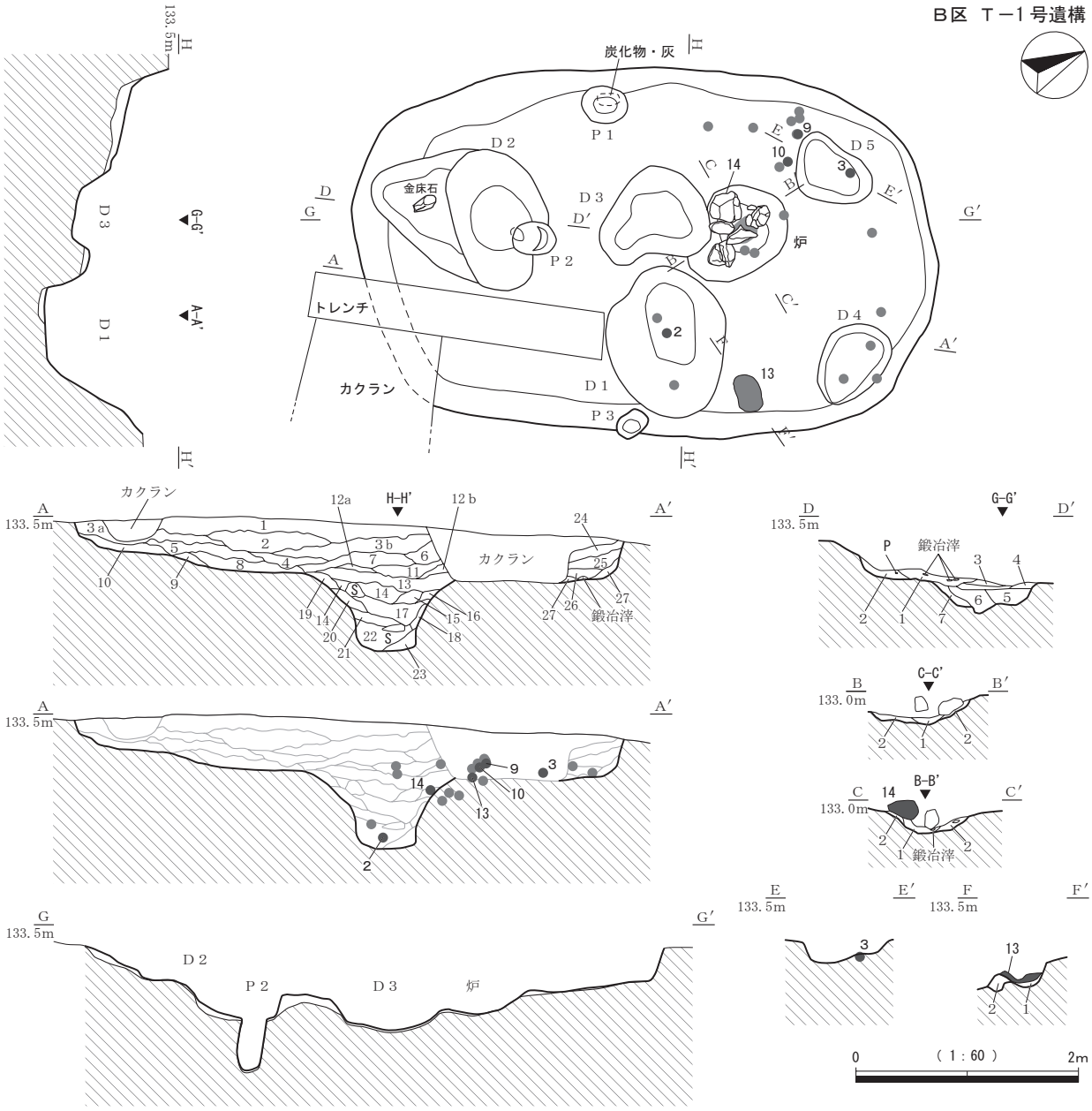
1	黒色土	10YR2/1	φ2〜3㎝ロームブロック少量、ソフトローム多量。しまり弱い。粘性ややあり。
2	黄褐色土	10YR5/8	ソフトローム多量。しまり弱い。粘性弱い。

Fig. 19　A区　H−6号竪穴建物跡　平面図・断面図



種類別鍛冶滓総量　　微細遺物検出量（土坑別）　　微細遺物検出量（土坑別）

Fig. 20　B区　T−1号遺構　鍛冶滓出土量グラフ



T-1　A－A′

1 暗褐色土　10YR3/3　φ1～2cmHr-FA軽石粒多量、ローム粒、黄色粒中量。しまりとても強い。粘性弱い。
2 暗褐色土　10YR3/3　Hr-FA軽石粒中量、ローム粒少量、ソフトローム中量。しまり強い。粘性弱い。
3 暗褐色土　10YR3/4　Hr-FA軽石粒中量、黄色粒中量、ソフトローム少量。しまり強い。粘性ややあり。
4 黄褐色土　10YR5/6　ソフトローム多量、黄色粒微量。しまりややあり。粘性弱い。
5 黄褐色土　10YR5/6　Hr-FA軽石粒・黄色粒中量。しまり強い。粘性弱い。
6 褐灰色土　10YR4/1　ソフトローム少量、黄色粒中量。しまり強い。粘性弱い。
7 黒褐色土　10YR3/2　ソフトローム多量、白色軽石粒（Hr-F）少量。しまり弱い。粘性ややあり。
8 暗褐色土　10YR3/3　Hr-FA軽石粒・黄色粒少量。しまり弱い。粘性あり。
9 黄褐色土　10YR5/6　ソフトローム多量、Hr-FA軽石粒少量。しまり強い。粘性ややあり。
10 黄褐色土　10YR5/6　Hr-FA軽石粒中量、ロームブロック主体。しまり強い。粘性弱い。(竪穴内の埋土か　1～10層)
11 暗褐色土　10YR3/3　ソフトローム中量、白色軽石粒少量、焼土粒微量。しまりあり。粘性なし。(T-1土坑1内の埋土→13～21層)
12 黄褐色土　10YR5/6　ローム粒多量、黄色粒少量。しまり弱い。粘性弱い。
13 暗褐色土　10YR3/3　ローム粒多量、Hr-FA軽石粒微量、黄色粒微量。しまりあり。粘性ややあり。
14 黄褐色土　10YR5/6　ソフトロームブロック中量φ10～15cm。しまりあり。粘性強い。
15 明黄褐色土　10YR6/6　ローム粒多量・Hr-FA軽石粒多量・炭化粒少量。しまりあり。粘性ややあり。
16 暗褐色土　10YR3/3　ソフトローム少量。しまりややあり。粘性強い。
17 褐灰色土　10YR4/1　ソフトローム少量。しまりややあり。粘性強い。
18 黄褐色土　10YR5/6　ソフトローム中量、ローム粒少量。しまりあり。粘性ややあり。
19 黄褐色土　10YR5/6　ソフトローム中量。しまりあり。粘性あり。
20 黄褐色土　10YR5/6　ソフトローム中量。しまりややあり。粘性あり。
21 黄褐色土　10YR5/8　ソフトローム多量、ローム粒微量。しまり弱い。粘性あり。
22 黒褐色土　10YR2/3　φ0.5～1cmのロームブロック・ローム粒・Hr-FA軽石粒・焼土粒・炭化物粒少量、鉄滓。しまりあり。粘性あり。
23 黄褐色土　10YR5/6　φ0.5cmのロームブロック少量、ローム粒中量、Hr-FA軽石粒少量、焼土粒・炭化物粒微量。しまりあり。粘性あり。
24 褐灰色　10YR4/1　Hr-FA軽石粒多量、ローム粒・黄色粒中量。しまりあり。粘性弱い。
25 黒褐色土　10YR3/1　ローム粒中量、Hr-FA軽石粒少量。しまり強い。粘性弱い。
26 黒褐色土　10YR3/1　ローム粒子少量、鍛冶滓多量。しまり強い。粘性ややあり。
27 暗褐色土　10YR3/3　ローム粒子・ソフトローム多量。しまりあり。粘性弱い。

B－B′　C－C′

1 黒褐色土　10YR3/2　ローム粒・Hr-FA軽石粒少量、焼土粒・炭化物粒中量。しまりあり。粘性あり。
2 黒褐色土　10YR3/2　φ0.5cmのロームブロック・ローム粒・Hr-FA軽石粒少量、焼土粒微量、炭化物粒中量。しまりあり。粘性あり。

D－D′

1 暗褐色土　10YR3/4　φ0.5～1cmのロームブロック微量、ローム粒・Hr-FA軽石粒中量、焼土粒・炭化物粒微量。しまりあり。粘性ややあり。
2 にぶい黄褐色土　10YR5/4　φ0.5～1cmのロームブロック少量、ローム粒中量、Hr-FA軽石粒少量、焼土粒・炭化物粒微量。しまりあり。粘性あり。
3 暗褐色土　10YR3/3　ローム粒・Hr-FA軽石粒少量、φ1cm焼土ブロック微量、焼土粒・炭化物粒少量。しまりあり。粘性あり。
4 暗褐色土　10YR3/3　φ0.5～1cmのロームブロック・ローム粒・Hr-FA軽石粒・炭化物粒少量、焼土粒中量。しまりあり。粘性あり。
5 暗褐色土　10YR3/3　φ0.5～1cmのロームブロック微量、ローム粒・Hr-FA軽石粒・炭化物粒少量、焼土粒微量。しまりあり。粘性あり。
6 暗褐色土　10YR3/4　φ0.5～2cmのロームブロック少量、ローム粒中量、Hr-FA軽石粒・炭化物粒少量、焼土粒微量。しまりあり。粘性あり。
7 暗褐色土　10YR3/4　φ0.5cmのロームブロック微量、ローム粒中量、Hr-FA軽石粒少量、炭化物粒微量。しまりあり。粘性あり。

F－F′

1 暗褐色土　10YR3/3　鉄滓を多量に含む。φ0.5cmのロームブロック・Hr-FA軽石粒少量、ローム粒中量、炭化物粒微量。しまりあり。粘性ややあり。
2 にぶい黄褐色土　10YR5/3　φ0.5～1cmのロームブロック微量、ローム粒中量、Hr-FA軽石粒・焼土粒微量、炭化物粒少量。しまり・粘性あり。

Fig.21　B区　T－1号遺構　遺構実測図

B区　B−１号掘立柱建物跡

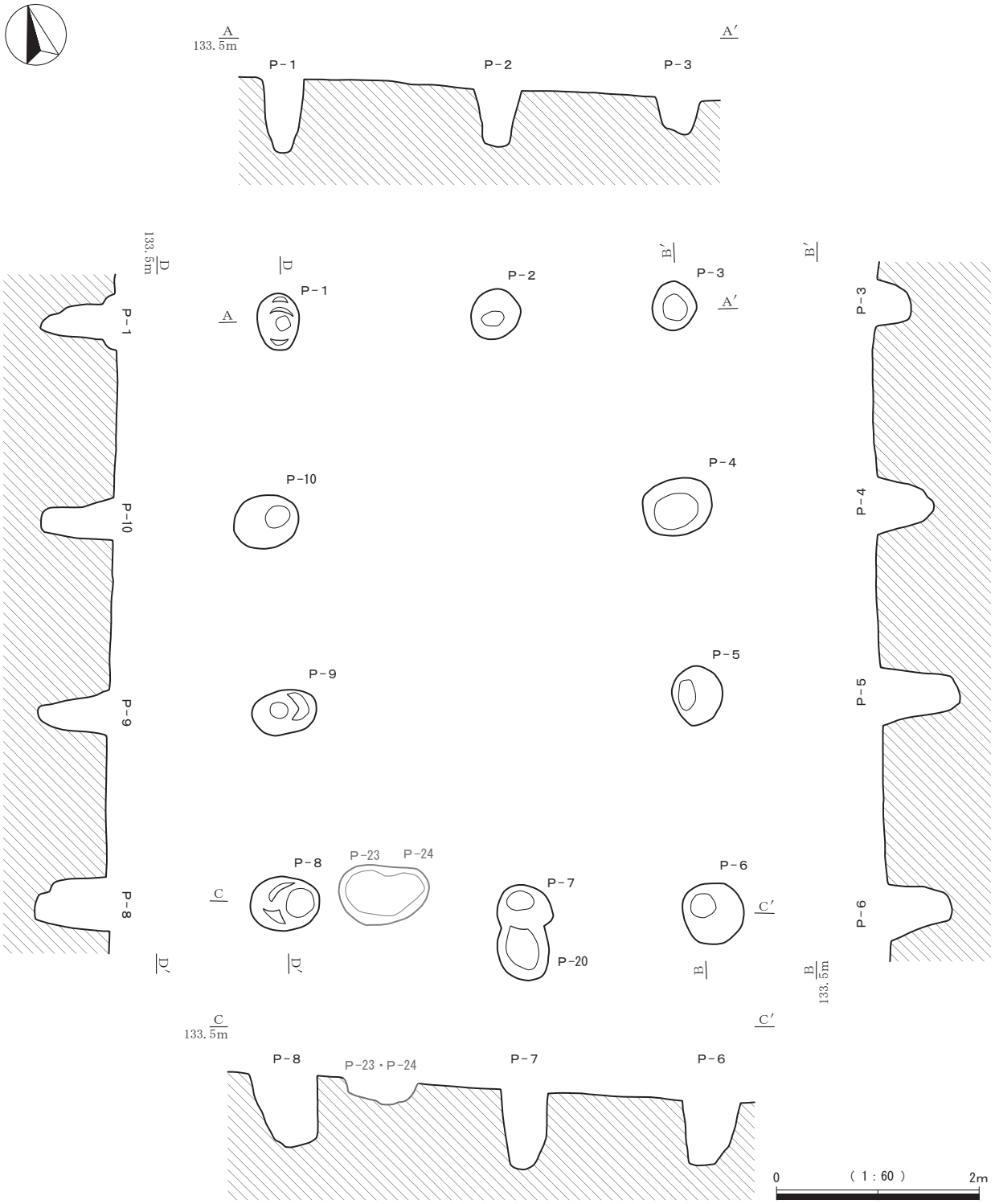


Fig. 22　B区　B－１号掘立柱建物跡　遺構実測図

Tab. 10　B区　B－１号掘立柱建物跡　ピット一覧表

番号	遺構位置	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)
P−1	X121, Y132	56	41	75
P−2	X121, Y132	49	50	62
P−3	X122, Y132	48	41	36
P−4	X122, Y133	68	56	49
P−5	X122, Y133	58	48	76

番号	遺構位置	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)
P−6	X122, Y134	61	60	65
P−7	X121, Y134	54	43	72
P−8	X120, Y133	68	53	71
P−9	X121, Y133	64	43	67
P−10	X121, Y133	66	52	75

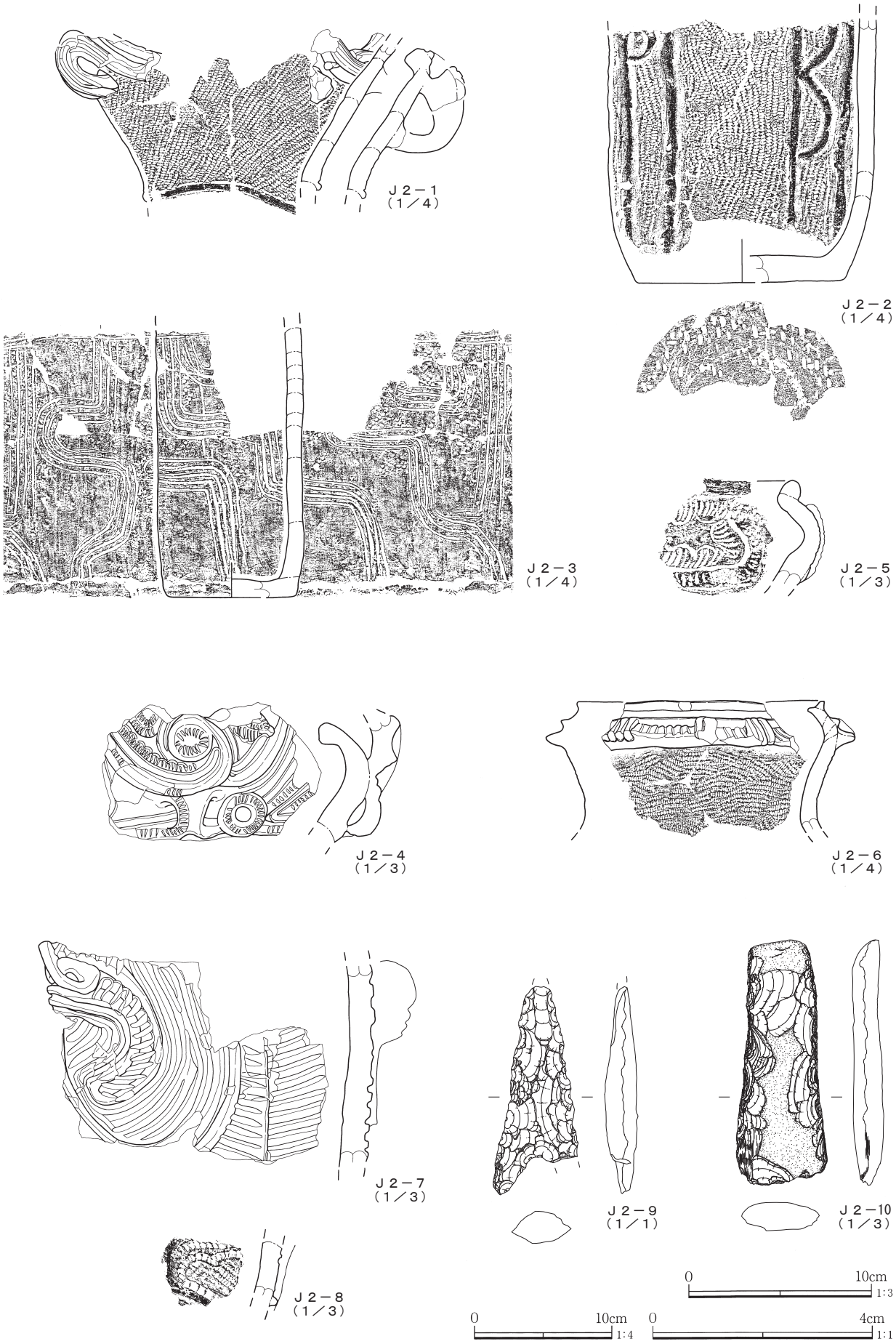


Fig. 23　Ａ区　Ｊ－２号竪穴建物跡　遺物実測図

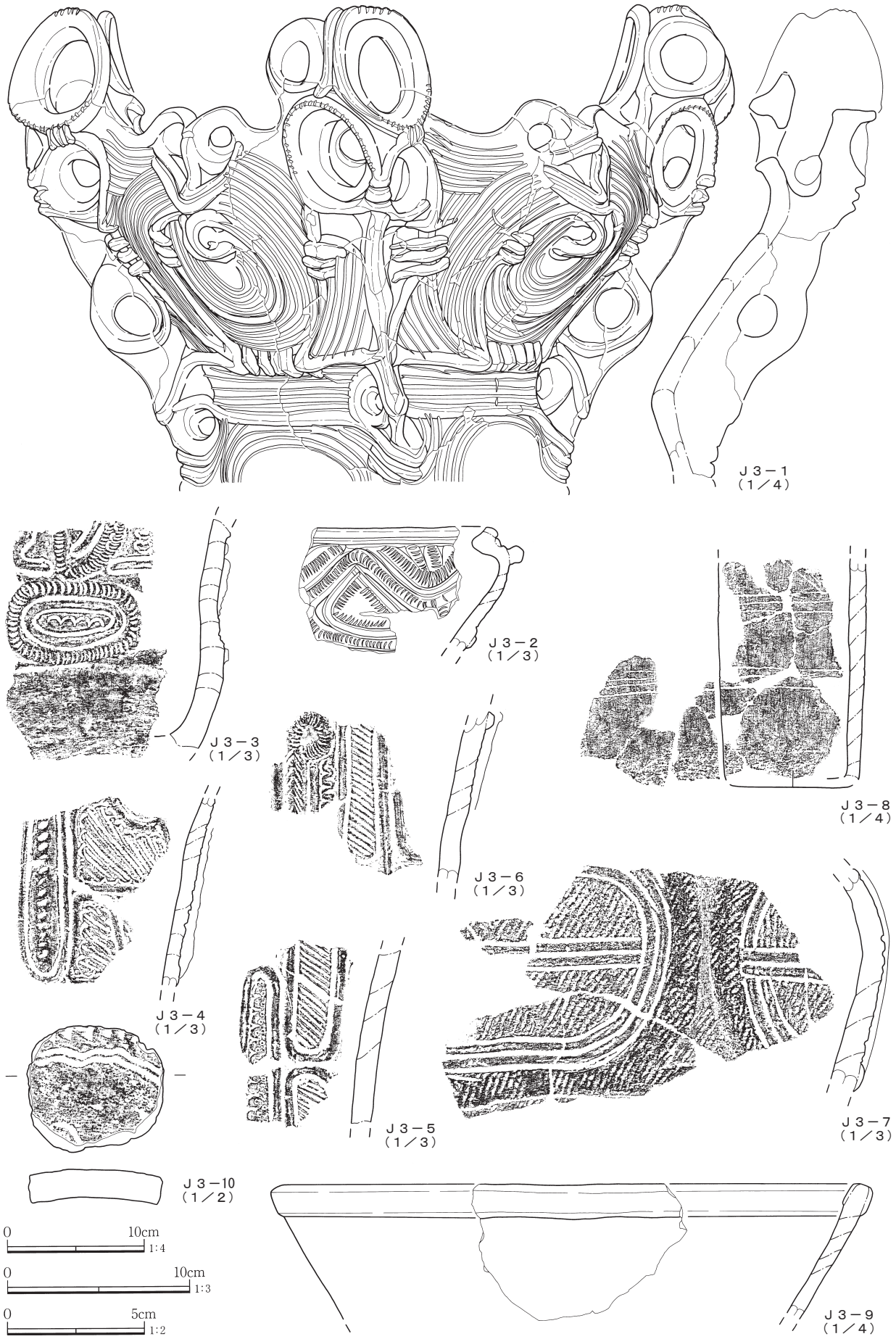


Fig. 24　Ａ区　Ｊ－３号竪穴建物跡　遺物実測図

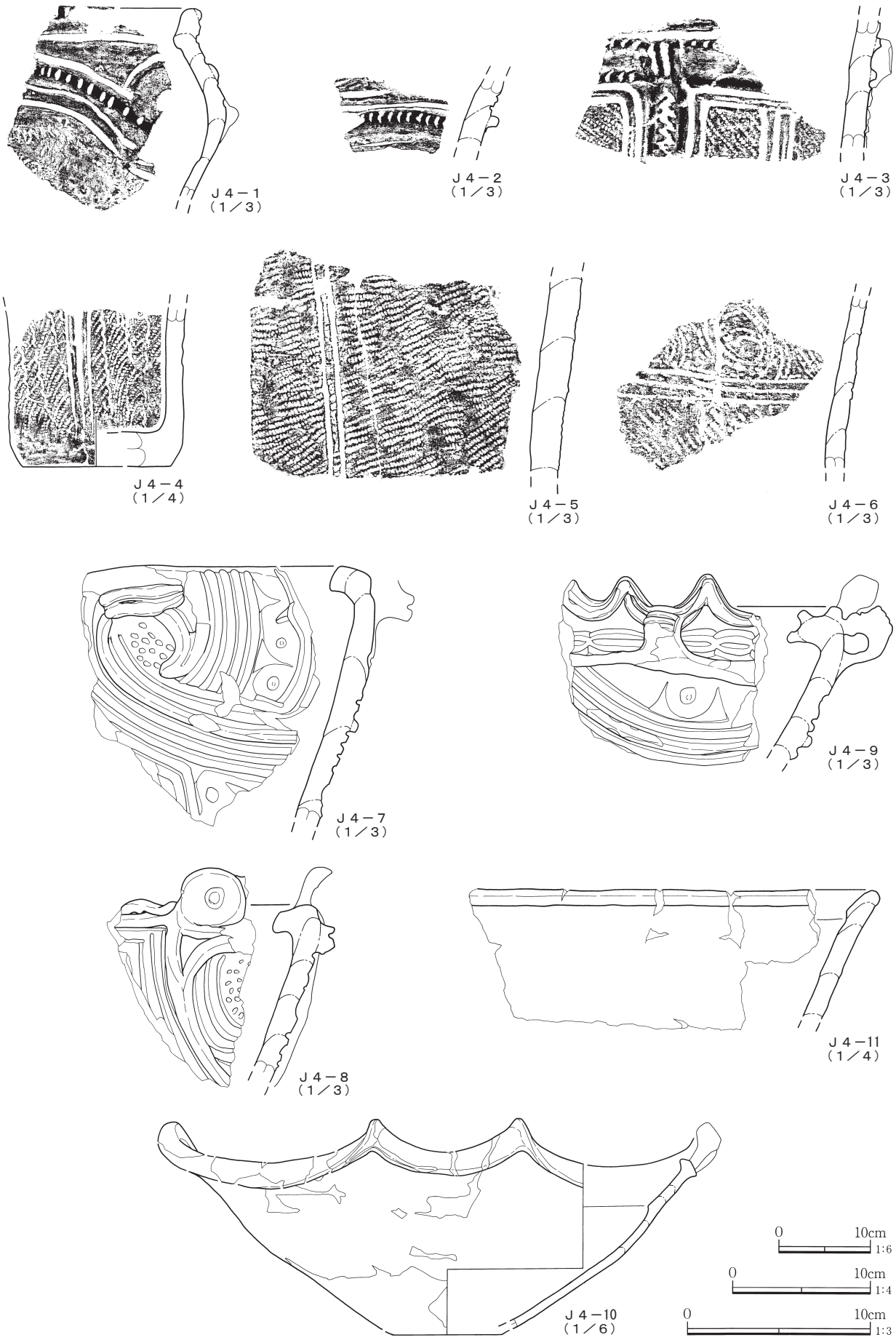


Fig. 25　Ａ区　Ｊ－４号竪穴建物跡　遺物実測図

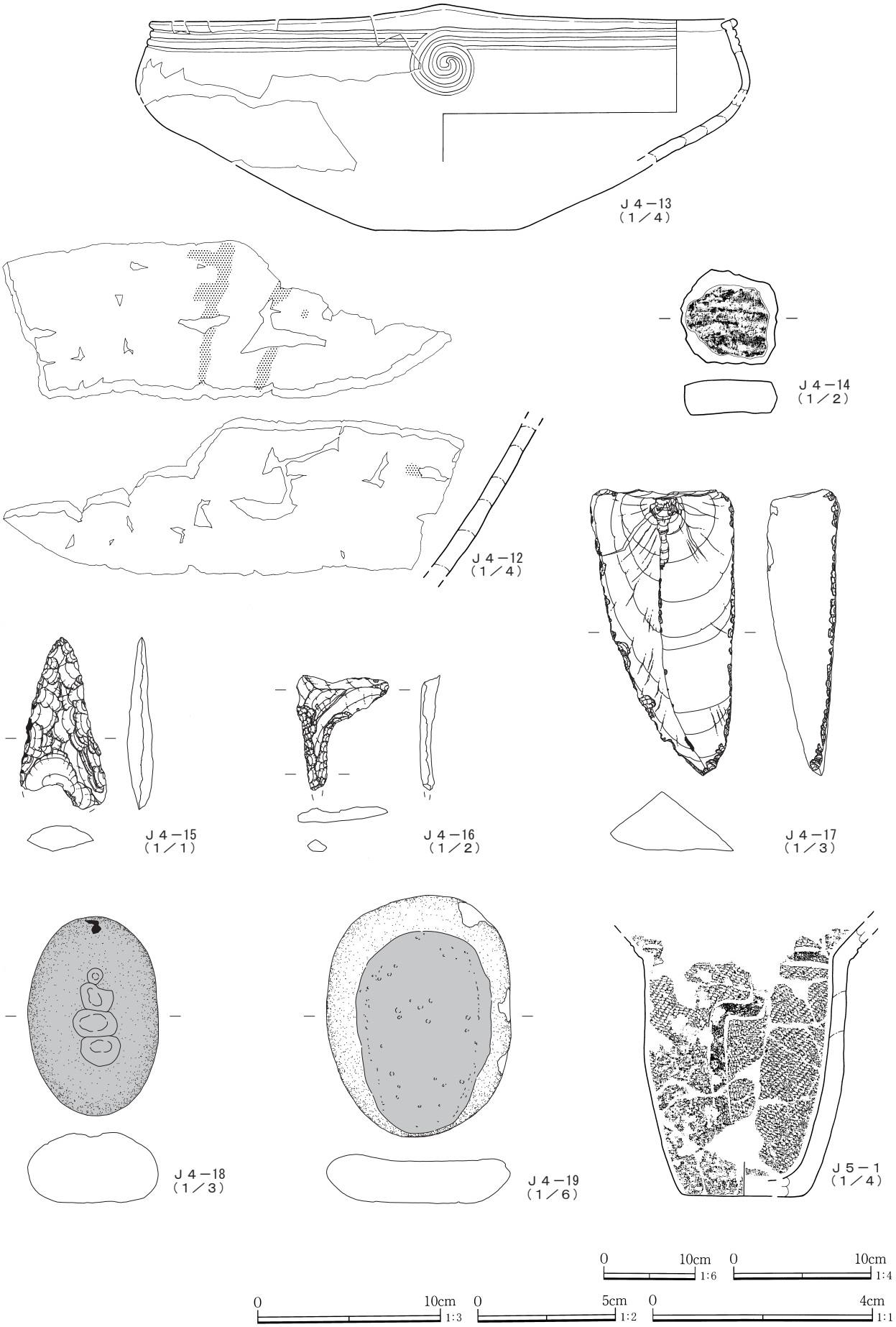


Fig. 26　Ａ区　Ｊ－４・Ｊ－５号竪穴建物跡　遺物実測図

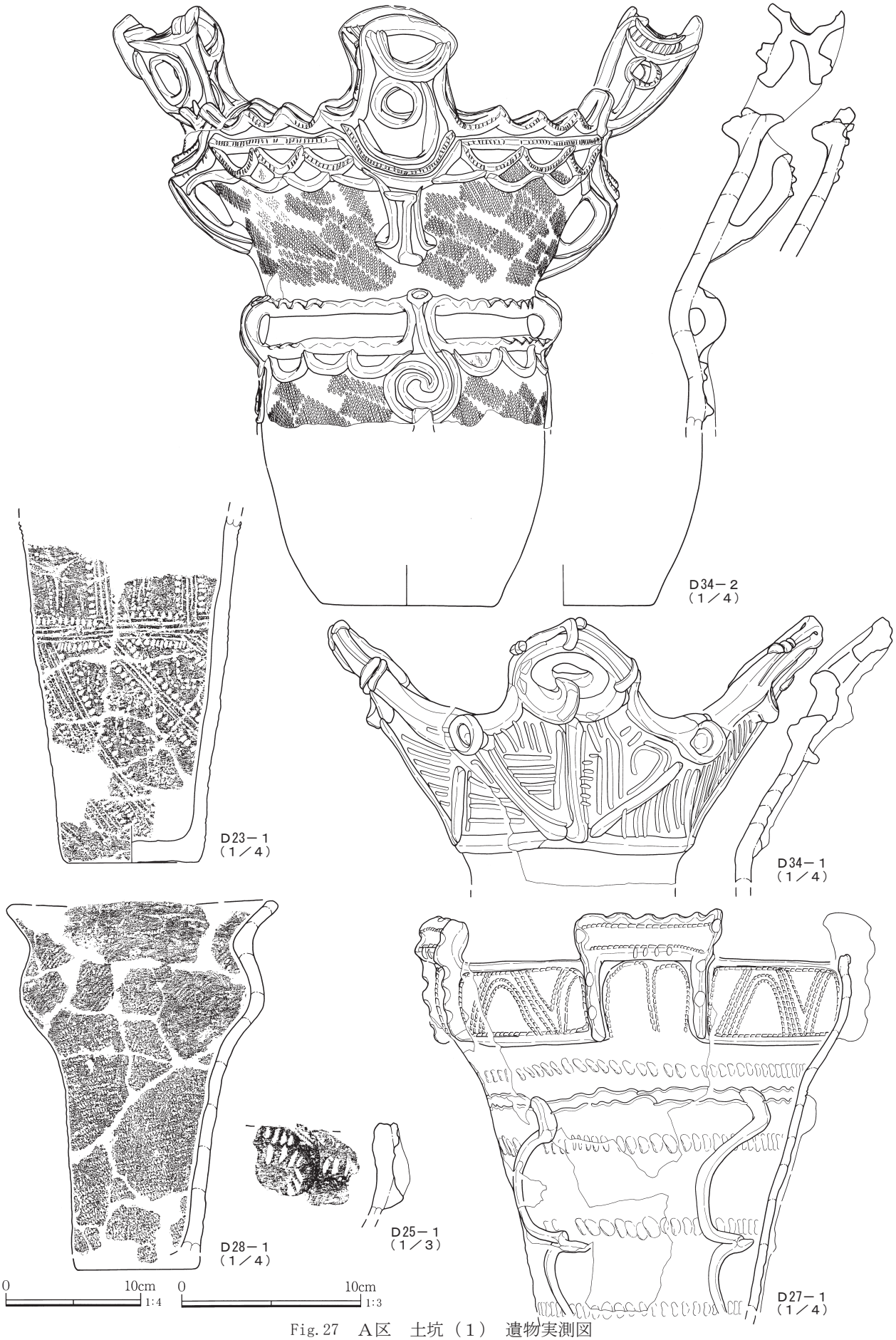


Fig. 27　A区　土坑（1）　遺物実測図

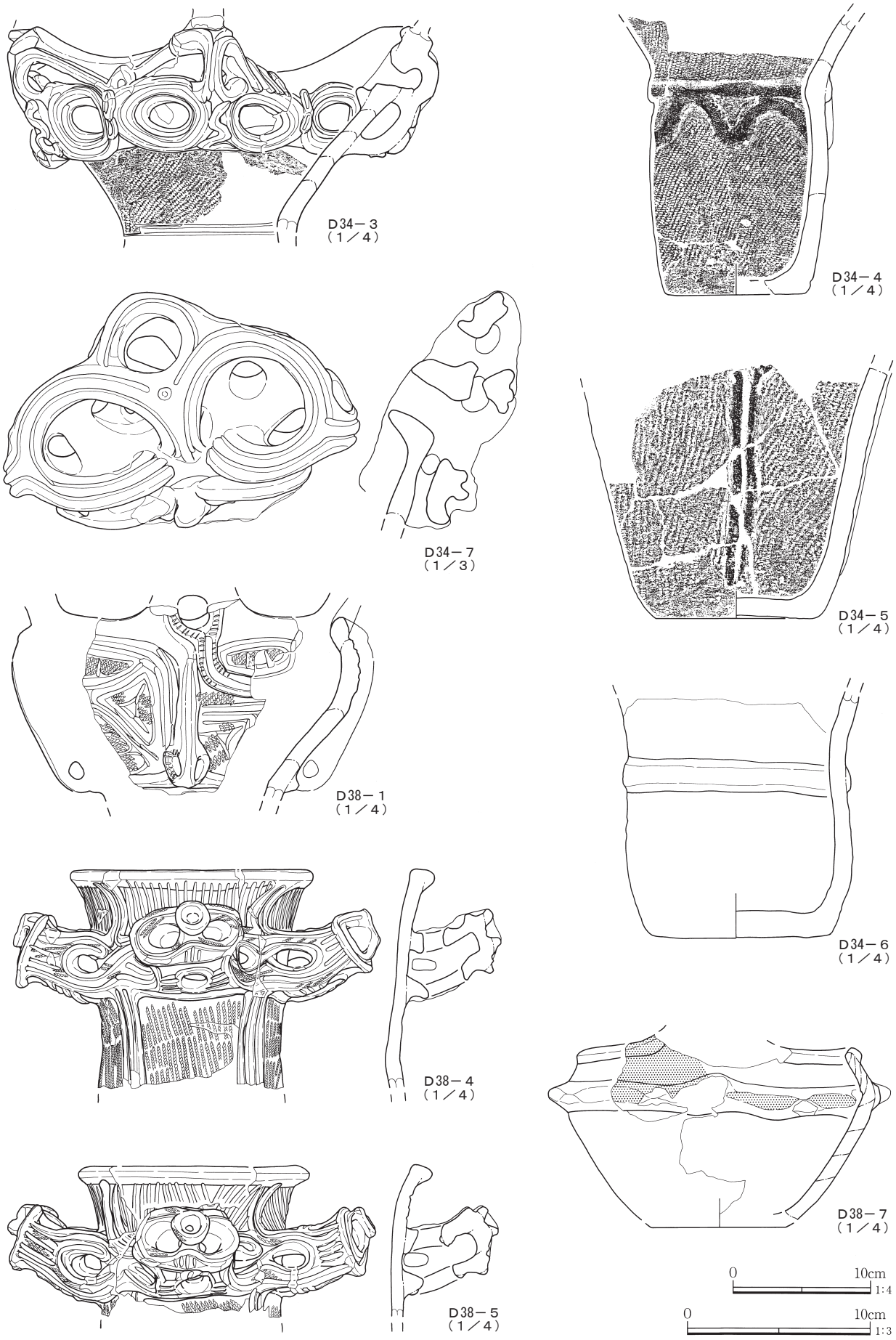
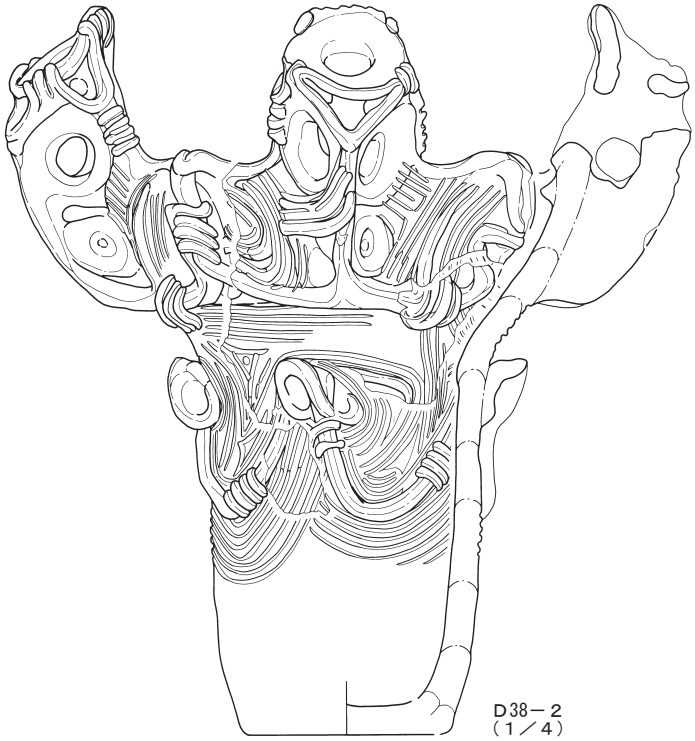
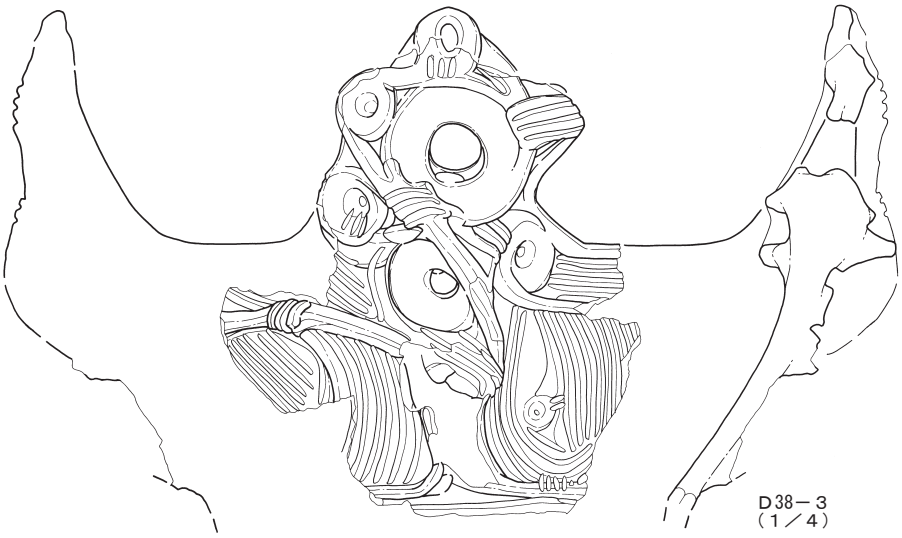


Fig. 28　A区　土坑（2）　遺物実測図





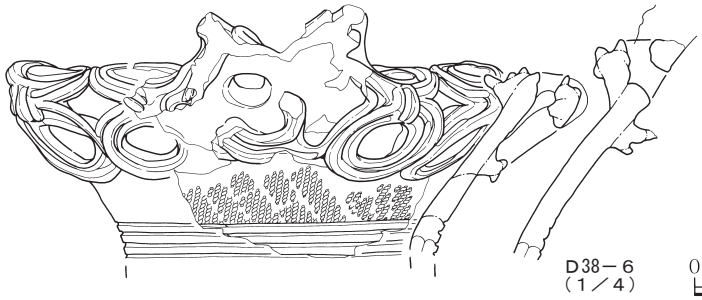


Fig.29　A区　土坑（3）　遺物実測図

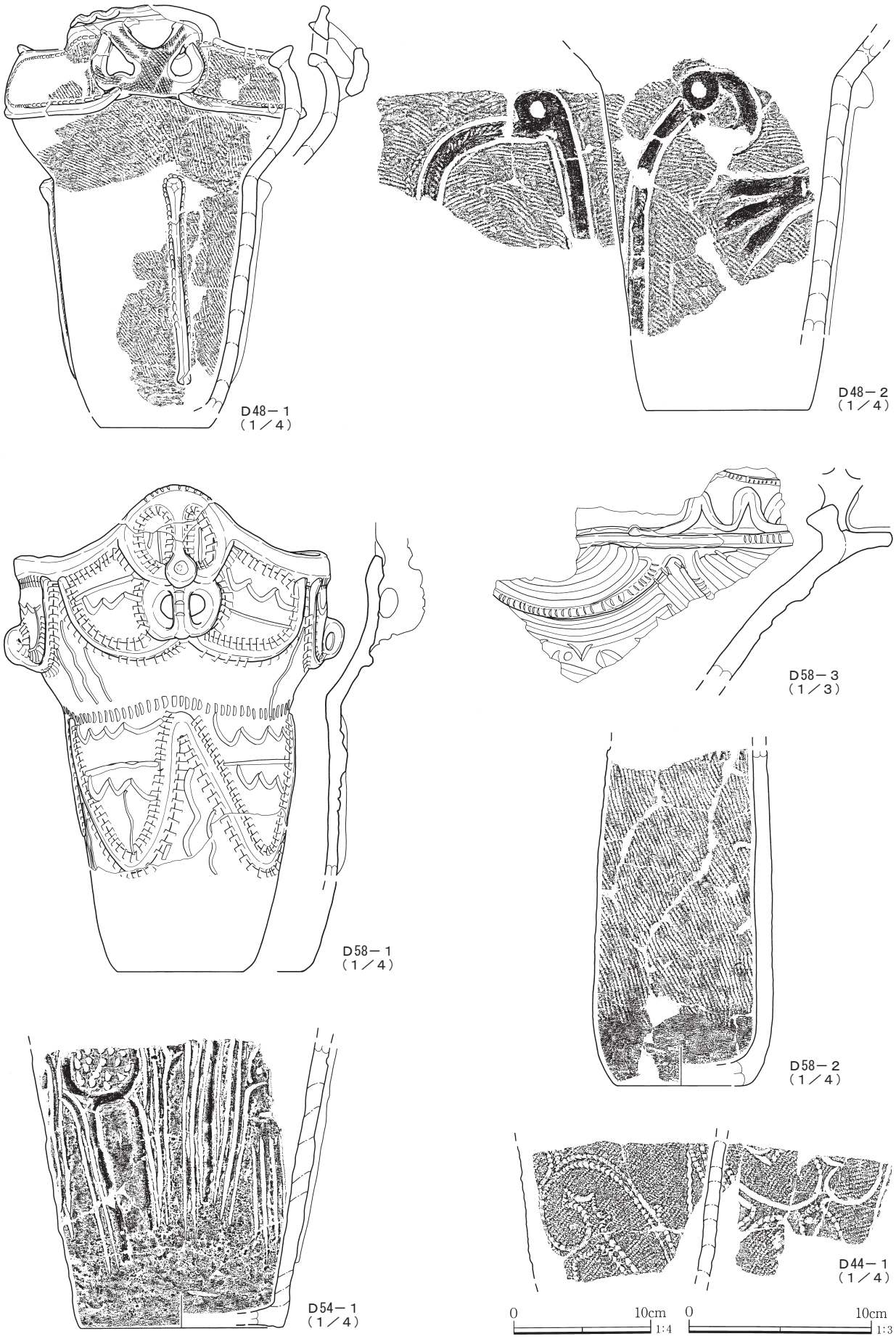


Fig. 30　A区　土坑（4）　遺物実測図

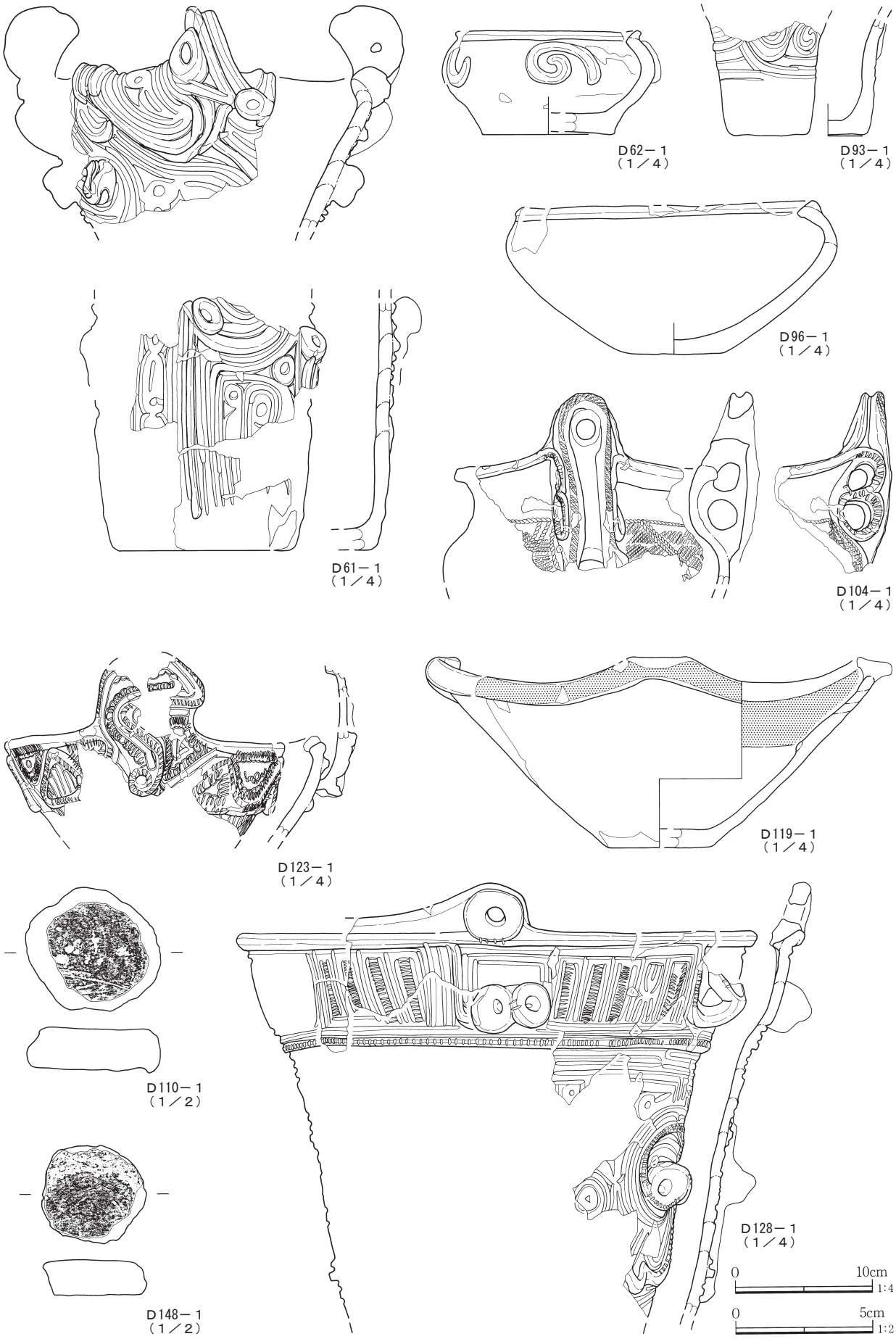


Fig. 31　A区　土坑（5）　遺物実測図

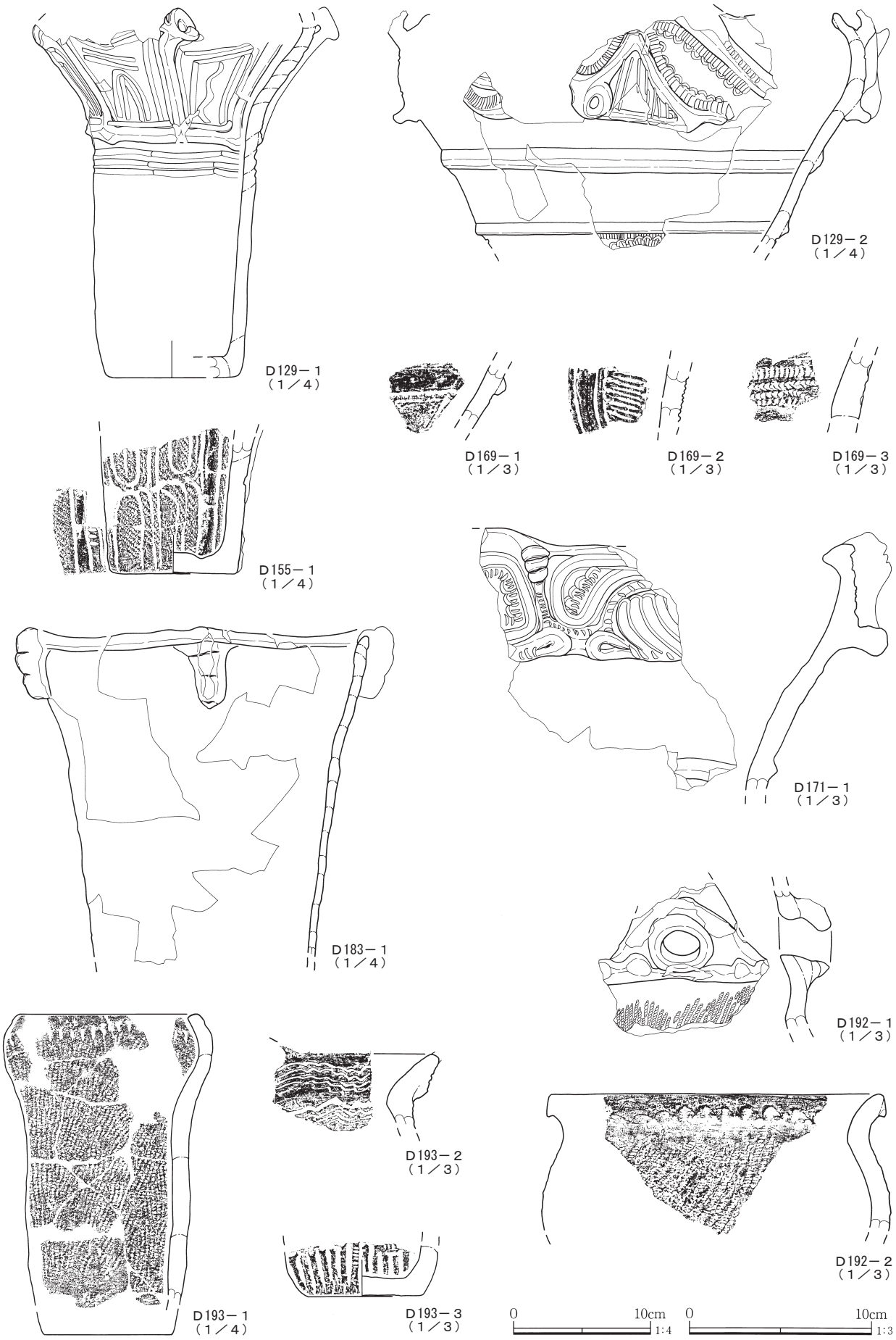


Fig. 32　A区　土坑（6）　遺物実測図

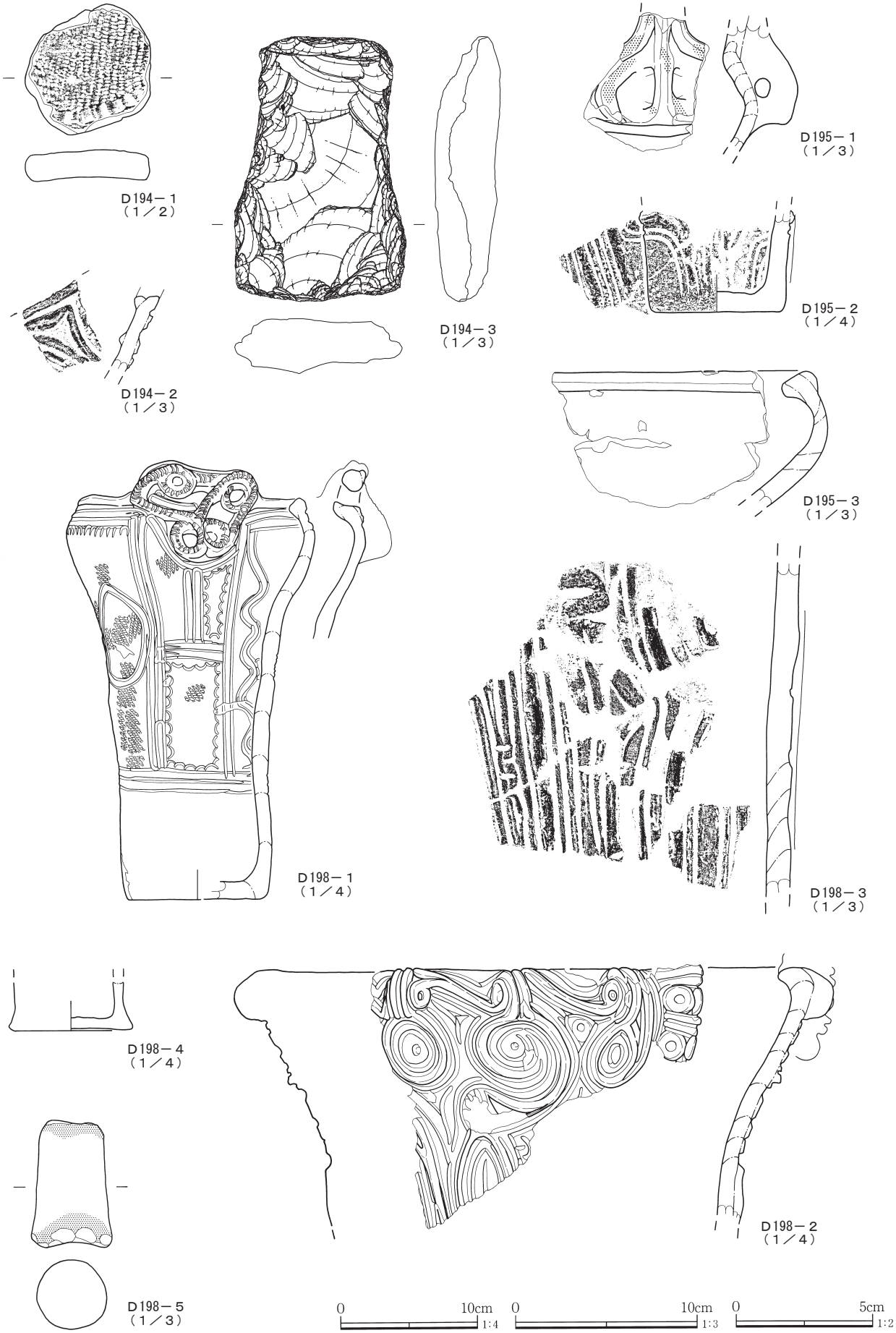


Fig. 33　A区　土坑（7）　遺物実測図

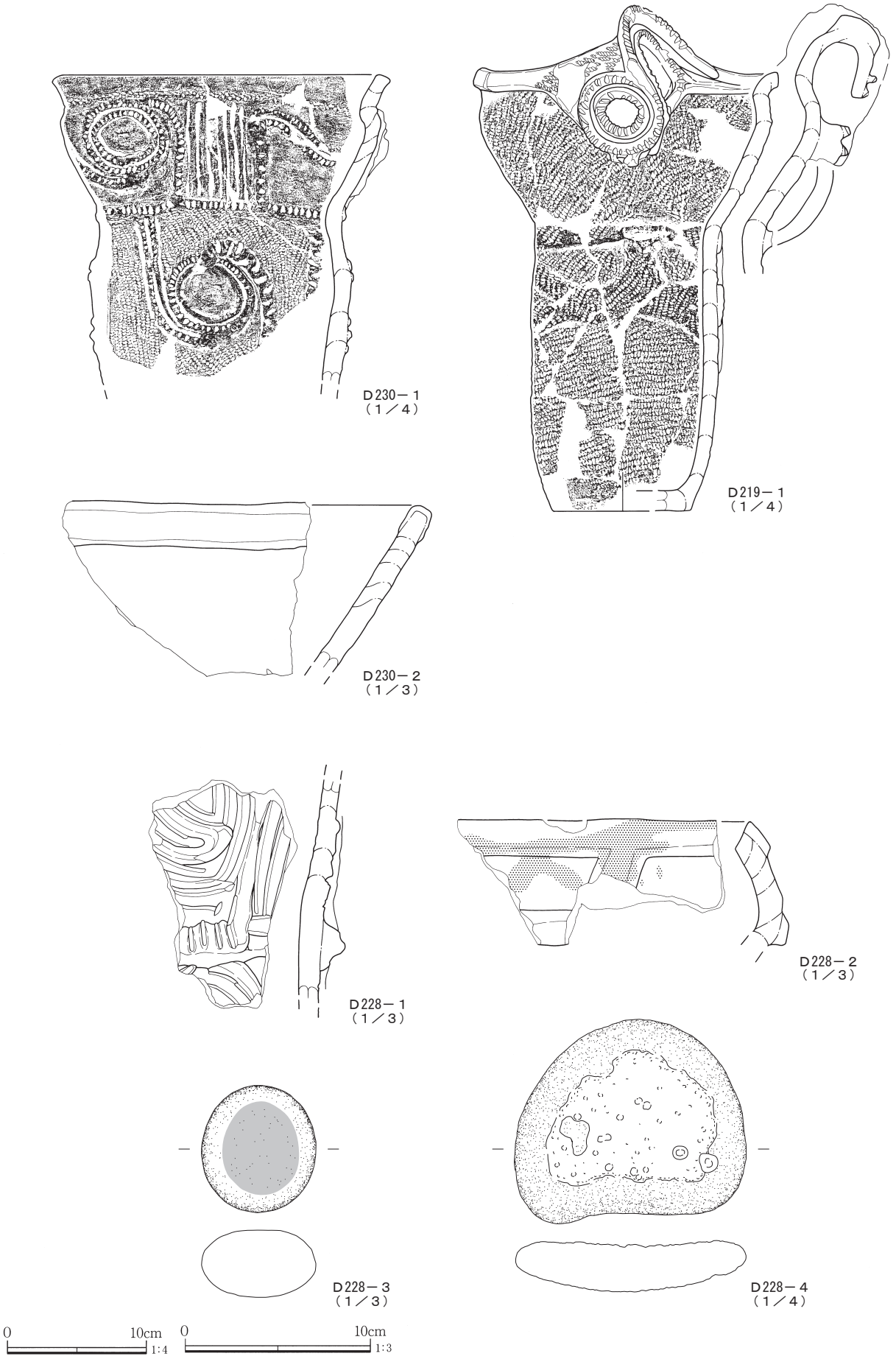


Fig. 34　A区　土坑（8）　遺物実測図

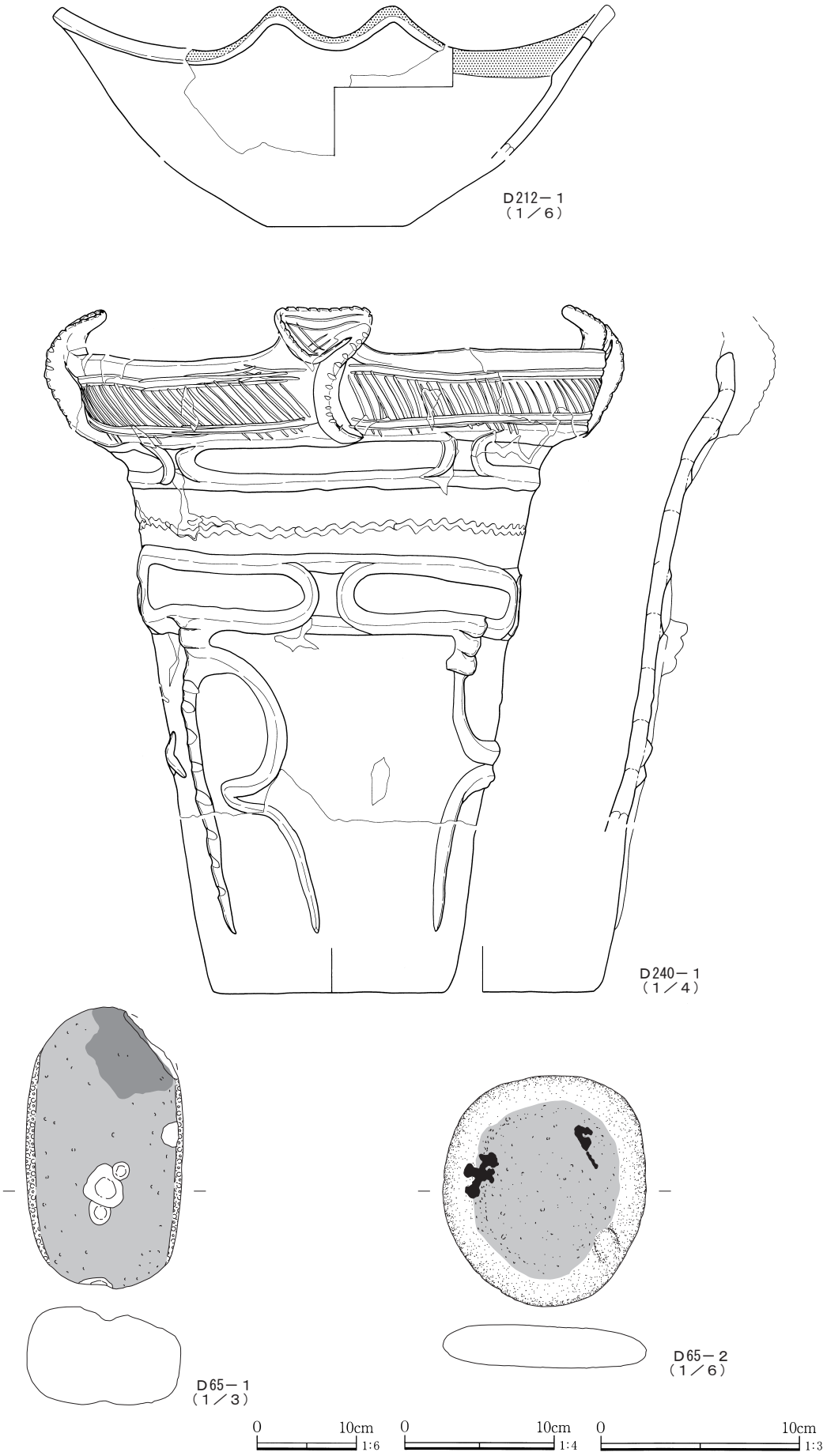


Fig.35　A区　土坑（9）　遺物実測図

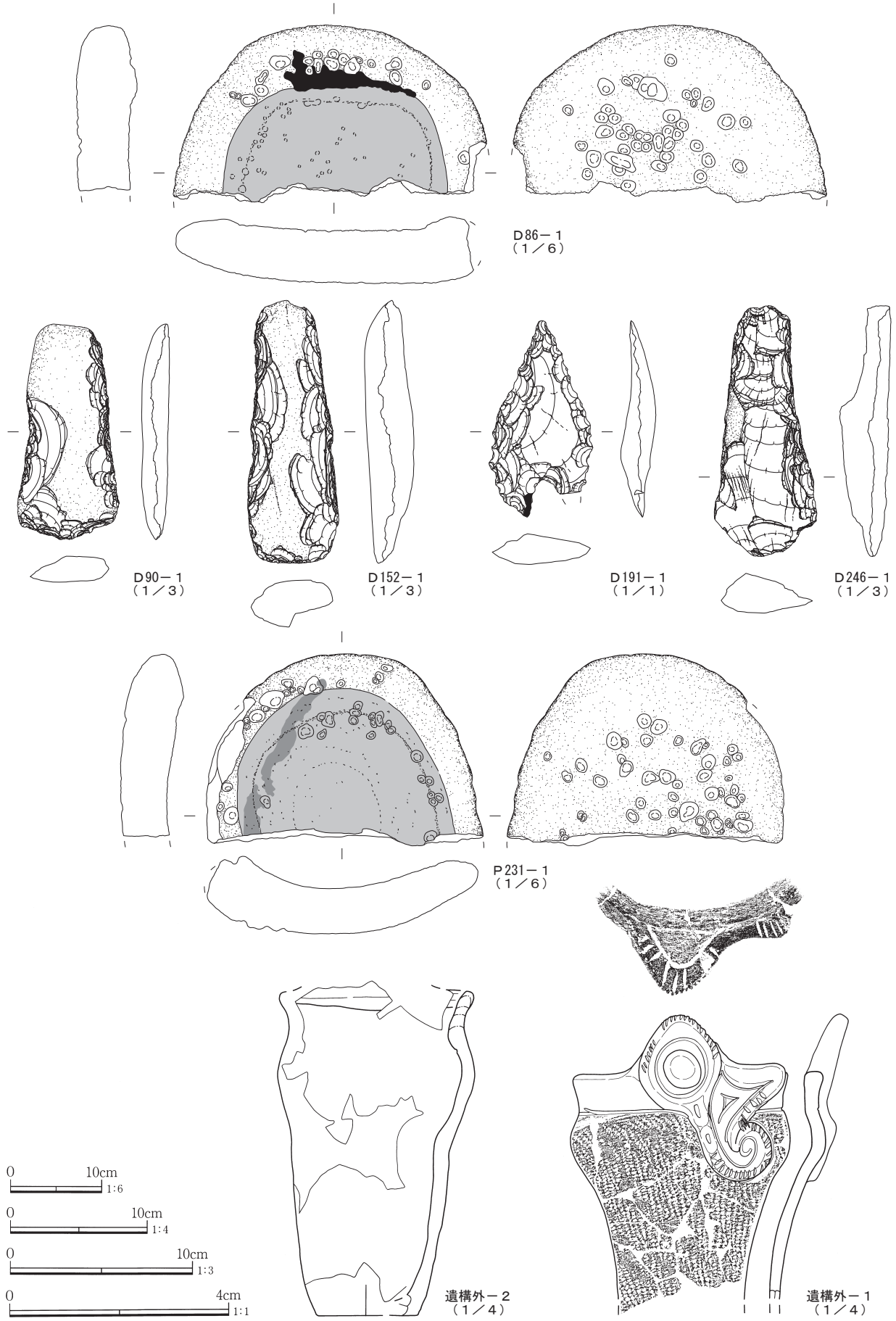


Fig. 36　A区　土坑（10）・遺構外　遺物実測図

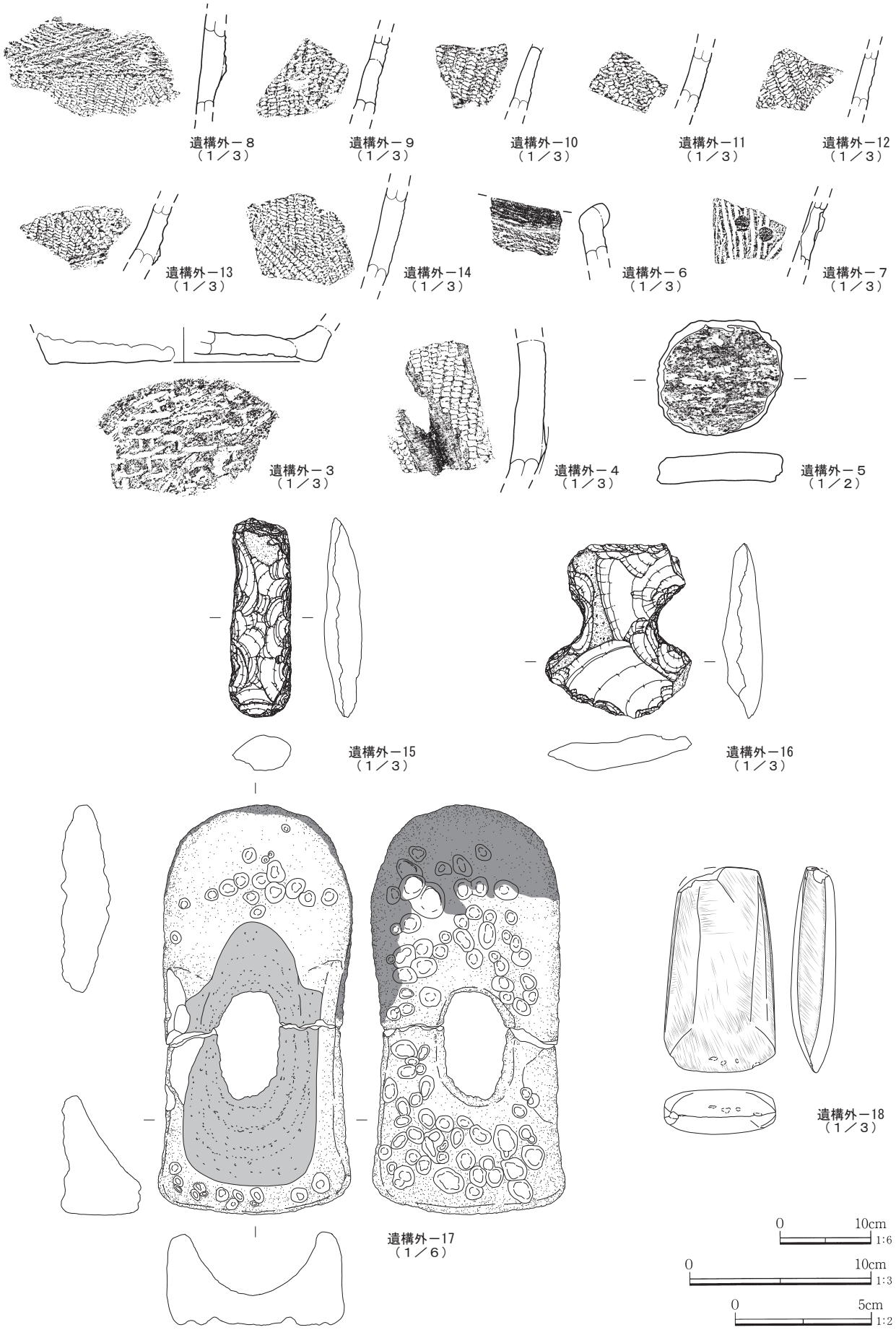


Fig. 37　A・B区　遺構外　遺物実測図

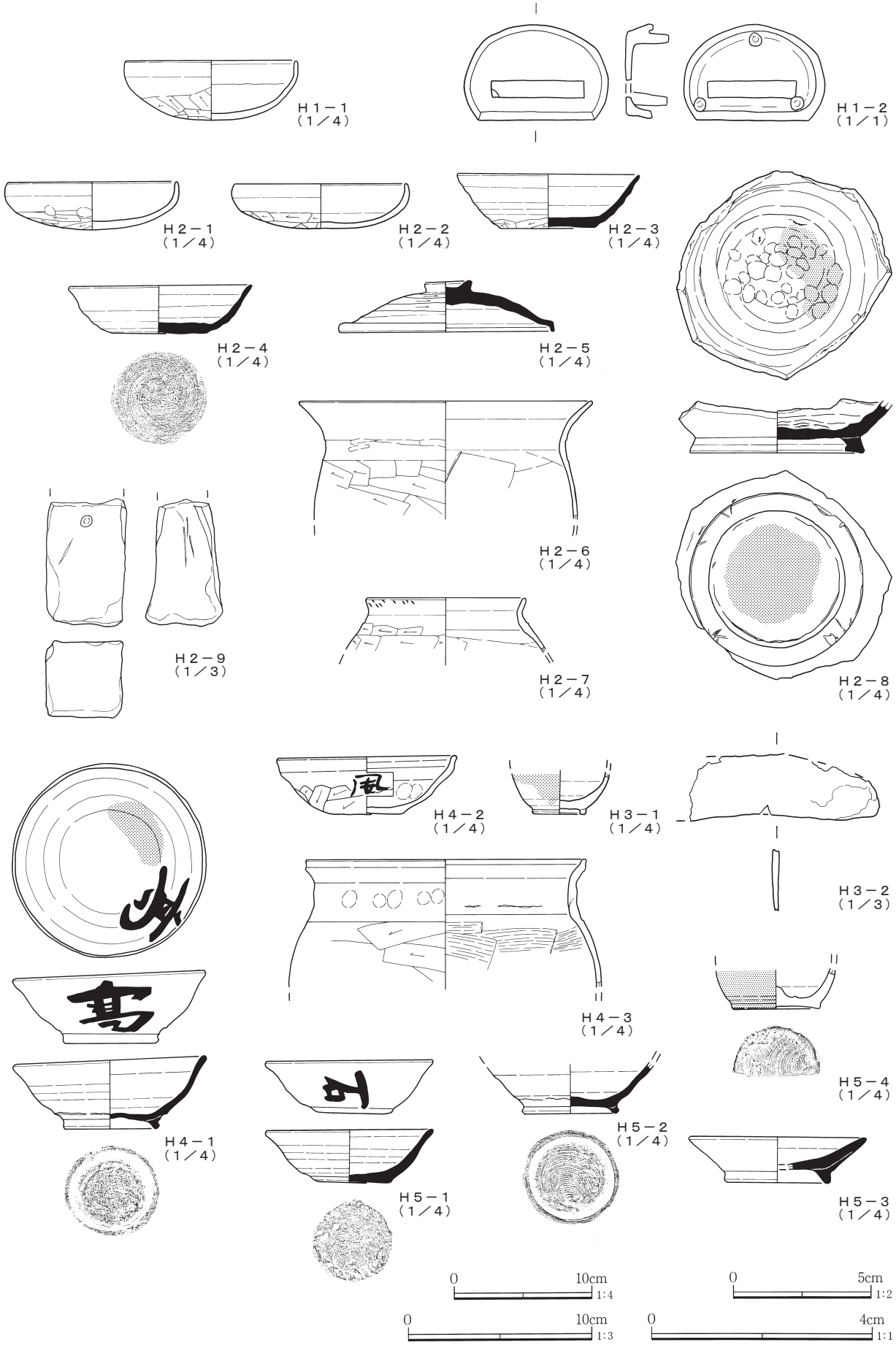


Fig. 38　B区　H－１～５号竪穴建物跡　遺物実測図

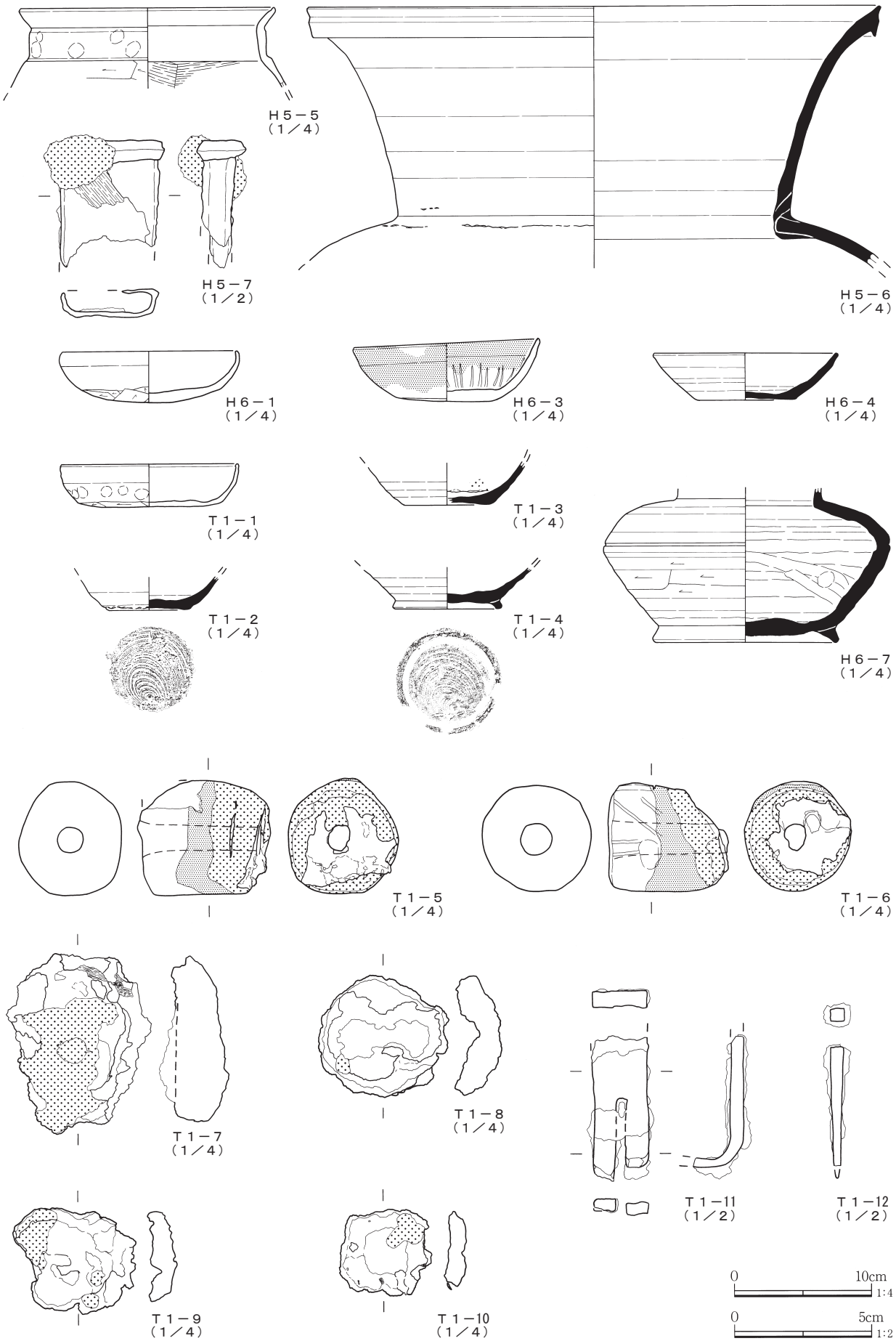


Fig. 39　B区　H－５・H－６号竪穴建物跡，T－１号遺構　遺物実測図

Tab. 11　縄文時代出土遺物観察表（１）

法量の（ ）は推定値、〈 〉は残存値。

区	遺構	№.	器　種	成・整 形 技 法の特徴	寸　法（cm）	①胎土　②色調	備　考
A	J-2	1	縄文土器 深鉢	４単位の波状口縁。口頸部単節ＲＬ縄文を縦位施文→口縁部横位隆帯（一部蕨手状）・橋状把手を貼付→隆帯・把手面に丸棒状工具による沈線、頸部には半截竹管状工具による横位の平行沈線を施文。内面は横位のミガキ。	—	①角閃石、石英、長石、白色粒②にぶい橙色（7.5YR6/4）	縄文中期中葉
A	J-2	2	縄文土器 深鉢	胴部単節ＲＬ縄文を斜位施文→縦位・波状隆帯を貼付→半截竹管状工具によるナデ。内面は横位のナデ。	底径：(15.3)	①石英、赤色粒、白色粒 ②赤褐（5YR4/6）	縄文中期中葉
A	J-2	3	縄文土器 深鉢	胴部ナデ→部分的に縦位単節ＲＬ縄文を斜位施文→半截竹管状工具による平行沈線で線文・波状文を施文。内面は横位のナデ。	底径：9.5 器高：〈19.9〉	①石英、長石 ②赤褐 5YR5/6	縄文中期中葉
A	J-2	4	縄文土器 深鉢	口縁部～頸部で上部に突起を想定。頸部横位隆帯を貼付→上部に橋状把手・渦巻状の隆帯を貼付→隆帯内側に半截竹管状工具による角押文、刺突による波状文〈蓮華文〉を施文→上記工具による平行沈線で囲む。隆帯上面にキザミ。内面ナデ。	—	①角閃石、石英、長石 ②明赤褐（5YR5/6）	縄文中期中葉
A	J-2	5	縄文土器 深鉢	胴部蛇行隆帯を貼付→隆帯上面に半截竹管状工具によるキザミ→丸棒状工具による単沈線を沿わせる。半截竹管状工具による押捺・キザミで充填〈蓮華文〉。内面は横位のナデ。	器高：〈5.7〉	①石英、チャート、白色粒 ②灰褐色（10YR4/2）	縄文中期中葉
A	J-2	6	縄文土器 深鉢	平縁口縁に粘土紐を貼付して外反させる。口縁部は無文と想定。胴部上位の張り出し部に突帯→突帯上面に３単位の縦位隆帯を貼付→隆帯間に半截竹管状工具による縦位の平行沈線を充填。	口径：(18.0) 器高：〈9.5〉	①角閃石、石英、長石 ②橙（7.5YR6/6）	縄文中期中葉
A	J-2	7	縄文土器 深鉢	胴部中位に眼鏡状突起→蛇行隆帯を貼付→半截竹管状工具による半隆起線を隆帯に沿わせる。内面は横位のナデ。	器高：〈10.7〉	①角閃石、石英、長石 ②にぶい橙（7.5YR6/4）	縄文中期中葉
A	J-2	8	縄文土器 深鉢	胴部上位単節ＲＬ横位施文→隆帯による楕円形区画→半截竹管状工具による角押文で波状文を施文。内面は横位のナデ。	器高：〈3.4〉	①雲母、多量の石英、長石 ②にぶい橙（7.5YR5/4）	縄文中期中葉
A	J-2	9	石器 石鏃	凹基無茎。先端部・片脚欠損。長さ：[3.8] cm、幅：[1.56] cm、厚さ：0.62 cm、重さ：2.59g。	—	石材：頁岩	
A	J-2	10	石器 打製石斧	短冊形。割礫を素材とし両側縁を直接打撃による両面加工が施される。刃部周辺は顕著な摩耗痕が認められ部分的にリダクション（刃部再生）あり。長さ：13.4 cm、幅：5.0 cm、厚さ：1.7 cm、重さ：146.5g。	—	石材：頁岩	
A	J-3	1	縄文土器 深鉢	推定４単位の波状口縁。波頂部下は橋状把手、波底部には眼鏡状の把手を貼付。把手端部には一部に丸棒状工具によるキザミを施す。口頸部隆帯による横位区画→区画内に半截竹管状工具による平行沈線で弧状文を施文。内面は横位のミガキ。	口径：(37.6)	①角閃石、灰色粒、石英、白色粒②にぶい橙色（7.5YR7/4）	縄文中期中葉
A	J-3	2	縄文土器 深鉢	平縁口縁。口唇部は粘土紐によって肥厚。口縁部下位に蛇行隆帯による三角形区画→隆帯に幅広工具による押引文・半截竹管状工具による平行沈線を沿わせる→押引文の接点に三叉文を陰刻。隆帯上面に半截竹管状工具によるキザミ。内面は横位のナデ。	器高：〈6.8〉	①石英、長石②にぶい赤褐（5YR5/4）	縄文中期中葉
A	J-3	3	縄文土器 深鉢	胴部に隆帯による楕円形区画→隆帯上面に半截竹管状工具による縦位・横位のキザミ→区画隆帯内外に上記工具による平行沈線を沿わせる→工具先端による波状文を充填。	器高：〈12.4〉	①石英、長石、片岩多量②にぶい黄褐（10YR5/4）	縄文中期中葉
A	J-3	4	縄文土器 深鉢	胴部に縦位隆帯を貼付→隆帯上面に半截竹管状工具によるキザミ。隆帯脇に上記工具による半隆起線を沿わせる→上記工具による沈線・刺突による半円形文を施文。内面は縦位のナデ。	器高：〈10.2〉	①石英、長石、白色粒②明赤褐（5YR5/6）	縄文中期中葉
A	J-3	5	縄文土器 深鉢	胴部に半截竹管状工具による半隆起線の楕円形区画→区画内を上記工具による斜位平行沈線・先端による刺突文・竹管状工具による円文で充填。楕円形区画の接点を三叉文を施文。内面は縦位のナデ。	器高：〈9.3〉	①石英、片岩②にぶい橙（7.5YR5/4）	縄文中期中葉
A	J-3	6	縄文土器 深鉢	胴部に縦位・環状隆帯を貼付→隆帯上面に半截竹管状工具による角押文・幅広工具による斜位２方向のキザミ、上記工具先端による刺突文を施文→上記工具による平行沈線で楕円形区画→区画内を斜位平行沈線で充填→隆帯間に三叉文を陰刻。内面は横位のナデ。	器高：〈8.3〉	①石英、長石、片岩②にぶい黄褐（2.5YR4/1）	縄文中期中葉
A	J-3	7	縄文土器 深鉢	胴部に楕円形区画と想定される隆帯を貼付→区画内・隆帯上面に単節ＲＬ縄文を縦位施文→半截竹管状工具による平行沈線で円文・線文を施文。隆帯間を部分的にナデ。内面は横位のナデ。	—	①角閃石、石英、白色粒②にぶい赤褐（5YR5/4）	縄文中期中葉
A	J-3	8	縄文土器 小型深鉢	円筒形の胴部。外面ミガキ→細い角棒状工具による単沈線を３～４条施文。上段の沈線に斜位３条の単沈線が連繋。内面横位・斜位のナデ。	底径：(7.4) 器高：〈12.0〉	①角閃石、石英、チャート、長石②橙（7.5YR6/6）	縄文中期中葉
A	J-3	9	縄文土器 浅鉢	平縁口縁。隆帯によって口縁部肥厚する。外面・内面ともにナデ。	口径：(43.8) 器高：〈9.9〉	①石英、赤色粒、長石、白色粒②にぶい黄褐（2.5YR4/1）	縄文中期中葉
A	J-3	10	土製品 円盤	胴部上位にナデ→棒状工具による横位キザミ。半截竹管状工具による複列平行沈線で波状文を施文。内面摩耗。長さ:4.6cm、幅:5.0cm、厚さ:1.0cm、重さ：30.44g	—	①石英、長石②橙（7.5YR6/6）	縄文中期中葉
A	J-4	1	縄文土器 深鉢	口縁部に横位隆帯による肥厚→隆帯上面に半截竹管状工具によるキザミ。隆帯に上記工具による単沈線を沿わせる。口縁部下位に弧状隆帯を貼付→隆帯上面にキザミ。隆帯に単沈線を沿わせる。環状突起を貼付。内面に小口状工具による横位のナデ。	器高：〈10.4〉	①角閃石、石英、赤色粒、片岩②にぶい赤褐色（2.5YR4/4）	縄文中期中葉
A	J-4	2	縄文土器 深鉢	横位隆帯貼付→隆帯上面に半截竹管状工具によるキザミ。隆帯脇に半截竹管状工具凸面ないし丸棒状工具による横位単沈線を施文。	器高：〈3.5〉	①角閃石、石英、赤色粒②明赤褐（5YR3/3）	縄文中期中葉
A	J-4	3	縄文土器 深鉢	胴部に２条の縦位・横位隆帯を貼付→横位隆帯上面に半截竹管状工具によるキザミ。縦位隆帯間にＶ字状のキザミ。上記工具による平行沈線を隆帯に沿わせる。区画内に単節ＬＲ縄文を縦位施文。内面は横位のナデ。	器高：〈6.9〉	①角閃石、石英、赤色粒②橙色（7.5YR6/6）	縄文中期中葉
A	J-4	4	縄文土器 深鉢	胴部下位に単節ＲＬ縄文を縦位施文→無節Ｌによる結節縄文を縦位施文。	底径：(10.7) 器高：〈11.3〉	①角閃石、石英②橙（5YR6/6）	縄文中期中葉
A	J-4	5	縄文土器 深鉢	胴部は単節ＬＲ縄文を斜位施文→半截竹管工具による平行沈線を縦位施文。内面は横位のナデ。	器高：〈10.4〉	①角閃石、石英、赤色粒、白色粒 ②明褐色（5YR5/6）	縄文中期中葉
A	J-4	6	縄文土器 小型深鉢	胴部に半截竹管状工具による平行沈線で渦巻文を施文→渦巻文の脇に同工具による押引文を沿わせる→３条の横位平行沈線による区画。単節ＲＬ縄文を横位施文。内面は横位のナデ。	口径：- 底径：- 器高：〈9.0〉	①角閃石、石英、赤色粒②にぶい橙（7.5YR6/4）	縄文中期中葉
A	J-4	7	縄文土器 深鉢	平縁口縁にコイル状突起を貼付。渦巻状に隆帯を貼付→半截竹管状工具による半隆起線を沿わせる。渦巻状隆帯内や半隆起線文側に列点文・三叉文・円文を充填。内面は横位のナデ。	器高：〈14.1〉	①角閃石、石英、赤色粒、白色粒②明赤褐色（5YR5/6）	縄文中期中葉
A	J-4	8	縄文土器 深鉢	平縁口縁に環状突起を貼付→渦巻状隆帯を貼付→半截竹管状工具による半隆起線文を沿わせる。渦巻状隆帯内に列点文を充填。内面は横位のナデ。	器高：〈11.8〉	①角閃石、石英、赤色粒、白色粒②明赤褐色（5YR5/6）	縄文中期中葉
A	J-4	9	縄文土器 深鉢	口縁部は山形状突起。口縁部下位に鍔状隆帯を貼付→冠状口縁と鍔状隆帯を橋状突起で連繋。口縁部・隆帯間に角棒状工具による波状文・線文を充填。隆帯に半截竹管状工具による半隆起線文を沿わせる。三叉文・円文を充填。内面は丁寧なミガキ。	器高：〈10.0〉	①角閃石、石英、赤色粒、白色粒②明赤褐色（5YR5/6）	縄文中期中葉
A	J-4	10	縄文土器 浅鉢	底部欠損。口縁部は４単位双頭波状口縁。外面・内面ともにナデ→丁寧なミガキ。内面口縁部下に稜を持つ。	口径：(62.0) 器高：〈23.1〉	①雲母、長石、石英②灰黄褐（10YR6/2）	縄文中期中葉
A	J-4	11	縄文土器 浅鉢	平縁口縁。外面・内面とも横位のナデ→ミガキ。	口径：(55.8) 器高：〈9.3〉	①角閃石、石英、赤色粒②灰褐色（5YR4/2）	縄文中期中葉

Tab. 12　縄文時代出土遺物観察表（２）

法量の（ ）は推定値、＜ ＞は残存値。

区	遺構	No.	器　種	成・整 形 技 法の特徴	寸　法（cm）	①胎土　②色調	備　考
A	J-4	12	縄文土器 浅鉢	外面は横位ミガキ→赤彩。内面は横位ミガキ→赤彩による文様を施文。	—	①角閃石、石英、赤色粒②にぶい黄橙食（10YR7/2）	縄文中期中葉
A	J-4	13	縄文土器 浅鉢	口縁部半截竹管状工具による３条の平行沈線。正面の円文と想定される弧状の沈線が一部残存。胴部に横位･斜位のケズリ→ナデ。内面は横位のナデ。底部・屈折部が欠損。	口径：(43.0) 器高：(14.3)	①雲母、角閃石②にぶい黄橙（10YR7/3）	縄文中期中葉 北陸系浅鉢
A	J-4	14	土製品 円盤	外面･内面ともに横位のナデ。縁辺部摩耗。　長さ:3.4cm　幅:3.2cm　厚さ:1.1cm　重さ：16.92g	—	①角閃石、石英、白色粒②にぶい褐色（7.5YR5/4）	縄文中期中葉
A	J-4	15	石器 石鏃	基部の一部欠損。長さ：[3.2] cm、幅［1.6］cm、厚さ：0.5 cm、重さ：1.77g。	—	石材：頁岩	
A	J-4	16	石器 石錐	つまみ有り。先端部欠損。長さ：［4.2］cm、幅：3.4 cm、厚さ：0.75 cm、重さ：4.88g。	—	石材：頁岩	
A	J-4	17	石器 Ｓｃ	大形縦長剥片の二側縁に微細剥離痕が顕著。長さ:15.8 cm、幅:7.9 cm、厚さ:4.1 cm、重さ：380.4g。	—	石材：頁岩	
A	J-4	18	石器 凹石	楕円形。表・裏面に摩耗痕・凹穴あり。凹→磨。長さ：11.0 cm、幅：7.2 cm、厚さ：3.9 cm、重さ：396.7g。	—	石材：安山岩	
A	J-4	19	石器 石皿	大形扁平礫を素材とする。皿面は使用により浅く窪み部分的に敲打痕が認められる。裏面は平滑し部分的に敲打集中による凹穴あり。長さ：26.7 cm、幅：20.4 cm、厚さ：5.4 cm、重さ：4,450g。	—	石材：安山岩	
A	J-5	1	縄文土器 深鉢	頸部～胴部に単節ＲＬ縄文を縦位・斜位施文→頸部に半截竹管状工具凸面による２条の単沈線。蛇行隆帯を貼付→隆帯両脇に上記工具による単沈線を沿わせる。	底径：8.9 器高：<20.0>	①角閃石、石英、チャート、白色粒②明赤褐（5YR5/6）	縄文中期中葉 被熱による摩耗
A	D-23	1	縄文土器 深鉢	胴部上位に半截竹管状工具による複列平行沈線で縦位・横位区画→縦位区画内にＹ字状の陰刻→上記工具による角押文で囲む。胴部中位から底部にかけて複列平行沈線を斜位施文→沈線間に丸棒状工具による角押文で２条の波状文を施文。内面は縦位・横位のナデ。	底径：(9.8) 器高：<25.6>	①石英、長石、白色粒②にぶい赤褐（5YR5/4）	縄文中期中葉
A	D-25	1	縄文土器 深鉢	波状口縁。口縁部に隆帯による楕円形区画文を施文→隆帯脇・上面に竹管状工具による爪形文を施文。内面は横位のナデ。外面スス付着。	—	①角閃石、金雲母、石英、②黄灰色（2.5Y4/1）	縄文中期中葉
A	D-27	1	縄文土器 深鉢	平縁口縁。口縁部４単位の扇状把手を貼付、隆帯による長方形の区画文を施文→隆帯上面に押捺・丸棒状工具側面によるキザミ。隆帯脇に角棒状工具（先端加工）による単列の角押文を施文し、区画内には同様の手法でＭ字状の文様を施文。胴部は横位のヒダ状圧痕を反時計回りに４段巡らせ、隆帯による蛇行懸垂文を施文する→懸垂文間に上記工具による横位波状文を２条施文。内面は口縁～胴部中位が丁寧な横位のナデ、胴部下位は斜位のケズリ・ナデ。外面スス付着。内外面黒斑あり。	口径：(29.8)	①金雲母、石英、長石②にぶい黄橙色（10YR6/3）	縄文中期中葉
A	D-28	1	縄文土器 深鉢	平縁口縁。口縁部横位のナデ･ミガキ、胴部単節ＲＬ縄文を縦位･斜位施文。内面は口頸部横位のミガキ。胴部縦位のミガキ。外面上半スス、内面胴部下位にコゲ付着。	口径：20.1 底径：(9.1) 器高：(22.1)	①石英、長石、白色粒②にぶい褐色（7.5YR5/3）	縄文中期中葉
A	D-34	1	縄文土器 深鉢	推定４単位の波状口縁。環状突起に隆帯による渦巻文を貼付→縁辺にコイル状隆帯を貼付→環状突起間に小突起を貼付。胴部上位に放射状隆帯を貼付→半截竹管状工具凸面による単沈線で縦位・横位・斜位・渦巻状の線文を施文。内面は横位・斜位のナデ。	口径：(35.6) 器高：<20.0>	①石英、赤色粒、長石②橙（7.5YR7/6）	縄文中期中葉
A	D-34	2	縄文土器 深鉢	平縁口縁に４単位の把手が付される。把手は丸棒状工具による沈線・隆帯・円孔により飾られる。突起間の口唇部には連続する鋸歯状の突起が付される。４単位の把手からは刻みを有する隆帯が施される「Ｙ」字状の橋状把手が派生する。口縁部無文。体部は単節ＲＬ縄文施文後、横位･弧状･環状･渦巻き状の隆帯、橋状把手が付され、隆帯は刻み・交互する連続押圧により加飾される。内面横位ミガキ。	口径：29.8 器高：<31.0>	①角閃石、黒色粒、石英、チャート②橙（5YR6/6）	縄文中期中葉
A	D-34	3	縄文土器 深鉢	推定４単位の波状口縁。波頂部に有孔部をもつ橋状・メガネ状の把手を貼付し、横位に連繋。把手面には丸棒状工具による沈線を施文。頸部単節ＲＬ縄文を縦位施文→丸棒状工具による横位沈線を施文。内面は口頸部横位のナデ・ミガキ。外面スス付着。	—	①角閃石、石英、白色粒②灰褐色（5YR4/2）	縄文中期中葉
A	D-34	4	縄文土器 深鉢	胴部単節ＲＬ縄文を縦位・斜位施文→屈曲部に横位・蛇行隆帯を貼付。内面は横位のナデ。底部に穿孔あり。内面にコゲ付着。	底径：10.2 器高：<20.3>	①石英、長石、白色粒②橙（7.5YR6/6）	縄文中期中葉
A	D-34	5	縄文土器 深鉢	単節ＲＬ縄文を斜位施文→胴部に２条４単位の縦位隆帯を貼付。内面斜位・横位のナデ。	底径：11.6 器高：<18.3>	①角閃石、石英②明褐（7.5YR5/6）	縄文中期中葉
A	D-34	6	縄文土器 深鉢	胴部にナデ。横位隆帯を貼付。内面は器面剥離。	底径：13.0 器高：<12.8>	①角閃石、石英、長石②橙（7.5YR6/6）	縄文中期中葉
A	D-34	7	縄文土器 深鉢	口縁部突起。３単位の橋状隆帯の下位に橋状の小隆帯を貼付→隆帯上面に半截竹管状工具による半隆起線を施文。口縁部内側に押捺隆帯貼付。突起側面と内側に透かし状の小孔。	—	①石英、角閃石、白色粒②にぶい黄橙（10YR6/4）	縄文中期中葉
A	D-38	1	縄文土器 深鉢	有孔部をもつ推定４単位の波状口縁。口縁部には隆帯による横位区画文を施文し、波頂部から隆帯がクランク状に伸びる。縦位区画文の下端には円環状突起を貼付→区画内に丸棒状工具による沈線で重三角文を施文し、三角文中央部には沈線と陰刻手法による三叉文を施文。隆帯の一部には同様の工具によるキザミ→沈線間に単節ＬＲ縄文を充填施文。内面は横位のナデ・ミガキ。外面スス付着。	口径：(21.8)	①石英、長石、白色粒②にぶい褐色（7.5YR5/4）	縄文中期中葉
A	D-38	2	縄文土器 深鉢	推定４単位の波状口縁。波頂部には縦長の橋状把手を貼付し、把手間は小波状をなす。口頸部隆帯による横位区画文を施文し、環状突起やコイル状突起を貼付→区画内に半截竹管状工具による平行沈線で弧状・渦巻状の文様を施文。胴部は口頸部と同様の手法で眼鏡状突起・コイル状突起を付した弧状の隆帯を横位に連繋→隆帯に沿って弧状の集合沈線文を施文し、弧状文間には一部に沈線手法と陰刻手法による三叉文を施文。内面は口頸部横位のミガキ、胴部縦位・斜位のミガキ。外面被熱。	口径：(27.0) 底径：(10.4) 器高：(38.4)	①角閃石、石英、黒色粒②明黄褐色（10YR6/6）	縄文中期中葉
A	D-38	3	縄文土器 深鉢	有孔部をもつ推定４単位の波状口縁。波頂部に大小の環状突起を貼付、口頸部には隆帯による横位区画文を施文→区画内に丸棒状工具による沈線で弧状の集合沈線文を施文し、隙間には三叉文を施文→隆帯部や三叉文部に２～４条の短沈線を施文。内面は横位のナデ・ミガキ。	口径：(42.8)	①角閃石、石英、白色粒②橙色（7.5YR6/6）	縄文中期中葉
A	D-38	4	縄文土器 深鉢	平縁口縁。口縁部下位に中空把手・先端部眼鏡状突起を貼付→口縁部と突起間に細隆帯による楕円形区画文→隆帯脇・把手面・区画内に半截竹管状工具による平行沈線を縦位施文。胴部中位・把手面には撚糸紋Ｌを縦位・斜位・横位施文→胴部中位に縦位隆帯を貼付。内面は横位のナデ。	口径：17.7 器高：<16.1>	①角閃石、石英、チャート、片岩②にぶい橙（7.5YR7/4）	縄文中期中葉
A	D-38	5	縄文土器 深鉢	平縁口縁。口縁部下位に中空把手・先端部眼鏡状突起を貼付→口縁部と突起間に細隆帯による楕円形区画文→隆帯脇・把手面・区画内に半截竹管状工具による平行沈線で縦位羽状文を施文。胴部中位・把手面には撚糸文Ｌを縦位・斜位・横位施文→胴部中位に縦位隆帯を貼付。内面は丁寧な横位のナデ。外面スス付着。	口径：16.8	①角閃石、石英、赤色粒、白色粒②にぶい黄橙色（10YR6/4）	縄文中期中葉
A	D-38	6	縄文土器 深鉢	口縁部に中空の円形把手を巡らせる→把手面に丸棒状工具による沈線を施文。頸部単節ＲＬ縄文を縦位・斜位施文→半截竹管状工具による横位の平行沈線を施文。内面は横位のミガキ。外面スス付着。	口径：(25.8)	①石英、長石、白色粒②明赤褐色（5YR5/6）	縄文中期中葉

Tab. 13　縄文時代出土遺物観察表（３）

法量の（ ）は推定値、＜ ＞は残存値。

区	遺構	№.	器　種	成・整 形 技 法の特徴	寸　法（cm）	①胎土　②色調	備　考
A	D-38	7	縄文土器 浅鉢	２単位の波状口縁もしくは正面に突起を想定。胴部張り出し部に横位隆帯を貼付→側面を波状に削る→ナデ。外面内面ともにミガキ→外面口縁部から隆帯上面まで赤彩を施す。	口径：(19.2) 器高：<13.4>	①金雲母、石英、長石②にぶい黄橙（10YR6/3）	縄文中期中葉
A	D-44	1	縄文土器 深鉢	単節ＲＬ縄文を横位施文→半截竹管状工具による単列の角押文・複列の角押文で波状文・渦巻状の文様を施文。内面は横位のナデ。	器高：<9.6>	①石英、長石、白色粒②にぶい橙（7.5YR7/4）	縄文中期中葉
A	D-48	1	縄文土器 深鉢	平縁口縁。２単位の板状把手･眼鏡状突起を作出→口縁部上半を隆帯で横位･弧状に区画、胴部に小突起を持つ垂下隆帯を添付→無節Ｌ縄文を口縁部～胴部、突起・一部の隆帯上に充填→隆帯脇に先端がやや丸い尖頭状工具による有節沈線を施文。把手の一部を小波状に作出し、内面に把手の形状に即した隆帯を添付。内面は口縁部が横位、胴部が縦位ミガキ。焼成前穿孔。内面頸部にコゲ。	口径：(20.0) 器高：<29.7>	①角閃石、石英、赤色粒、白色粒②赤褐色（2.5YR4/6）	縄文中期中葉
A	D-48	2	縄文土器 深鉢	太い隆帯を蕨手状・逆Ｕ字状に貼付し、環状突起を加える。また、同様の隆帯による三本指状のモチ－フを配置。胴部や一部の隆帯上に単節ＬＲ縄文を充填。隆帯脇に先端がやや丸い尖頭状工具による深い沈線を、一部の沈線脇に同様の工具による三角押文を施文。内面は頸部が横位、胴部が縦位ミガキ。	器高：<21.6>	①金雲母、石英、黒色粒②明赤勝（5YR5/6）	縄文中期中葉
A	D-54	1	縄文土器 深鉢	胴部は隆帯による円文と懸垂文、縦位隆帯を貼付→円形区画内を刺突文で充填→隆帯に半截竹管状工具による半隆起線を沿わせる。	底径：(14.8) 器高：<20.6>	①石英、長石、白色粒②赤褐（5YR4/6）	縄文中期中葉
A	D-58	1	縄文土器 深鉢	２単位の波状口縁。正面には眼鏡状突起を上下２段に貼付。後面は渦巻状隆帯→隆帯脇に幅広工具による押引文を沿わせる。胴部上位に弧状隆帯、中位に蛇行隆帯を貼付→上記工具による押引文を隆帯に沿わせる。隆帯・押引文の間に半截竹管状工具凸面による単沈線で縦位・横位の波状文・線文を充填。	口径：22.9 器高：<27.1>	①金雲母、石英、長石、白色粒②橙 2.5YR7/6	縄文中期中葉
A	D-58	2	縄文土器 深鉢	胴部に無節Ｌ縄文を斜位施文→胴部上位に半截竹管状工具による横位沈線→縦位キザミを施文。	底径：(9.0) 器高：<24.4>	①石英、白色粒②赤褐（5YR4/6）	縄文中期中葉
A	D-58	3	縄文土器 深鉢	口縁部は突起が想定され、残存部は内側に屈曲。口縁部下に鍔状の突帯・蛇行隆帯→隆帯上面に半截竹管上工具でキザミ。胴部上位は突帯の付け根から隆帯を弧状に貼付→半截竹管状工具による平行沈線、上記工具の凸面による複列沈線の円文→沈線間に三叉文や円形を施文。	器高：<11.0>	①角閃石、石製、チャ－ト、長石②明褐（7.5YR5/6）	縄文中期中葉
A	D-61	1	縄文土器 深鉢	推定波状口縁。口縁部は眼鏡状突起・コイル状突起を貼付→突起間を斜位隆帯によって連繋→半截竹管状工具による半隆起線を隆帯に沿わせる→隆帯・半隆起線間を円文・三叉文で充填。胴部下位は縦位・弧状隆帯を貼付→眼鏡状突起を貼付→上記工具による半隆起線を隆帯に沿わせる→隆帯・半隆起線間に円文・三叉文を充填。内面は横位のナデ。	口径：(29.0) 底径：(12.4) 器高：<24.4>	①石英、長石、白色粒②橙（7.5YR6/6）	縄文中期中葉
A	D-62	1	縄文土器 小型深鉢	平縁口縁。縁辺に隆帯を貼付。胴部中位に隆帯による渦巻文･波状文を貼付。外面・内面ともに横位のナデ。	口径：(13.5) 底径：(9.6) 器高：7.5	①角閃石、石英、長石②にぶい橙（7.5YR6/4）	縄文中期中葉
A	D-65	1	石器 凹石	楕円形。表･裏面に摩耗痕･凹穴が認められ両側縁に敲･磨痕あり。磨→凹。表面上部に煤付着。上部欠損。長さ：[14.2] cm、幅：7.9 cm、厚さ：5.0 cm、重さ：796.1g。	－	石材：安山岩	
A	D-65	2	石器 石皿	大形扁平礫を素材とする。皿面は使用により平滑している。長さ：23.2 cm、幅：20.4 cm、厚さ：4.4 cm、重さ：2,720.0g。	－	石材：安山岩	
A	D-86	1	石器 石皿	皿面は使用により浅く窪み部分的に小さな敲打痕が認められ表面の一部や裏面には敲打集中による凹穴が多数あり。下半部欠損。長さ:[19.5] cm､幅:[34.4] cm、厚さ：7.3 cm、重さ：5,410g。	－	石材：安山岩	
A	D-90	1	石器 打製石斧	撥形。割礫を素材とし両側縁を直接打撃による半両面加工が施される。刃部の一部に微細剥離痕・摩耗痕あり。長さ：11.8 cm、幅：5.6 cm、厚さ：1.5 cm、重さ：124.2g。	－	石材：頁岩	
A	D-93	1	縄文土器 小型深鉢	胴部中位に渦巻状隆帯を貼付→丸棒状工具による単沈線で渦巻文を施文→半截竹管状工具による複列平行沈線を横位施文。内面は横位のナデ。	底径：5.6 器高：<8.7>	①角閃石、石英②明褐（7.5YR5/6）	縄文中期中葉
A	D-96	1	縄文土器 浅鉢	平縁口縁。口縁部から胴部上位は横位のミガキ。胴部中位以下は斜位のミガキ。内面も同様。	口径：(21.1) 底径：6.6 器高：11.1	①石英・長石・片岩②にぶい黄橙（10YR6/4）	縄文中期中葉
A	D-104	1	縄文土器 深鉢	推定２単位波状口縁。中空把手・環状突起を貼付→把手側面に縦位隆帯を貼付→隆帯上面に無節Ｌを回転施文。胴部に無節Ｌ縄文を横位・斜位回転施文→頸部に無節Ｌ縄文の側面圧痕文を施文→２～３条の側面圧痕文を施文。内面は横位のナデ。	口径：(19.2) 器高：<13.7>	①石英、赤色粒、長石②灰褐（7.5YR4/2）	縄文中期中葉
A	D-110	1	土製品 円盤	底部片。外面ミガキ、内面ケズリ･ナデ。縁辺部全面研磨。長さ:4.5cm　幅:4.9cm　厚さ：1.5cm　重さ：40.37g。	－	①雲母、石英、長石②にぶい黄褐色（10YR5/3）	縄文中期中葉
A	D-119	1	縄文土器 浅鉢	推定４単位の波状口縁。口縁部下と胴部中位に稜を持つ。外面・内面ともにミガキ→口縁部外面と口縁部内面から胴部稜まで赤彩を施す。口縁部外面にスス。	口径：(33.8) 底径：(7.4) 器高：13.9	①角閃石、石英、長石②にぶい赤褐（5YR4/3）	縄文中期中葉
A	D-123	1	縄文土器 深鉢	主突起に蛇行隆帯を貼付→先端は渦巻状になる→半截竹管状工具による平行沈線→上記工具先端による刺突文・キザミ＜蓮華文＞を施文。口縁部に隆帯による三角形区画→区画内に平行沈線→刺突文・キザミ＜蓮華文＞を充填。	口径：(20.4) 底径：－ 器高：<13.0>	①石英、長石、赤色粒②	縄文中期中葉
A	D-128	1	縄文土器 深鉢	平縁口縁。口縁部に推定１単位のなだらかな有孔山形突起を貼付。口頸部には隆帯による横位区画文を施文し、口縁部隆帯から「し」の字状に垂下する推定５単位のメガネ状・環状突起を配する→区画内に丸棒状工具による沈線でコの字状文・対向Ｕ字文・弧状文を施文。弧状文内側には同様の工具の陰刻手法による三叉文や刺突文が施文される→隆帯上面やコの字状文内にはキザミを施す。胴部は隆帯による渦巻文を施文し、渦巻文先端に眼鏡状突起を貼付→口頸部と同様の手法で横位区画文・弧状文・三叉文・刺突文を施文し、隆帯上面にキザミを施す。内面は口頸部横位のミガキ、胴部縦位のナデ。外面被熱。	口径：(37.2)	①石英、長石、「白色粒②にぶい橙色（7.5YR7/4）	縄文中期中葉
A	D-129	1	縄文土器 深鉢	胴部上位は隆帯による横位・縦位区画→渦巻状の突起を貼付。隆帯による区画内に半截竹管状工具凸面による単沈線で波状文・線文を充填。胴部中位以下は無文。内面は横位・縦位ナデ。内面胴部中位以下にコゲ付着。	底径：(9.7) 器高：<26.8>	①角閃石、石英、チャ－ト、長石②にぶい黄橙（10YR6/4）	縄文中期中葉
A	D-129	2	縄文土器 深鉢	波状口縁。口縁部円環状突起を付した隆帯による三角形基調の区画文を施文。胴部は横位隆帯を貼付→隆帯脇に半截竹管状工具凸面で幅広の角押文を施文し、一部の区画内には凹面で縦位の平行沈線を充填施文→角押文脇に同様の工具で蓮華文を施文。内面は口頸部横位のミガキ､胴部斜位のナデ･ミガキ。外面被熱し、薄いスス付着。	口径：(29.5)	①石英、長石、白色粒②明赤褐色（5YR5/6）	縄文中期中葉
A	D-148	1	土製品 円盤	底部片。外面ナデ、内面ナデ。縁辺部粗く研磨。長さ：3.6cm、幅：3.8cm、厚さ：1.3cm、重さ：20.46g。	－	①石英、長石、白色粒②にぶい黄橙色（10YR6/3）	
A	D-152	1	石器 打製石斧	短冊形。割礫を素材とし両側縁を直接打撃による両面加工が施される。刃部に微細剥離痕あり。長さ：14.4 cm、幅：5.0 cm、厚さ：2.7 cm、重さ：211.4g。	－	石材：頁岩	

Tab. 14　縄文時代出土遺物観察表（４）

法量の（ ）は推定値、〈 〉は残存値。

区	遺構	№.	器　種	成・整 形 技 法の特徴	寸　法（cm）	①胎土　②色調	備　考
A	D-155	1	縄文土器 深鉢	胴部下位に４単位の縦位隆帯を貼付→隆帯脇に半截竹管状工具による半隆起線を沿わせる→半隆起線上面にキザミ。区画内に丸棒状工具による懸垂文と楕円形区画文を施文→単節ＬＲ縄文を縦位施文。内面は横位のナデ。	底径：9.0 器高：〈10.0〉	①石英、長石②にぶい褐（7.5YR6/3）	縄文中期中葉
A	D-169	1	縄文土器 深鉢	胴部に横位のナデ、隆帯貼付→隆帯脇に半截竹管状工具による平行沈線を施文。内面は横位のナデ。	—	①金雲母、石英、白色粒②にぶい黄橙色（10YR5/3）	縄文中期中葉
A	D-169	2	縄文土器 深鉢	胴部弧状の隆帯を貼付→隆帯脇に半截竹管状工具による平行沈線を施文し、入り組み平行沈線を充填施文。内面は横位のナデ。	—	①石英、長石、片岩②にぶい黄橙色（10YR5/4）	縄文中期中葉
A	D-169	3	縄文土器 深鉢	胴部に竹管状工具による爪形文、ペン先状工具による三角押文を横位に施文。内面は縦位のナデ。		①角閃石、石英、長石、片岩②にぶい黄橙色（10YR7/4）	縄文中期中葉
A	D-171	1	縄文土器 深鉢	波状口縁。口縁部に羽状隆帯→棒状貼付→隆帯を涙型状に貼付→半截竹管状工具によるキザミ。区画内に上記工具による平行沈線→上記工具先端部による刺突・キザミ〈蓮華文〉を充填。内面は横位のナデ。	器高：〈13.9〉	①石英、長石、チャート②明赤褐（5YR5/6）	縄文中期中葉
A	D-183	1	縄文土器 深鉢	平縁口縁。口縁部下に推定４単位の棒状貼付。胴部は斜位のケズリ→ナデ。内面は口縁部から胴部上位は横位、胴部中位以下は縦位のナデ。外面スス付着。被熱痕あり。	口径：(22.2) 器高：(22.3)	①金雲母・石英・長石②にぶい橙（7.5YR4/6）	縄文中期中葉
A	D-191	1	石器 石鏃	凹基無茎。片脚欠損。長さ:[3.6] cm、幅:1.9 cm、厚さ:0.66 cm、重さ:3.04g		石材：ガラス質安山岩	
A	D-192	1	縄文土器 深鉢	推定山型状の環状突起。突起の孔周縁に細隆帯を貼付。突起下部に横位隆帯を貼付→隆帯上面を押捺。押捺隆帯の下位に単節ＲＬを縦位施文。	器高：〈8.1〉	①角閃石、石英、長石②にぶい褐（7.5YR6/3）	縄文中期中葉
A	D-192	2	縄文土器 深鉢	平縁口縁。口縁部横位の押捺隆帯を貼付。胴部０段多条Ｒないし前々段多条ＲＬ縄文を縦位・斜位施文。内面は丁寧な横位のミガキ。外面層状の濃いスス付着。	口径：(18.2)	①角閃石、石英、長石②黄灰色（2.5Y4/1）	縄文中期中葉
A	D-193	1	縄文土器 深鉢	胴部に単節ＲＬ縄文を斜位施文。口縁部に横位隆帯を貼付→隆帯下位に半截竹管状工具による縦位キザミを施文。内面は口縁部横位のナデ、胴部縦位ナデ。	口径：(12.9) 器高：〈21.1〉	①石英、チャート、長石②明赤褐（5YR5/6）	縄文中期中葉
A	D-193	2	縄文土器 深鉢	波状口縁。口縁部５本歯の櫛歯状工具による横位波状文を施文。内面は横位のミガキ。		①石英、長石、白色粒②明赤褐色（2.5YR5/6）	縄文前期後葉か
A	D-193	3	縄文土器 深鉢	底部付近まで半截竹管状工具による半隆起線を縦位・横位施文→半隆起線上面にキザミ。割れ口付近に横位の沈線が残存する。内面は横位のナデ。	器高：〈2.4〉	①灰色粒、黒色粒、石英、長石、白色粒②にぶい褐（7.5YR6/3）	縄文中期中葉
A	D-194	1	土製品 円盤	単節ＲＬ縄文を縦位施文→半截竹管状工具の凸面による角押文。内面は横位のナデ。縁辺部粗く研磨。内面に炭化物付着。長さ:4.5、幅:4.8、厚さ:1.0、重さ：26.86g		①石英、長石②灰（5YR4/1）	縄文中期中葉
A	D-194	2	縄文土器 深鉢	波状口縁。口唇部上面に単沈線を施文。半截竹管状工具による平行沈線で三角文を施文→内側に三叉文を充填。内面は丁寧なミガキ。	器高：〈4.1〉	①角閃石、長石、白色粒②明赤褐（5YR5/6）	縄文中期中葉
A	D-194	3	石器 打製石斧	撥形。大形剥片を素材とし周縁を直接打撃による両面加工が施される。刃部に微細剥離痕・摩耗痕あり。長さ：14.5 cm、幅：9.4 cm、厚さ：3.6 cm、重さ：549.2g。		石材：黒色安山岩	
A	D-195	1	縄文土器 深鉢	口縁部に橋状把手・突起を貼付→橋状把手・突起の裏面に赤彩。内面は横位のナデ。	器高：〈7.8〉	①金雲母、石英、長石②にぶい橙（7.5YR7/4）	縄文中期中葉
A	D-195	2	縄文土器 深鉢	胴下部縦位・斜位隆帯を貼付→半截竹管状工具による複列平行沈線で隆帯間に線文・波状文を充填。内面は横位のナデ。炭化状の厚いコゲが付着。	底径：(9.6) 器高：〈7.4〉	①石英、長石、白色粒②にぶい黄（2.5YR6/3）	縄文中期中葉
A	D-195	3	縄文土器 浅鉢	平縁口縁。隆帯を貼付して肥厚する。外面・内面ともにミガキ。	器高：〈6.3〉	①石英、チャート、長石、片岩 ②にぶい赤褐（5YR5/4）	縄文中期中葉
A	D-198	1	縄文土器 深鉢	平縁口縁。口縁部に２単位の把手を貼付（橋状・顔状）→隆帯上面に半截竹管状工具によるキザミ。胴部は単節ＬＲ縄文を縦位・斜位施文、無文部は横・縦位のナデ・ケズリ→上記工具による平行沈線で長方形の区画文を施文し、区画内には円文・縦位波状文・蓮華文を施文。内面は横位のナデ。外面スス、内面胴部下位にコゲ、外面底部に粘土付着。	口径：15.8 底径：(10.0) 器高：31.9	①石英、片岩②にぶい黄褐色（10YR5/3）	縄文中期中葉
A	D-198	2	縄文土器 深鉢	口縁部主突起は横位隆帯と円文を交互に貼付。副突起は渦巻状突起を貼付。突起間を斜位隆帯で連繋。突起下位に渦巻状隆帯を貼付→隆帯に半截竹管状工具による半隆起線を沿わせる→内側に円文を充填。胴部に楕円形隆帯を貼付→半隆起線を沿わせる。渦巻状隆帯・楕円形隆帯との間には丸棒状工具による単沈線で三角文を施文→円文・三叉文を充填。内面は横位のナデ。	口径：(46.0) 器高：〈19.9〉	①角閃石、石英、長石、白色粒②明赤褐（5YR5/8）	縄文中期中葉
A	D-198	3	縄文土器 深鉢	弧状・縦位隆帯を貼付→半截竹管状工具による半隆起線を隆帯に沿わせる→隆帯・半隆起線間を丸棒状工具による三叉文・円文・線文で充填。内面は横位のナデ。	器高：〈18.1〉	①角閃石、石英、長石②にぶい赤褐（5YR5/4）	縄文中期中葉
A	D-198	4	縄文土器 深鉢	胴下部～底部。外面・内面ともにナデ。	底径：9.1 器高：〈3.5〉	①石英、チャート、片岩②にぶい橙（7.5YR6/4）	縄文中期中葉
A	D-198	5	土製品 不明	外面・内面ともにナデ→ミガキ。被熱による変色部分あり。	最大幅：4.4 最大長：7.9	①石英、赤色粒、長石、白色粒②橙（7.5YR6/6）	縄文中期中葉
A	D-212	1	縄文土器 浅鉢	外面・内面ともに丁寧なミガキ。外面口縁部・内面上位に赤彩。	口径：(57.0) 器高：〈15.1〉	①石英、チャート、長石②にぶい赤褐（5YR5/4）	縄文中期中葉
A	D-219	1	縄文土器 深鉢	平縁口縁。口縁部横位隆帯・中空把手を貼付→横位のミガキ、把手面に竹管状工具によるキザミ。胴部隆帯によるアメーバ状隆帯・橋状把手を貼付→把手面・胴部に単節ＲＬ縄文を縦位・斜位施文。内面は口頸部横位のミガキ、胴部斜位のミガキ。外面被熱。	口径：21.2 底径：(9.9) 器高：36.3	①黒色粒、石英、長石、白色粒②明赤褐色（2.5YR5/6）	縄文中期中葉
A	D-228	1	縄文土器 深鉢	胴部破片。外面は横位・縦位・蛇行隆帯を貼付→半截竹管状工具による平行沈線を隆帯に沿わせる。隆帯上面から縦位の平行沈線を施文。	器高：〈12.1〉	①角閃石、石英、白色粒②にぶい黄褐（10YR5/4）	縄文中期中葉
A	D-228	2	縄文土器 浅鉢	平縁口縁。口縁部周縁に隆帯を貼付。胴部上位は口縁部から幅広の縦位隆帯が派生→胴部中位の横位隆帯に連繋→外面に赤彩を施す。	器高：〈6.6〉	①石英、チャート、白色粒②灰黄褐（10YR4/2）	縄文中期中葉
A	D-228	3	石器 磨石	楕円形。表・裏面に摩耗痕あり。長さ：6.7 cm、幅：6.2 cm、厚さ：3.6 cm、重さ：229.2g。		石材：安山岩	
A	D-228	4	石器 台石	扁平礫の表･裏面に敲打痕が認められる。全体に摩滅している。長さ:14.7 cm、幅：16.7 cm、厚さ：3.7 cm、重さ：1,070.9g。		石材：安山岩	
A	D-230	1	縄文土器 深鉢	平縁口縁。頸部に丸棒状工具による刺突文。胴部上位・中位に２重の環状隆帯を貼付→環状隆帯から上位・下位に伸びる蛇行隆帯がそれぞれ頸部・胴部の横位隆帯に連繋。蛇行隆帯を部分的に肥大させる→隆帯上面に半截竹管状工具によるキザミを施文。隆帯両脇から丸棒状工具による短沈線を入れ子状に施文。胴部上位の隆帯間に７条の縦位平行沈線を充填。単節ＲＬ縄文を斜位・横位施文。	口径：(24.2) 器高：〈22.1〉	①角閃石、石英、白色粒②明赤褐（5YR4/8）	縄文中期中葉
A	D-230	2	縄文土器 浅鉢	平縁口縁。隆帯による肥厚。外面・内面ともに横位のナデ。	器高：〈8.9〉	①角閃石、石英、白色粒②橙（7.5YR6/6）	縄文中期中葉

Tab. 15　縄文時代出土遺物観察表（５）

法量の（ ）は推定値、〈 〉は残存値。

区	遺構	№.	器　種	成・整 形 技 法の特徴	寸　法（cm）	①胎土　②色調	備　考
A	D-240	1	縄文土器 深鉢	平縁口縁に４単位の扇状把手が付されるものと想定される。口縁部文様帯は把手より弧状に垂下する刻みを有する隆帯により区画され、区画内は半截竹管状工具による横位・斜位平行沈線により加飾される。体部文様帯は横位隆帯により３段に区画され、上位・下位区画は弧状隆帯により楕円形状に区画される。中位区画は丸棒状工具による横位波状沈線が施される。体部下位は隆帯による下位楕円形区画に接続する棒状貼付文より派生する縦位･蛇行垂下隆帯が付される。縦位隆帯には連続する指頭圧痕が施される。内面はヨコナデ後口縁部下に横位ミガキが施される。	口径：33.0 器高：〈33.6〉	①雲母、角閃石、石英②にぶい赤褐（5YR5/4）	縄文中期中葉
A	D-246	1	石器 打製石斧	撥形。礫皮をもつ剥片を素材とし両側縁を直接打撃による両面加工が施される。刃部に摩耗痕あり。長さ：13.7 cm、幅：5.6 cm、厚さ：2.8 cm、重さ：158.9g。		石材：頁岩	
A	P-231	1	石器 石皿	皿面は使用により擂鉢状に浅く窪み縁部寄りに敲打痕が認められ表面の一部や裏面には敲打集中による凹穴が多数あり。皿面の一部に煤付着。下半部欠損。長さ：［21.0］cm、幅：［30.3］cm、厚さ：8.5 cm、重さ：4,690g。	—	石材：安山岩	
A	遺構外	1	縄文土器 深鉢	平縁口縁。正面に山形状の主突起→周縁に幅広工具によるキザミ→外面に丸棒状工具による単沈線で円文を施文。突起内面に同工具で単沈線による山形文・線文を施文。突起から派生する渦巻状隆帯と口縁部から派生する斜位隆帯が先端で連繋→隆帯間を丸棒状工具による三角文・渦巻文で充填。隆帯上面の一部をおっぺし、刺突文・キザミを施文。胴部は単節ＲＬを斜位施文。内面は横位のナデ。	口径：15.6 器高：〈20.7〉	①石英、チャート、長石、片岩②橙（7.5YR6/6）	縄文中期中葉
A	遺構外	2	縄文土器 深鉢	波状口縁もしくは正面に突起を想定。外面・内面ともに口縁部～胴部上位は横位のナデ、胴部中位以下は斜位ナデ。	口径：（14.1） 底径：（7.4） 器高：〈24.3〉	①角閃石、石英、長石、白色粒②にぶい褐（7.5YR5/4）	縄文中期中葉
A	遺構外	3	縄文土器 深鉢	胴部下端横位のケズリ・ナデ。底部網代痕。内面はナデ。Ａ区表土。	底径：（14.8）	①雲母、角閃石、長石②にぶい黄褐色（10YR5/4）	縄文中期中葉
A	遺構外	4	縄文土器 深鉢	胴部単節ＲＬ縄文を縦位施文→断面三角形の縦位隆帯を貼付。内面は横位のミガキ。Ａ区表土。	—	①石英、長石、白色粒②にぶい黄色（2.5Y6/3）	縄文中期後葉
A	遺構外	5	土製品 円盤	胴部片。外面ケズリ→ナデ。内面は丁寧なミガキ。長さ:4.2cm、幅:4.6cm、厚さ：1.0cm、重さ：29.35g。Ａ区表土。	—	①石英、多量の片岩②褐色（7.5YR4/4）	縄文中期中葉
A	遺構外	6	縄文土器 深鉢	波状口縁。口縁部横位の隆帯貼付→横位のミガキ。胴部撚糸文Ｌを横位施文。内面は横位のミガキ。Ａ区遺物包含層。	—	①石英、長石、白色粒②黄褐色（2.5Y5/3）	縄文中期
A	遺構外	7	縄文土器 深鉢	胴部縦位の条線を施文→ボタン状貼付文を施文。内面は剥落。Ａ区遺物包含層。	—	①石英、チャート、長石②にぶい黄橙色（10YR7/4）	縄文前期後葉
A	遺構外	8	縄文土器 深鉢	胴部横位の細隆帯を貼付→０段多条Ｌ縄文を縦位・斜位施文、１段ＬとＲの撚糸側面圧痕文を羽状に施文。内面は斜位のナデ。Ａ区表採。	—	①繊維、石英、長石②にぶい黄色（2.5Y6/3）	縄文前期初頭
A	遺構外	9	縄文土器 深鉢	胴部単節ＲＬ縄文を縦位・斜位施文。内面はナデ。Ａ区遺構確認面。	—	①繊維、角閃石、長石②黄褐色（10YRY5/6）	縄文前期初頭
A	遺構外	10	縄文土器 深鉢	波状口縁。口縁部に単節ＬＲ縄文を斜位施文。内面は横位のナデ。外面ス付着。	—	①繊維、石英、長石②暗灰褐色（2.5Y4/2）	縄文前期初頭
A	遺構外	11	縄文土器 深鉢	胴部に単節ＬＲ縄文を縦位施文。内面は斜位のナデ。	—	①繊維、角閃石、石英②橙色（7.5YR7/6）	縄文前期初頭
A	遺構外	12	縄文土器 深鉢	胴部に単節ＬＲ縄文を縦位施文か。内面は横・斜位のナデ。	—	①多量の繊維、石英、白色粒②にぶい黄色（2.5Y6/4）	縄文前期初頭
A	遺構外	13	縄文土器 深鉢	胴部微隆起線文を施文→単節ＬＲ・ＲＬ縄文を横位施文、１段ＬとＲの撚糸側面圧痕文を施文か。内面は斜位のナデ。	—	①繊維、石英、白色粒②灰色（5Y4/1）	縄文前期初頭
A	遺構外	14	縄文土器 深鉢	単節ＲＬ縄文を縦位・斜位施文。内面は横位のナデ。	器高：〈5.3〉	①繊維、角閃石、白色粒②にぶい黄橙（10YR7/4）	縄文中期中葉
A	遺構外	15	石器 打製石斧	短冊形。礫皮をもつ剥片を素材とし周縁を直接打撃による両面加工が施される。刃部に微細剥離痕あり。長さ：11.0 cm、幅：3.4 cm、厚さ：2.1 cm、重さ：92.1g。	—	石材：頁岩	
B	遺構外	16	石器 打製石斧	分銅形。割礫を素材とし周縁を直接打撃による両面加工が施される。両側縁の中央は剥離・敲打による抉入部あり。長さ：9.6 cm、幅：8.0 cm、厚さ：2.2 cm、重さ：138.3g。	—	石材：頁岩	
A	遺構外	17	石器 石皿	皿面は使用により擂鉢状に深く窪み中央は人為的に穿孔されている。表面の一部や裏面には敲打集中による凹穴が多数あり。全体に成形痕が顕著。上部に煤付着。中央付近で折損している。長さ:45.1 cm、幅:21.4 cm、厚さ:10.3 cm、重さ：7,300g。	—	石材：安山岩	
A	遺構外	18	石器 磨製石斧	定格式。研磨による丁寧な加工が施される。刃部に小さな刃こぼれあり。基部欠損。長さ：［11.3］cm、幅：6.1 cm、厚さ：2.5 cm、重さ：301.1g。	—	石材：蛇紋岩	

Tab. 16　奈良・平安時代出土遺物観察表（１）

法量の（ ）は推定値、〈 〉は残存値。

区	遺構	№.	器　種	成・整 形 技 法の特徴	寸　法（cm）	①胎土　②焼成　③色調	備　考
B	H-1	1	土師器 坏	外面：口縁部ヨコナデ、体部下位から底部までヘラケズリ。ヨコナデとヘラケズリの間に指頭圧痕が残る。 内面：ヨコナデ	口径：12.3 器高：4.3	①石英・角閃石・白色粒 ②良好　③橙（Hue5YR6/6）	８世紀第３四半期
B	H-1	2	銅製品 丸鞆	正面から裏面に向かって台形状を呈する。正面には長方形の透かしがあき、裏面には３か所に突起が付く。	縦幅：1.8　横幅：2.6 厚さ:0.1　重さ:5.51g		カマド内出土
B	H-2	1	土師器 坏	外面：口縁部ヨコナデ、体部下位から底部までヘラケズリ。ヨコナデとヘラケズリの間は指頭圧痕が残る。 内面：ヨコナデ。	口径：12.2 器高：3.4	①石英・角閃石・白色粒　②良好　③橙（Hue15YR6/6）	８世紀第３四半期
B	H-2	2	土師器 坏	外面：口縁部ヨコナデ、体部下位から底部までヘラケズリ。ヨコナデとヘラケズリの間に指頭圧痕が残る。 内面：ヨコナデ。	口径：12.4 器高：3.2	①石英・角閃石・白色粒　②良好　③橙 Hue（15YR6/8）	８世紀第３四半期
B	H-2	3	須恵器 坏	外面：ロクロ調整。底部回転糸切り→手持ちヘラケズリ。 内面：ロクロナデ。	口径：13.2 底径：6.8 器高：4.0	①石英・黒色粒・白色粒 ②良好・還元炎焼成 ③灰白（Hue5YR7/1）	８世紀第３四半期
B	H-2	4	須恵器 坏	外面：ロクロ調整。底面回転糸切り→回転ヘラケズリ。 内面：ロクロナデ。	口径：13.3 底径：6.7 器高：3.6	①白色針状物質・長石・石英　②良好・還元炎焼成 ③灰（Hue5YR6/1）	南比企産須恵器坏
B	H-2	5	須恵器 蓋	外面：天井部回転ヘラケズリ、口縁部ロクロナデ。 内面：ロクロナデ。	口径：15.6 器高：3.7 つまみ：3.3	①粗砂・長石・白色粒 ②良好・還元炎焼成 ③灰（Hue5YR6/1）	８世紀第３四半期

Tab.17　奈良・平安時代出土遺物観察表（２）

法量の（ ）は推定値、〈 〉は残存値。

区	遺構	No.	器　種	成・整 形 技 法の特徴	寸　法（cm）	①胎土　②焼成　③色調	備　考
B	H-2	6	土師器 甕	外面：口縁部ヨコナデ、胴部上位横方向のヘラケズリ。 内面：口縁部ヨコナデ、胴部上位横方向のヘラナデ。	口径：11.6 器高：〈3.7〉	①細砂・白色粒・黒色粒 ②良好③黄橙 (Hue10YR6/4)	８世紀第３四半期
B	H-2	7	土師器 甕	外面：口縁部ヨコナデ、頸部は棒状工具でナデ、胴部ヘラケズリ。内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	口径：(21.2) 器高：〈8.5〉	①細砂・石英・角閃石②良好③明褐色 (Hue5YR5/6)	８世紀第３四半期
B	H-2	8	須恵器 壺 転用硯	外面：ロクロ調整。高台貼り付け。底部に木葉痕あり。中央部に擦り面あり。内面：ロクロナデ。指頭圧痕多い。底部に灰釉あり。割口の角３点が当たりのため摩耗。	底径：〈3.8〉 器高：12.6	①石英・長石・白色粒 ②良好・還元炎焼成 ③灰 (Hue2.5YR4/1)	８世紀第３四半期
B	H-2	9	石製品 砥石	長辺の４面を使用。片面に貫通しない小孔あり。刃・針等の擦過痕跡あり。	長さ：〈6.8〉　幅：4.5 厚さ4.1　重さ：186g		
B	H-3	1	灰釉陶器 小瓶か	外面：ロクロ調整。高台貼り付け。灰釉あり。 内面：ロクロナデ。底部中央に灰釉。	底径：3.8 器高：〈3.1〉	①白色粒・黒色粒②良好・堅緻③灰白 (Hue2.5YR7/1)	９世紀後半以降 東濃産
B	H-3	2	鉄製品 鎌	全長：〈10.0〉　幅：3.5　厚さ：〈0.3〉　重さ：27.83g 鎌の刃先から中間の部位。カマド内から出土。			
A	H-4	1	須恵器 坏	外面：ロクロ調整。高台貼り付け。体部に墨書で「高」 内面：ロクロナデ。体部に墨書で「高」	口径：14.0 底径：6.8 器高：5.2	①片岩・角閃石・石英 ②やや不良・酸化炎焼成 ③灰黄 (Hue2.5YR7/2)	９世紀第３・４四半期
A	H-4	2	土師器 坏	外面：口縁部ヨコナデ、体部下位～底部までヘラケズリ、中位に墨書で則天文字「凰」 内面：ヨコナデ、体部下位に指頭圧痕あり。	口径：13.0 底径：5.2 器高：4.3	①長石・石英・角閃石 ②良③灰黄 (Hue2.5YR7/2)	９世紀第３四半期
A	H-4	4	土師器 甕	外面：口縁部～頸部ヨコナデ、頸部に指頭圧痕あり。胴部上位ヨコケズリ。内面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部上位小口状工具によるヨコナデ。	口径：〈20.0〉 器高：〈9.2〉	①粗砂・長石・角閃石　②良好　③橙 (Hue7.5YR7/6)	９世紀末～ 10 世紀初頭
A	H-5	1	須恵器 坏	外面：ロクロ調整。底部回転糸切り→部分的にヘラケズリ。体部に墨書で「石」か。内面：ロクロナデ。	口径：12.2 底径：5.2 器高：3.9	①角閃石・石英・長石 ②良好・酸化炎焼成 ③淡黄 (Hue2.5YR8/3)	８世紀第３四半期
A	H-5	2	須恵器 坏	外面：ロクロ調整、底部回転糸切り→高台貼り付け。 内面：ロクロナデ、底部に墨書があるが判読不可。	口径：〈12.6〉 底径：〈7.2〉 器高：(3.3)	①白色粒・石英 ②良好・酸化炎焼成 ③褐色 (Hue10YR4/1)	９世紀第４四半期
A	H-5	3	須恵器 高台付皿	外面：ロクロ調整。底部回転糸切り→高台貼り付け。 内面：ロクロナデ。墨書か。	口径：〈12.6〉 底径：〈7.2〉 器高：3.3	①黒色粒・白色粒 ②やや不良・酸化炎焼成 ③灰白 (Hue10YR8/1)	９世紀第４四半期
A	H-5	4	灰釉陶器 長頸瓶	外面：ロクロ調整。底部回転糸切り未調整。胴部下位に灰釉あり。内面：底部中央にケズリ残しの突起、灰釉あり。	底径：6.2 器高：(2.9)	①白色粒　②良好・堅緻 ③灰白 (Hue10YR8/1)	９世紀後半以降 美濃産
A	H-5	5	土師器 甕	外面：口縁部ヨコナデ、頸部ヘラケズリ→ナデ、胴部上位ヨコケズリ。頸部に指頭圧痕あり。　内面：口縁部から頸部までナデ、胴部上位小口状工具によるナデ	口径：〈18.6〉	①石英・赤色粒　②良好 ③にぶい橙 (Hue7.5YR6・4)	９世紀第４四半期
A	H-5	6	須恵器 大甕	外・内面：ロクロナデ。	口径：(41.8) 器高：〈19.0〉	①石英・長石・軽石②良好・還元炎焼成③暗灰 (HueN31)	９世紀後半
A	H-5	7	鉄製品 刀装具	先端部。内部に木片が残存する。長さ:〈4.8〉、幅:3.5 ～ 4.4、厚さ：2.6、重さ：21.8g			
A	H-6	1	土師器 坏	外面：口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。 内面：ヨコナデ。	口径：12.7 器高：3.7	①石英・角閃石　②良好 ③橙 (Hue5YR6/6)	８世紀第３四半期
A	H-6	3	土師器 坏	外面：口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。 内面:ヨコナデ→体部下位から上位へ縦方向のミガキ（暗文)。	口径：13.6 底径：7.3 器高：4.5	①長石・チャート・赤色粒・石英　②良好 ③橙 (Hue5YR7/6)	暗文坏 ８世紀後半か
A	H-6	4	須恵器 坏	外面：ロクロ調整、体部回転ヘラ切り→回転ヘラケズリ。 内面：ロクロナデ。	口径：13.5 底径：7.4 器高：3.5	①白色粒・長石 ②良好・還元炎焼成 ③灰白 (Hue5YR7/2)	８世紀第３四半期
A	H-6	7	須恵器 短頸壺	外面：ロクロ調整、胴部最大径の位置に単沈線、高台貼り付け。内面：ロクロナデ、胴部下位に指頭圧痕あり。	口径：〈10.1〉 底径：13.4 器高：〈11.2〉	①白色粒・長石・片岩・石英・角閃石②良好・還元炎焼成③灰白 (Hue2.5YR8/1)	８世紀第２・３四半期
B	T-1	1	土師器 坏	外面：口縁部ヨコナデ。体部ナデ・指頭圧痕あり。底部ヘラケズリ。内面：口縁部から体部ヨコナデ。	口径：〈13.0〉 底径：〈7.0〉器高：3.1	①石英・角閃石　②良好 ③にぶい橙 (Hue7.5YR6/4)	９世紀前半
B	T-1	2	須恵器 坏	外面：ロクロ調整。底部回転糸切り未調整。煤付着。 内面：ロクロナデ。底部中央に煤付着。	口径：- 底径：5.8 器高：(2.3)	①石英・片岩・黒色粒 ②良好・酸化炎焼成 ③黒褐 (Hue7.5YR3/1)	９世紀前葉
B	T-1	3	須恵器 坏	外面：ロクロ調整。底部回転糸切り未調整。部分的に鍛冶滓付着。内面：ロクロナデ。部分的に煤と鍛冶滓が付着。	底径：〈6.2〉 器高：(3.1)	①石英・片岩・白色粒 ②やや不良・還元炎焼成 ③灰白 (Hue2.5YR7/1)	９世紀前葉
B	T-1	4	須恵器 碗	外面：ロクロ調整。底部回転糸切り→高台貼り付け。鍛冶滓がごく少量付着。　内面:ロクロナデ。部分的に鍛冶滓が付着。	底径：8.0 器高：(3.0)	①石英・片岩・黒色粒 ②良好・還元炎焼成 ③灰黄 (Hue2.5YR7/2)	９世紀前葉
B	T-1	5	土製品 羽口	先端に鍛冶滓が付着し、1.0 ～ 4.5 cm付近まで高温により黒色化する。端部は平坦で熱による変色はほとんどない。先端部は平坦で熱による変色ほぼなし。	全長：9.7 幅：7.5 通気孔径：1.8 × 1.9	①石英・角閃石・白色粒・黒色粒　②良好・酸化炎焼成　③灰白 (Hue2.5YR)	北西遺物集中範囲から出土
B	T-1	6	土製品 羽口	外面にスサ状の植物の圧痕とナデ痕跡あり。先端に鍛冶滓が付着し、先端から 1.5 ～ 2.8 cm付近まで高温により黒色化する。端部は平坦で熱による変色はほとんどない。	全長：8.2 幅：7.8 通気孔径：2.25 × 2.3	①石英・角閃石・白色粒・黒色粒　②良好・酸化炎焼成　③灰白 (Hue8.2YR)	北西遺物集中範囲から出土
B	T-1	7	椀形鍛冶滓（大）	平面不整形。上面はやや皿状に窪む。上面には酸化土砂が付着。側面は上手側一部及び下手側のみ残存し他側面は破面である。上手側側面に木炭痕。下面は緩い椀状。	長軸：13.1 短軸：10.5 厚さ：5.0 重さ：602.0g		北西遺物集中範囲から出土
B	T-1	8	椀形鍛冶滓（中）	平面円形。上面は皿状に窪むが、中央破面。一部に鉄塊系遺物付着。側面はほぼ完形。下面は強い椀状。	長軸：9.3 短軸：8.9 厚さ：3.4 重さ：296.5g		
B	T-1	9	椀形鍛冶滓（小）	平面不整長楕円形。上面は中央やや窪むがほぼ平坦。部分的に銹化。側面は左側側面を除き完形。下面は緩い椀形。	長軸：9.0 短軸：7.8 厚さ：2.1 重さ：130.1g		
B	T-1	10	椀形鍛冶滓（極小）	平面方形。上面は中央やや窪むが概ね平坦。鍛造剥片、炭化材及び酸化土砂の付着が認められる。側面は右側側面以外完形。下面は緩い椀形。	長軸：6.7 短軸：6.3 厚さ：1.3 重さ：78.4g		
B	T-1	11	鉄製品 不明	二又に分かれる端部が湾曲し、先端は欠損。	長さ:5.2 幅：2.1 厚さ：0.6 重さ：22.5g		北側上層から出土。
B	T-1	12	鉄製品 角釘	先端部欠損。	長さ:4.4 幅：0.9 厚さ：0.8 重さ：5.0g		Ｄ２上面の遺物集中範囲から出土。

Tab. 18　石器一覧表（1）

区	遺構名	石鏃	石錐	石匙	槍石	Sc	RF	打斧	礫器	三錐	剥片	石核	原石	磨石	凹石	石皿	部磨	敲石	台石	砥石	石棒	棒状	多孔	磨斧	扁平	礫片	破片	計	焼礫	砕片	自然
A	J-2	1		1		11	15	11			103			4		2						1				1		150		12	3
A	J-3					9	6	8			68		1	2					1									95			
A	J-4	2		2		24	13	12	1		183		1	6						2								246		10	
A	J-5					3	1				20					1												25			
A	D-18					1	2				2			1														6			
A	D-25					1					10																	11			
A	D-27										2																	2			
A	D-28						1	1			7											1						10		4	
A	D-29						2	1			1																	4		1	
A	D-30										3						1											4			
A	D-31					3	2	1			35						1											42			
A	D-32					1	3				9																	13	5		
A	D-34						1	1			5			2	1													10		8	
A	D-37					1	2	1			12																	16			
A	D-38					1	2	3			10			1	3				3	3								26	2	9	
A	D-40	1					2	2			17			1														23		7	
A	D-41					1	1	1			7				1						1							12			
A	D-42										1																	1			
A	D-43							2			2																	4			
A	D-44						4	1			7																	12			
A	D-45						1	1			1																	3			
A	D-46						3				6																	9			
A	D-48							1			9				1	1												12		3	1
A	D-49										1																	1			
A	D-50										1																	1			
A	D-54						1				4			1														6			
A	D-55										6																	6		3	
A	D-58					1	3				5																	9		13	
A	D-59										1			1														2			
A	D-61	1					3							1	1													6		7	5
A	D-62		1				1				2																	4			
A	D-63						1				5			1														7			
A	D-64						1				9	1		1														12			
A	D-65					1	1	1			9			1														13			
A	D-66					1					4																	5			
A	D-67					1					1							1										3			
A	D-69					2					1			1														4			
A	D-71										1	1																2			
A	D-72					1																						1		2	
A	D-81							3						1														4			
A	D-83										2																	2			
A	D-89					1					4																	5			
A	D-90										1																	1			
A	D-91										1																	1			
A	D-93					1	3				19																1	24			
A	D-96						1	3			3																	7		2	
A	D-97										1																	1			
A	D-102										1																	1			
A	D-103										3																	3			
A	D-104				2			2			8																	12			
A	D-110				1		1	3			7																	12			
A	D-114										2																	2			
A	D-116						2	2																				4			
A	D-118										1																	1			
A	D-119										2																	2			
A	D-120							1																				1			
A	D-121									1	3																	4			
A	D-123						1				9																	10			
A	D-124										4																	4			
A	D-125					2		1			2																	5			1
A	D-127																											0		3	
A	D-128														2													2		1	
A	D-129						4	1			6				2													13			
A	D-132					2	2	2			4									1								11		3	
A	D-133					1	1							1														3			
A	D-135																		2									2			
A	D-136							2			5																	7			
A	D-138		1																									1			
A	D-143										3																	3			
A	D-145							1																				1			
A	D-146										4																	4			
A	D-147					1	1				10																	12			

槍石: 槍状石器　Ｓｃ: スクレイパー　ＲＦ: リタッチドフレイク　打斧: 打製石斧　三錐: 三角錐石器　部磨: 部分研磨石器　棒状: 棒状礫
多孔: 多孔石　磨斧: 磨製石斧　扁平: 扁平礫　自然: 自然礫

Tab. 19　石器一覧表（２）

区	遺構名	石鏃	石錐	石匙	槍石	Sc	RF	打斧	礫器	三錐	剥片	石核	原石	磨石	凹石	石皿	部磨	敲石	台石	砥石	石棒	棒状	多孔	磨斧	扁平	礫片	破片	計	焼礫	砕片	自然
A	D-148					1		2			10																	13			
A	D-149					1		1			3																	5			
A	D-151					1					4																	5			
A	D-152					3	2				8																	13			
A	D-154						1				7				1													9	3		
A	D-155										3			1														4			
A	D-161					1					1																	2			
A	D-163															1												1			
A	D-167					1					4																	5			
A	D-168					1	1	1			8																	11			
A	D-169						3	4			5									1								13			
A	D-171					2	1	2			5																	10			
A	D-177										1																	1			
A	D-178					1	1	1			8																	11			
A	D-180	1									2																	3			
A	D-181					2	1				2																	5			
A	D-183										1																	1			
A	D-184										2																	2			
A	D-186						1																					1			
A	D-189													1						1								2			
A	D-191					2					6																	8			
A	D-192						2				5																	7		1	
A	D-193						1				3																	4			
A	D-194		1					3			3																	7			
A	D-195														1													1			
A	D-198										1				1													2			
A	D-199										1																	1			
A	D-200					1	3	1			12									1								18			
A	D-208					1					5																	6			
A	D-211						1																					1			
A	D-212					2	3	1			12				1													19			
A	D-218						1				3			1	1	1				4			1					12			
A	D-220																						1					1			
A	D-225					1		1			2																	4			
A	D-228					3	2	8			24				1							1						39			
A	D-229										7																	7			
A	D-230					1	2				11				1													15			
A	D-231					3	4				5																	12		2	
A	D-232							1			5									2								8		1	
A	D-234										2																	2			
A	D-235	1					2	2			3																	8			
A	D-238							2			2																	4			
A	D-239	1									1																	2			
A	D-244					2																						2			
A	D-245										4																	4			
A	D-246						1	1			1																	3			
A	D-260																											0			1
A	D-263													1														1			
A	P-015						1																					1			
A	P-042						1																					1			
A	P-045										1																	1			
A	P-085										2																	2			
A	P-123				1						3																	4			
A	P-132										2																	2			
A	P-137							1			1																	2			
A	P-140										3																	3			
A	P-143										1																	1			
A	P-173					2					4																	6			
A	P-180						1																					1			
A	P-189						1					1																2			
A	P-190										1																	1			
A	P-192										2																	2			
A	P-217										1																	1			
A	P-230													1														1			
A	P-231										1					7												8			
A	P-232										1																	1			
B	遺構外					1	1				2																	5	1		1
A	遺構外					10	6	6			22			1														45			
A	確認面					6	9	21			23			4	1													64		4	
A	調査区					3	1	1			39																	44			
A	表採					4	12	23			82	2		4		2		1	2	1				1	1			135		37	1
A	攪乱							2			4																	6			
合計		8	3	3	4	127	153	153	1	1	1,055	5	2	40	20	15	2	1	8	17	1	2	2	1	1	1	1	1,627	132	13	

Ⅵ　まとめ

縄文時代の五代南部団地地区遺跡

五代深堀Ⅰ遺跡№.２では、竪穴建物跡６軒と土坑 124 基、ピット 34 基を確認した。竪穴建物跡の時期は縄文時代中期中葉〈Ｊ－１～５〉である。土坑・ピットに関しても縄文時代中期中葉のみで構成される。

本遺跡の全体図と五代南部団地地区内の遺跡全体図に地形図を合成したものが Fig. 40 である。南部団地地区全体を時期別にみると、五代中原Ⅰ・Ⅱ遺跡〈⑩・⑭〉と五代山街道Ⅰ遺跡〈⑯〉では、縄文時代前期〈関山式・諸磯ａ～ｃ式期〉の竪穴建物跡が検出されている。五代伊勢宮Ⅱ・Ⅴ遺跡〈⑦・⑫〉では、縄文時代前期〈黒浜式・諸磯ａ～ｃ式期〉と中期後葉〈加曽利ＥⅠ・Ⅱ式期〉の竪穴建物跡が集中する。本遺跡が立地する台地の東側では、五代深堀Ⅰ・Ⅱ遺跡〈⑤・⑨〉で縄文時代中期後葉〈加曽利ＥⅢ・Ⅳ式期〉の竪穴建物跡が２軒検出された。これらの分布状況から、本遺跡を含めた縄文時代中期中葉の集落と、前期および中期後葉の集落が占地を画していたことが指摘できよう。なお、縄文時代前期の集落は本遺跡西側を走る谷の両岸に立地し、中期後葉の加曽利ＥⅢ・ＥⅣ式期の集落は、同じ台地の中央部に立地する傾向にある。

本遺跡で検出した竪穴建物跡の配置は、北西側から南東側に弧状を呈し、その内側に土坑群･ピット群がある。本遺跡西側に位置する五代伊勢宮Ⅳ・Ⅵ遺跡〈⑪・⑬〉においても、縄文時代中期中葉の竪穴建物跡と土坑群が弧状に検出されており、本遺跡を含め同一の環状集落の可能性が高い。つまり、本遺跡は南北 230 ｍ×東西 100 ｍの長大な環状集落の北東縁に位置する。ただし、本遺跡および五代伊勢宮Ⅳ遺跡と五代伊勢宮Ⅵ遺跡の竪穴建物跡と土坑群の分布は８の字状を呈しており、近接した２つの環状集落が存在していたと捉えることも可能である。あるいは、２つの環状集落が統合した形で大規模な集落を形成していた可能性も考えられるだろう。

五代深堀Ⅰ遺跡№.２における縄文時代中期中葉の出土遺物

ここで扱う縄文時代中期中葉の出土遺物は深鉢と浅鉢である。これらの出土遺物には様々な型式の特徴がみられたため、型式名を断定することは避けた。しかし、型式における文様構成をあげるならば、阿玉台Ⅰｂ・Ⅱ・Ⅲ式、勝坂Ⅱ・Ⅲ式、新巻類型、焼町類型、三原田類型、大木８ａ式の特徴がみられた。なかでも阿玉台Ⅰｂ・Ⅱ式、勝坂Ⅱ・Ⅲ式、焼町類型の特徴を持つものは比較的型式として捉えやすい印象が見受けられた。これに対して大木８ａ式の特徴は、型式としては捉えにくいものの、その影響は強いといえるものが多くみられた。

本遺跡における異なる型式の共伴事例としては､深鉢では勝坂式と焼町類型､浅鉢では阿玉台式と勝坂式のセット関係が多い〈J-4、D-38 ほか〉。なお、浅鉢の形態については、第 27 回縄文セミナーにおいて、外反系浅鉢は阿玉台式系、内折系浅鉢は勝坂式系としてとらえられており、本遺跡出土の浅鉢についてもこれに従った。

ここで､浅鉢の共伴事例として､Ｊ－４号竪穴建物跡で出土した阿玉台系の浅鉢〈J4-10〉と北陸系の浅鉢〈J4-13〉を提示しておきたい。

群馬県内での北陸系の浅鉢の出土例は、渋川市の白井大宮遺跡〈230 号土坑〉、吉岡町の沼南遺跡〈95 号住居、319 号土坑〉の浅鉢があげられる。いずれも内折系で、口縁部から屈折部にかけて沈線や刻み、体部には縄文が施文される。これらは、北関東における内折系浅鉢の異系統（３群）に分類され、阿玉台Ⅱ・Ⅲ式期に並行すると指摘されており（福田ほか 2014)、糸魚川より東側の地域に分布の中心の持つと指摘されている。

これに対し、Ｊ－４号竪穴建物跡から出土した北陸系の浅鉢〈J4-13〉は、口縁部に横位の平行沈線と弧状文と推定される文様があり、体部は無文で、色調は灰白色を呈する。これらの特徴は、糸魚川より西側の地域に分布する浅鉢にみられるものであり、阿玉台Ⅲ・Ⅳ式期に並行すると捉えられている。糸魚川以西での類例としては、富山県朝日町の境Ａ遺跡、富山県氷見市の上久津呂中屋遺跡出土の浅鉢があげられる。

これらのことから、Ｊ－４号竪穴建物跡で出土した浅鉢は、糸魚川より西側に地域から搬入された可能性が高い。また現段階では、群馬県内において糸魚川以西の特徴を持つ浅鉢の出土例は報告されていない（第 27 回縄文セミナー資料集による)。

今回の調査で出土した浅鉢〈J4-13〉は、本遺跡を含めた周辺遺跡での阿玉台Ⅲ・Ⅳ式期における他地域からの土器搬入を捉えるうえで、重要な資料といえよう。

奈良・平安時代の遺構と遺物

五代深堀Ⅰ遺跡№.２では、竪穴建物跡６軒、掘立柱建物跡１棟、鍛冶遺構１基を確認した。これらの遺構を年代順にみると、Ｈ－２･Ｈ－６〈８世紀中頃〉、Ｈ－１〈８世紀後半〉、Ｔ－１〈９世紀前半〉、Ｈ－３･Ｈ－５〈９世紀後半〉、Ｈ－４〈９世紀末～ 10 世紀初頭〉となる。Ｂ－１は出土遺物が少量のため時期決定の確証が得られないが、埋没土や位置関係からＨ－２～６のいずれかと同時期に帰属するものと想定される。

出土遺物は､銅製丸鞆〈Ｈ－１〉や転用硯〈Ｈ－２〉､埼玉県南比企産の須恵器坏〈Ｈ－２〉や灰釉陶器〈Ｈ－３・Ｈ－５〉、墨書土器〈Ｈ－４・Ｈ－５〉のほか刀装具や砥石〈Ｈ－５〉などがある。

そして、本遺跡における奈良・平安時代の特異な要素として、鉄製品の鍛錬に関わっていたとみられるＴ－１号遺構があげられる。Ｔ－１号遺構から出土した鍛冶滓は 43kg であった。また、遺構内の土坑から検出した微細遺物（砂鉄・鍛造剥片および粒状滓）は、それぞれの土坑でその比率が異なること確認した (Fig. 20)。Ｄ２は砂鉄が最も多く、上面に碗型鍛冶滓や金床石の端材が集中していた。Ｄ３は鍛造剥片・粒状滓が最も多く、炉の南側に位置する。これらのことから、Ｄ２は排滓場もしくは鍛錬を行う「素材」を保管する場所あるいは砂鉄を溜めるための土坑、Ｄ３は鍛冶炉の近距離に位置していたなんらかの作業スペースであった可能性が高い。

Ｄ１はほかの土坑とはやや異なり、白色粘質土層（基本土層Ⅵ層）まで掘り込まれ、規模は遺構内で最も大きい。また、底面は平坦で堅く締まっており、土坑北東側の床面では再結合滓の塊が出土している。

推測の域を出ないが、炉やほかの土坑の性格を考慮すると、Ｄ１は作業に関わる工人が作業をするために入っていた可能性が考えられる。現地調査の段階で、実際にＤ１の内部に入って再現をしてもらったところ、ややふくよかな成人男性が腕を振り上げることには問題のない規模であった。

五代南部団地内では、本遺跡と五代伊勢宮Ⅵ遺跡〈⑬〉で鍛冶関連遺構が１基づつ検出された。北側のやや高所に位立地する芳賀工業団地遺跡では、製鉄・精錬関連の遺構が検出されている。五代南部団地内で検出された遺構は、芳賀工業団地遺跡とは異なり、製錬ののち精錬した鉄を、道具として鍛えるための施設であった。

五代南部団地周辺では、９世紀前半～ 10 世紀中葉にかけて鉄製品が出土する竪穴建物跡の軒数が増加する。なお、五代木福Ⅱ遺跡〈③〉の調査で、奈良・平安時代の竪穴建物軒数は８世紀後半から増減を始め、９世紀前葉～後葉に最も増加傾向となり、10 世紀初頭から減少することが指摘されている。これらのことから、本遺跡で検出された奈良・平安時代の遺構は周辺の集落動向の過渡期に該当する。出土遺物等を考慮すると、Ｈ－４・Ｈ－５なども工房的な性格を持った竪穴建物であった可能性も考えられる。

参考文献
『芳賀東部団地遺跡Ⅱ』1988　芳賀団地遺跡群第２巻　前橋市教育委員会
『房谷戸遺跡Ⅰ』1989　群馬県埋蔵文化財調査事業団
『縄文土器大観』1989　小林達雄編
『群馬県史　通史編１　原始古代１』1990　群馬県史編さん委員会
『芳賀西部団地遺跡』1991　芳賀団地遺跡群第４巻　前橋市教育委員会
『白井大宮遺跡』1993　群馬県埋蔵文化財調査事業団
『芳賀北部団地遺跡Ⅰ』1994　芳賀団地遺跡群第５巻　前橋市教育委員会
『鳥取福蔵寺遺跡』1997　前橋市埋蔵文化財発掘調査団
『鳥取福蔵寺Ⅱ遺跡』1998　前橋市埋蔵文化財発掘調査団
『沼南遺跡』1999　群馬県埋蔵文化財調査事業団
『富田下大日Ⅰ遺跡』2000　前橋市埋蔵文化財発掘調査団
『道訓前遺跡 』2001　北橋村教育委員会
『横沢芳山遺跡・横沢大塚遺跡』2002　群馬県勢多郡大胡町教育委員会
『考古学大観６　弥生・古墳時代　鉄・金銅製品』2003　小学館
『三原田諏訪上遺跡Ⅰ』2004　群馬県勢多郡赤城村教育委員会
『三原田諏訪上遺跡Ⅲ　－縄文時代中期編－』2005
群馬県勢多郡赤城村教育委員会
『南原間遺跡 』2007　群馬県埋蔵文化財調査事業団
『西野原遺跡（５）（７）』2010　群馬県埋蔵文化財調査事業団
『五代砂留遺跡群』2012　群馬県埋蔵文化財調査事業団
『芳賀東部団地遺跡』2013　群馬県埋蔵文化財調査事業団
『元総社蒼海遺跡群（40）・(46)・(49)・(50)』2013　前橋市教育委員会
『芳ヶ入遺跡 』2013 株式会社井草実業・有限会社毛野考古学研究所
『堀米Ａ遺跡（第３・４次調査)』2013
東海村・東海村教育委員会・有限会社毛野考古研究所
『上久津呂中屋遺跡発掘調査報告』2013
富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所
『元総社蒼海遺跡群（40）（46）（49）（50)』2013　前橋市教育委員会
『滝ノ上遺跡 』2015　常陸大宮市教育委員会
論文・資料集
『古代の土器研究－律令的土器様式の西・東６　須恵器の製作技法とその変換－』
2001　古代の土器研究会第６回シンポジウム
『第 12 回　足もとに眠る歴史展　撚りと学びの考古学』第 12 回足もとに眠る歴　史展示解説書　2003　東海大学地内遺跡調査団，東海大学文学部展示室運営　委員会
『第 27 回縄文セミナー　縄文中期浅鉢形土器の諸様相』2014　縄文セミナーの会
日沖剛史・福田貫之・淺間陽 2014『北関東における中期浅鉢形土器の様相』
「第 27 回縄文セミナー　縄文中期浅鉢形土器の諸様相」2014　縄文セミナーの会
山岸洋－2014『新潟県上越以西における中期浅鉢形土器の様相』「第 27 回縄文セミナー　縄文中期浅鉢形土器の諸様相」2014　縄文セミナーの会
五代南部団地地区　発掘調査報告書
『五代木福Ⅱ遺跡・五代深堀Ⅰ遺跡』2000　前橋市埋蔵文化財調査発掘団
『五代江戸屋敷遺跡』2001　前橋市埋蔵文化財調査発掘団
『五代竹花遺跡・五代木福Ⅰ遺跡・五代伊勢宮Ⅰ遺跡』2001
前橋市埋蔵文化財調査発掘団
『五代伊勢宮Ⅱ遺跡』2001　前橋市埋蔵文化財調査発掘団
『五代伊勢宮Ⅲ遺跡・五代深堀Ⅱ遺跡・五代中原Ⅰ遺跡・五代伊勢宮Ⅳ』2002
前橋市埋蔵文化財調査発掘団
『五代伊勢宮Ⅴ遺跡』2002 前橋市埋蔵文化財調査発掘団
『五代伊勢宮Ⅵ遺跡・五代中原Ⅱ遺跡』2003　前橋市埋蔵文化財調査発掘団
『五代中原Ⅲ遺跡・五代山街道Ⅰ遺跡・五代山街道Ⅱ遺跡』2004
前橋市埋蔵文化財調査発掘団
『五代竹花Ⅱ遺跡・五代木福Ⅲ遺跡』2004　前橋市埋蔵文化財調査発掘団
『五代木福Ⅳ遺跡・五代深堀Ⅲ遺跡』2005　前橋市埋蔵文化財調査発掘団
『五代伊勢宮遺跡（１)』2007　前橋市埋蔵文化財調査発掘団
『五代伊勢宮遺跡（２)』2009　前橋市埋蔵文化財調査発掘団

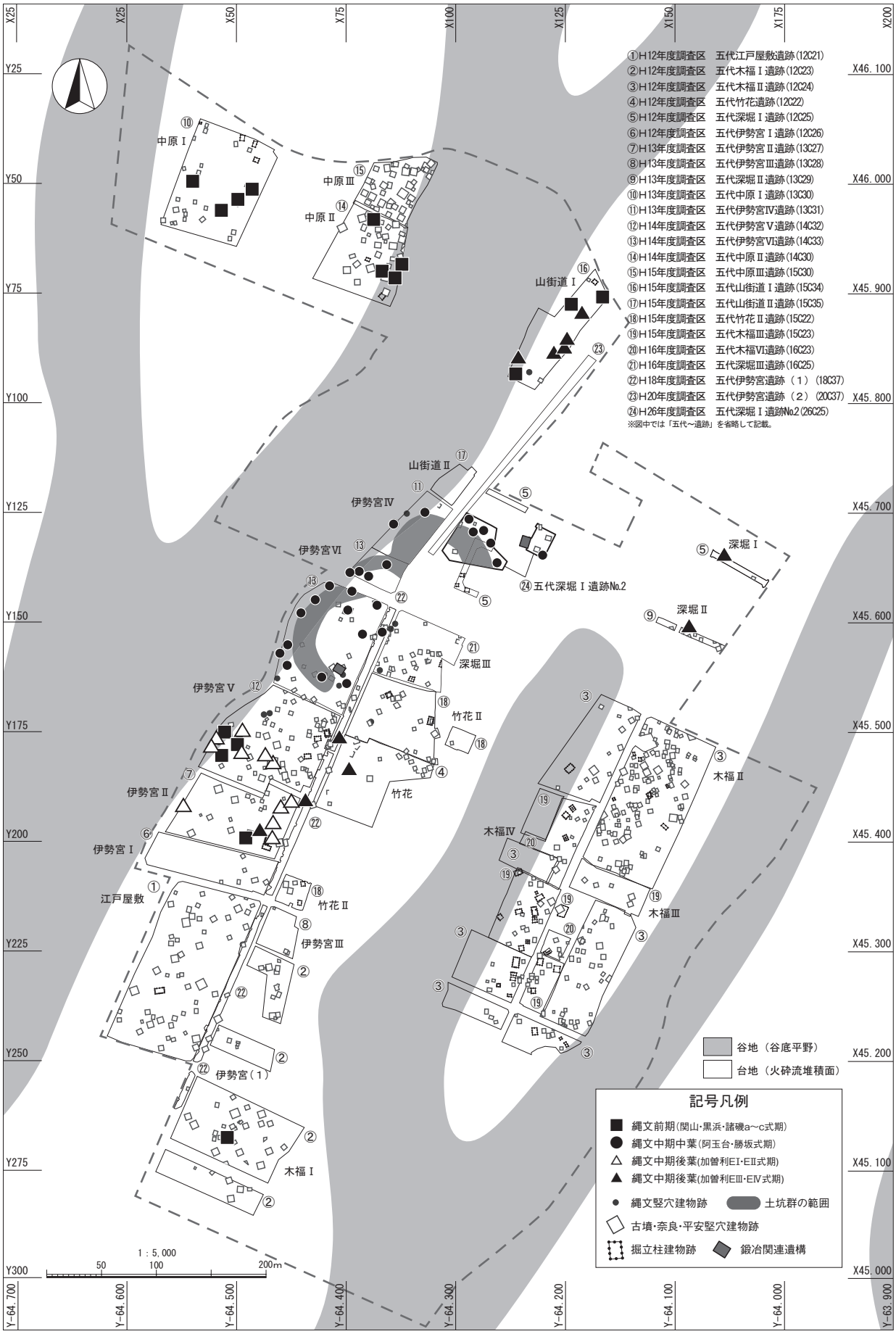


Fig. 40　五代南部団地地区　遺跡全体図〈模式図〉

抄　録

ふりがな 書名	ごだいふかぼりいちいせき なんばーに 五代深堀Ⅰ遺跡 №.２
副書名	五代南部団地地区計画区域内工場誘致に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻　次	
シリーズ名	
編著者名	藤坂 和延　　小此木 真理
編集機関	有限会社毛野考古学研究所 〒379-2146　群馬県前橋市公田町 1002 番地１　　TEL　027-265-1804
発行機関	前橋市教育委員会 〒371-0853　群馬県前橋市総社町３-11- ４　　TEL　027-280-6511
発行年月日	西暦 2015 年３月 10 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	（世界測地系）				
ごだいふかぼりいちいせき 五代深堀Ⅰ遺跡 なんばーに №.２	ぐんまけんまえばししごだいまち 群馬県前橋市五代町 1081 番地１	10201	26C25	36° 24′ 44″	139° 6′ 47″	20140707 ～ 20150310	2,290 ㎡	工場用地 造成

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項
五代深堀Ⅰ遺跡 №.２	集落跡	縄文時代	竪穴建物跡 土坑 ピット	５軒 124 基 34 基	縄文土器 石器	
		奈良・平安時代	竪穴建物跡 鍛冶関連遺構 掘立柱建物跡 溝状遺構 ピット 道路状遺構 土坑（時期不明）	６軒 １基 １棟 ６条 34 基 ２条 99 基	土師器 須恵器 鉄製品 灰釉陶器 銅製品 石製品 鍛冶滓	

五代深堀Ⅰ遺跡№.２

五代南部団地地区計画区域内工場誘致に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

平成 27 年２月 23 日　印刷
平成 27 年３月 10 日　発行

発行／前橋市教育委員会
群馬県前橋市総社町３-11- ４
編集／有限会社毛野考古学研究所
印刷／朝日印刷工業株式会社